一、先ツ日本ノ連盟脱退通告ニ対シ回答ノ必要有リヤ否ヤヲ議ス議長「ランゲ」ハ事務局一部ノ意向ヲ容レ回答ノ要有ル事ヲ主張シ「レスター」(愛蘭)ノ如キハ此ノ際規約第十条ヲ援用シ日本ノ注意ヲ喚起ス可シト論シタルモ結局何等回答セサル事ニ決ス但シ回答セサル事ニ依リ日本ノ脱退通告ニ現レタル主張ヲ黙認スル形トナリテハ面白カラストノ論有リ依テ日本ノ主張ヲ是認シタルモノニ非ストノ留保ノ下ニ回答セサル事ニナリ其ノ旨「コミュニケ」ニテ発表スルニ決定

二、次イテ往電第三六号(三七〇文書)ノ二及三ノ小委員会ノ事業ニ付審議ス満州国不承認政策ノ実行方法ニ付満州国駐在領事ヲ如何ニス可キヤ又満州国トノ経済的関係ヲ如何ニ調節ス可キヤ等幾多ノ困難ナル問題有リ是等ノ考究ハ「イースタ」休暇後ニ延期スル事トス又満州国ノ万国郵便連合加入問題ニ付事務次長「ピロチ」ノ手ニテ一応考究シタルカ満州国ヨリ加入申込有リタル際果シテ拒絶シ得ルヤ否ヤ法律上モ疑問ヲ生シタルヲ以テ更ニ事務局ニ於テ慎重研究ノ上小委員会ニ報告セシムルニ決セリ

三、武器禁輸問題ニ付南米ニ於ケル紛争国ニ対スル禁輸ニ付テスラ未タ各国ノ歩調揃ハサル此ノ際ナルヲ以テ之カ審議ヲ「イースタ」休暇後ニ延期スル事ニ決セリ

土ヲ除ク在欧米各大使ニ転電シ瑞西ニ暗送セリ

事項二　国民政府との交渉

1

昭和7年10月5日　在中国有吉公使より内田外務大臣宛

最近の日中関係に関する羅文幹、朱家驊の須磨に対する談話について

上海　10月5日付
本省　10月11日着

機密公第二九七号

昭和七年十月五日

在中華民国
特命全権公使　有吉　明(印)

外務大臣伯爵　内田　康哉殿

最近日支関係ニ関スル羅文幹、朱家驊ノ談話報告ノ件

本使国書捧呈ノ為南京出張ノ際随行ノ須磨書記官ニ対シ外交部長羅文幹及教育部長朱家驊ノナシタル談話ハ時局柄参考トナル点尠カラスト被存ニ付会談内容左ノ通報告申進ス

一、羅文幹ノ談話

(一)九月二十九日須磨挨拶ノ為羅部長ヲ訪問ノ際先ツ須磨ヨリ日支関係ノ現状ニテハ正式会談ハ種々ノ困難ヲ伴フヘク現状打開ノ為ニハ友人関係ニ依ル非公式会談ノ外良法ナシト思考セラルルニ付今後ハ随時貴部長トモ隔意ナキ意見ノ交換ヲ致シ度其ノ内ニハ双方ノ誤解モ氷解スルニ至ルヘシト述ヘタルニ

(二)羅文幹ハ自分ハ在満四年ノ経験ヲ有シ而モ張作霖時代ニ司法部幹部並ニ審計院長ヨリ外交総長トナリタルヲ以テ東三省当局者ノ心理ハ相当承知シ居ル積ナリ彼等ハ排日ト云フヨリ寧ロ「イグノラント」ナリ例ヘハ先年(昭和三年)北京政府時代奉海線貨車引渡問題ノ際ニ於ケル交通総長常蔭槐又ハ楊宇霆等ノ態度ヨリ見ルモ九、一八事件ハ当時既ニ発生シ得ヘカリシモノニテ満州ニ関スル限リ支那側ニモ「ヴァイス」多々アリシカ故ニ客年来日本ノ執リ来レル行動ニハ多少ノ「ヂャスティフィケーション」ヲ見出シ得ヘシト自分(羅)

ハ考ヘ居レリ只如何ニセン日本側ニモ無謀ノ行動多ク殊ニ支那側ニ対シ反省ト直接交渉ノ機会ヲ与ヘサリシハ遺憾ナリ忌憚ナク云ヘハ支那側ノ「ヴァイス」ニ報ユルニ「ヴァイス」ヲ以テセラレタルノ観アリ従ツテ先ツ双方虚心坦懐ニ此ノ間ノ経緯ヲ認識スルコト必要ナリト答ヘタリ

㈢右ニ対シ須磨ヨリ日本側ニ「ヴァイス」アリト云ハルルハ甚シキ曲解ナリ、在満特殊権益擁護ノ為ノ正当防衛以外何等逸脱ノ行為ニ出テサリシハ客年来ノ我方行動ニ照シ明カナルノミナラス将来ニ於テモ特殊権益ノ擁護以外何等他意ナキハ帝国政府ニ於テ幾度カ声明セル処ナリ日本ハ満州問題ニ関シ過去ニ於テ多大ノ侵害ヲ被リタルノミナラス現ニ幾多ノ犠牲ヲ払ヒツツアリ即チ日本ハ満州ニ於ケル事態ノ為異常ナル財政経済上ノ不利益及社会上ノ不安ヲ忍ヒ且ツハ莫大ナル資本ト無数ノ人命ト将タ又眼ニ見エサル幾多ノ犠牲トヲ払ヒタルカ右ハ何レモ東洋ノ平和ノ為ニシテ満州ヲ以テ東洋ノ楽土トナサントスル日本人ノ国民的信念ハ断シテ渝ルコトナキカ故ニ此ノ点ニ対シテハ貴部長ニ於テモ充分ノ考慮ヲ加ヘラレ度、徒ニ連盟又ハ某国等第三者ニ依頼スルコトヲ罷メ一日モ早ク日支両国ノ協力ニ依ル東亜ノ大同ヲ実現セラレ度シ此ノ間ノ諒解ニシテ成立センカ瑣末ノ点ハ自ラ釈然タルニ至ルヘシト説明セリ

㈣羅部長ハ之ニ対シ御話ノ次第ハ極メテ良ク諒解セリト答ヘタル趣ナルカ二十九日夜羅ノ招宴ニ於テ劉次長ヨリ須磨ニ対シ羅部長トノ御会談ノ内容ハ部長ヨリ承リタルカ御趣旨ハ大ニ結構ナレハ今後共此ノ種友人トシテノ会談ノ方法ニヨリ折衝ヲ続ケ現状ノ打開ニ資シタシト申出ツル処アリ又三十日羅ノ求ニ依リ須磨同部長ヲ往訪シタルニ羅ハ昨二十九日会談ノ顛末ハ徐謨及劉崇傑ニモ伝ヘ置キタルカ更ニ此ノ趣旨ニテ今後頻繁ニ折衝シ度ク特ニ「リットン」報告発表後成ルヘク早目ニ会見シ度シト申出テタル由ナルカ羅部長ハ本使ニ対シテモ須磨トノ会談ノ次第ヲ語リ同様今後非公式会談ノ継続ヲ希望スル処アリタリ

㈤要之羅ノ須磨ニ対スル談話ハ本使カ南京滞在中得タル印象ニ徴シ大体ニ於テ蔣介石等国民政府首脳部ノ意見ヲ反映スルモノト見ルコトヲ得ヘク而シテ羅ノ地位ハ勿論今後永キヲ保障シ難キモ其ノ態度ハ孫科カ九月二十六日須磨ニ対シ談話（既電）セル如ク支那ハ日本トノ一戦ヲサヘ辞スルモノニ非ス蓋シ戦敗ルルモ日本ハ四億ノ民ヲ如何トモナシ難ク否寧ロ上海一港ノ占領ヲサヘ永続シ得ルモノニ非スト云フカ如キ広東派ノ自暴自棄的気分トハ相当径庭アリ兎ニ角南京当路ノ対日態度ノ一斑ヲ窺知シ得ヘキカ

二、朱家驊ノ談話

㈠教育部長朱家驊ハ御承知ノ通排日的ト云フヨリ寧ロ排外家ニシテ事アル毎ニ学生等ヲ煽動シ国権回復ヲ叫ヒ居ル人物ナルカ三十日須磨ニ対シ満州ニハ勿論満州人アルモ右ハ極メテ少数ニシテ多数ハ漢人ナリ即チ満人ハ主トシテ京津方面ニ居住シ居レリ等彼一流ノ事例ヲ挙ケテ日本ノ満州国創造ハ取返シツカサル「ブランダー」ニテ東洋ノ平和ヲ危殆ナラシムルモノナリトテ持前ノ毒舌ヲ吐ケルカ結局須磨ヨリ前記羅ニ対スルト同様ノ説明ヲ為セルニ朱モ次第ニ打融ケ実ハ自分（朱）ハ数年前ヨリ蔣介石ニ対シ独逸顧問ノ傭聘ヲ慫慂シ来レルカ（朱ノ紹介ニテ国民政府ニ入レル独逸軍事顧問ハ既ニ百数十名ニ達セル由）軍部殊ニ日本留学生出身者中之ニ反対スル者多ク困リ居タルカ最近日支事変以来ハ空気一転却テ独逸人ヲ歓迎スル様ニナリ自然物（武器ヲ指スカ）及商品モ漸次独逸ヨリ入リ来リ此ノ形勢ニシテ継続センカ他日日支関係回復スレ共由々敷障碍ヲ貽ス虞アリ此ノ点ヨリ見ルモ両国ノ善隣関係ハ一日モ早ク復興セシムルノ要アルヘシト語レル趣ナリ

㈡右朱家驊ノ談話ニ関連シ三十日軍政部長何応鈞（皖一郎）ハ田代武官ニ対シ同様独逸勢力ノ侵潤ヲ述ヘ最近ハ全ク独逸顧問ニ対スル悪口ヲ聞カサル様ニナレリト語リ又陸軍大学校長楊杰モ同武官ニ対シ独逸教官ハ元来地図モ読メス講義録モ碌ニ作製出来ヌ始末ニテ甚タ不評判ナリシカ最近日支関係ノ悪化以来次第ニ独逸人ニ対スル不評モ少クナリ此ノ儘推移センカ軍器等モ次第ニ独逸品ヲ使用スルコトトナリ軍政部内ニ陰然タル勢力ヲ形成スルニ至ルヘキヲ虞ルト語レル趣ナリ

本信写送付先　北平、南京、駐満全権

2　昭和7年10月18日　在上海有吉公使より内田外務大臣宛（電報）

満州問題に対する胡漢民および蔣介石等の態度に関する陳中孚の内話について

上海　10月18日後発
本省　10月18日後着

第一二五一号（暗）

往電第一一九八号ニ関シ[1]

数日前広東ヨリ帰レル陳中孚カ十八日須磨ニ為セル時局談大要左ノ通

(一)胡漢民ニハ数回面会シタルカ胡ハ失地ノ回復ハ後世子孫ニ委セ満州問題ニハ当分触レサル事トシ先ツ河北ヲ固メ日本ノ此ノ上ノ侵略ヲ防ク事得策ナリト考ヘ居ルモ公然此ノ主張ヲナセハ激烈ナル反対ニ遭フノミナラス日本側ト話合ヲナサントスルモ今ノ処適当ノ相手ヲ見出シ難シトナシ相当困惑シ居レリ

(二)北支ニ於ケル馮玉祥ノ行動ニ付テハ胡ニモ充分ノ諒解アリ且韓復榘ノ行動ニ付陳済棠モ場合ニ依リテハ実力援助ニ吝ナラサル用意有リ

(三)広東側カ反蔣ナルハ事実ナルモ今ノ処独立ヲ宣言シ又ハ実力ヲ以テ反蔣行動ニ出ツル企ハ無ク専ラ香翰屏ヲシテ勦共ヲ進メシムル計画ナルカ右共匪ノ討伐ハ軍費ノ豊富ナルト統率ノ行届キ居ル事又共勢ノ情勢ニ通暁シ居ル等ノ関係ヨリ相当ノ成功ヲ見セツツアリ

(四)[2]蔣介石ハ広東派ノ籠絡及共匪ニ対スル作戦上宋子文等ヲシテ頻リニ汪兆銘ヲ慰留セシメ居リ汪ノ外遊等ノ場合ニモ胡カ北上シテ蔣ト合作スル筈モナク又現ニ胡ハ孫科ノ帰滬ニサヘ不賛成ナリシ程ニテ孫等ノ南京入ニハ反対ナレハ（但シ張恵長陳策等ハ合作ヲ焦リ居レリ）結局ハ独（裁）政治ヲ決行スヘク頻ニ準備ヲ整ヘ居レリ

(五)蔣介石ハ胡漢民同様又ハ夫レ以上ニ満州ニハ当分見切ヲ付クル必要アルヲ熟知シ居リ藍衣社宣言ノ如キ空気ノ醸成サレツツアルハ事実ナルカ其部下将領ニハ近視眼者流多ク（例ヘハ何応欽夏斗寅）飽ク迄日本ニ抵抗セント策シ居レハ蔣モ容易ニ其意ヲ発表シ得ス又現ニ藍衣社ニ対抗スル力社（中国青年党）及智社（新国民党ノ運動胡漢民系）等ノ反対運動アリ蔣暗殺ノ計画サヘ進メラレ居ル程ナレハ余程ノ機会到来セスンハ大局ノ展開ハ困難ナルヘシ

上海ニ転報セリ

北平、満、天津、青島、南京、済南、漢口、広東ニ転電セリ

広東ヨリ香港ヘ転報アリタシ

3　昭和7年10月18日　在南京上村総領事代理より内田外務大臣宛（電報）

国民政府教育部の救国教育案について

南京　10月18日前発
本省　10月18日後着

第七〇〇号

十八日ノ新聞ニ依レハ教育部ハ十七日通令ヲ以テ各地教育機関ニ対シ要領左ノ如キ救国教育案ノ設立実施方命令セル趣ナリ（右案ハ中国社会教育社年会ノ決議ニ依ルモノナル由）

一、各社会教育機関ハ其地ノ民衆ヲ督励指導シ東北義勇軍ニ対シ精神的及物質的援助ヲ与フルコト

二、国貨ノ提唱ハ仇貨抵制ノ根本弁法ナルニ付国貨展覧会ヲ開キ又ハ小規模ノ国貨製造ヲ提唱スル等各種ノ方法ヲ講スルト共ニ民衆ヲシテ仇貨ヲ切実ニ識別セシメ且奸商ニ対シテハ厳重ナル制裁ヲ加フルコト

三、国難宣伝隊ニ対シテハ国難宣伝修道ヲ行ヒ国難ニ関スル宣伝ヲ普及スルコト

四、各図書館教育館ハ力メテ救国ニ関スル材料ヲ設備スルコト

五、各博物館民衆教育館及其他ノ社会教育機関ハ国恥地図東三省ノ物産表及飛行機ノ模型等救国ニ関スル材料ヲ増加設備スルコト

六、救国ニ関スル民衆向読物ヲ出版配布スルコト

七、支那ノ国恥及各国ノ復興ニ関スル事蹟ヲ簡明ニ編纂供給シ民衆ヲシテ救国ノ必要ト責任ヲ知ラシムルコト

八、民族精神ヲ発揚スルニ足ル歌及東北回収ノ歌ヲ作リ全国民衆ニ配布スルコト

九、新劇、活動写真、幻燈、蓄音機、「ラジオ」等ニ救国材料ヲ応用スルコト

十、其他有効ナル各種ノ方法

委細郵報

満ヨリ奉天ヘ転報アリタシ

支、北平、満、長春、天津、青島、済南、漢口、広東、福

州ヘ転電セリ

4　昭和7年10月26日　在中国有吉公使より内田外務大臣宛
中国側要人の動向に関する坂西中将、鈴木中佐等の観察について

上海　10月26日付
本省　11月12日着
（昭和七年十一月十二日接受）

機密公第三三八号

昭和七年十一月二十六日

在中華民国
特命全権公使　有吉　明（印）

外務大臣伯爵　内田　康哉殿

時局ニ対スル支那側ノ空気報告ノ件（極秘）

日支関係回復方ニ関スル羅文幹、宋子文、劉崇傑等支那側要人ノ公使館側ニ対スル談話ハ屢次報告ノ通ニテ何レモ何トカシテ日支ノ友好関係ヲ回復シ度シト内心焦慮シ居ルヤニ見受ケラルル処最近来滬セル坂西中将（利八郎）及陸軍省軍務局鈴木貞一中佐並ニ最近来滬セル三井大村（得太郎）等カ支那側ト接触シテ得タル日支関係ニ関連スル支那要人ノ意見又ハ観察トモ云フヘキモノ何等御参考迄左ノ通報告申進ス

一、坂西中将等ヲ中心トスル運動

坂西中将ノ内話ニ依レハ同中将ハ先般来黄郛、張群、唐有壬、李択一等ノ旧知関係ヲ中心トシテ日支友好関係ノ回復策ニ付種々意見ヲ交換シタルカ此等支那側関係者ノ意見ハ結局若シ日本カ支那ノ面子ヲ立テ一方満州ニ対スル支那ノ主権ヲ多少認ムルト共ニ他方満州ヲシテ広汎ナル主権ヲ有スル自治国タラシムルニ同意スルニ於テハ支那側モ排日運動ヲ中止スヘク之ニ依リ両国ノ接近ヲ計リ得ヘシト云フニ在ル趣ノ処上海事件停戦交渉成立ノ前後ニ於テ報告済ノ如ク当時此等支那側関係者ハ右ノ意見ニ基キ両国関係ノ改善ヲ図ル為坂西ノ尽力ヲ請フコトトシ坂西ニ於テ本邦各方面ノ了解ヲ得ントシ居ル裡日本ノ満州国正式承認トナリ自然沙汰止トナリタル次第ニテ今回ハ坂西ヨリ事態変遷セル為支那側ノ右ノ如キ希望ハ実現困難ナル旨説示セルモ彼等ハ容易ニ納得セス李択一ハ坂西中将ヲ案内シテ南京ニ赴キ羅文幹、陳儀、劉崇傑等トノ会談ヲモ種々斡旋シタル趣ナリ（右会談ニ関シ十月十四日坂西ハ須磨ニ対シ結局羅、劉等カ日支国交恢復ノ為頻繁ニ接触ヲ続ケ度キ旨ヲ強調シ居タル外特ニ言フヘキコト無シト語リ居タル趣ナリ）然ルニ李ハ軍艦建造等ノ関係ニテ我海軍側トハ相当連絡アルカ如キモ其ノ地位ハ恰モ王長春ノ我陸軍側ニ対スルカ如ク支那側ニ対シテハ日本人トノ便利ナル連絡者タル以外サシタル根底ヲ有セサルノミナラス政治的背景ニモ乏シク現ニ同人カ表面ニ立テ居ル黄郛ノ如キモ果シテ李ト如何程ノ関係アルヤ明ナラス将又黄郛ト蔣介石トノ関係モ最近ハ多少疑問ヲ存スル次第ナリ要之李択一、王長春等ハ黄郛、張群等ヲ背景トシ支那ニ対スル善キ諒解者タル坂西中将等ヲ仲介トシテ前記ノ如キ相当妥協的ナル方針ノ下ニ関係改善方種種運動シ居ルモノノ如キモ右ハ結局李択一、王長春等カ幾分自己宣伝ノ為ニセルモノト認メラル

二、鈴木中佐ニ対スル黄郛ノ談

鈴木中佐ハ十月十五日来滬、二十二日迄当地ニ滞在シ主トシテ前記関係者ヲ中心トスル一団ト往復シタル模様ナルカ黄郛ノ鈴木ニ対スル談トシテ同人カ須磨ニ語ル処左ノ通

(一)「リットン」報告ヲ基礎トスル連盟ノ討議ハ結局連盟ニ依ル日支直接交渉ノ勧告トナルヘク支那側モ連盟ノ頼ルヘカラサルヲ知リ直接交渉ニ応スルニ至ルヘシ

(二)満州ハ日支人ヨリ成ル委員会ノ下ニ半独立国（他ニ来客アリタル時ハ自治国トモ称セル由）トナシ日支間ニ満州国ノ安全保障条約（攻守同盟トモ云ヘリ）及満州ニ関スル関税互恵条約ヲ締結ス

(三)目下排日気勢沈静シツツアルカ如ク見ユルモ右ハ専ラ連盟総会ニ対スル策略ニシテ支那ノ対日反感ハ断シテ衰ヘ居ラス

(四)若シ日支間ニ直接交渉進行中ノ風説ニテモ立タンカ交渉ハ忽チ一般ノ反対ニ会ヒ成功セサルニ至ルヘシ

(五)顔恵慶、顧維鈞、郭泰祺ハ今尚連盟第一主義ヲ奉シ居ルカ故ニ直接交渉開始ノ為ニハ先ツ之ヲ打倒セサルヘカラス

(六)日支直接交渉ヲナスニハ蔣介石ノ独裁政治ヲ実現セシムルコト必要ナルカ之カ為ニハ日本ヨリノ援助ヲ受ケ度武器及金ノ如キ物質的援助ノミナラス例ヘハ治外法権撤廃ノ宣言又ハ在支軍隊引揚ノ声明等支那大衆ニ

「アピール」スルカ如キ精神的援助ヲ与ヘラルルコト必要ナリ

三、大村(得太郎)ニ対スル支那側要人ノ談話

十月二十三日宋子文ハ大村ニ対シ日本ハ満州国ヲ成立セシメタルカ三千万ノ民衆ヲ全滅セシメサル限リ之ヲ統御スルコト困難ナルノミナラス日本カ之ニ依リ負担スヘキ犠牲ハ甚タ大ナレハ日本ハ内政上ノ関係ヨリ見ルモ数年ヲ出テスシテ満州ヲ抛棄スルノ已ムナキニ至ルヘキヲ以テ（右ニ対シ大村ハ今ヤ日本全国民ハ如何ナル犠牲ヲ払フモ目的貫徹ニ邁進スヘシトノ信念ヲ有スルニ至レルヲ以テ宋子文ノ如キ意見ヲ前提トシテ事ヲ決スルハ危険ナル旨注意シ置キタル趣ナリ）寧ロ今ノ中ニ満州ヲ支那ニ返還シテ両国関係ノ改善ニ資スルコト得策ナラスヤト語レル趣（尤モ同時ニ両国関係改善ニ付名案アリヤヲ頻ニ尋ネタルニ付大村ヨリ例ノ共同委員会案ニ言及セル処宋ハ之ニ付余リ深入リセサリシ趣ナリ）大村ヨリ館員ニ対シ内報アリタルカ右ハ宋子文ノ館員ニ対スル談話又ハ態度トハ稍々趣ヲ異ニシ居リ其ノ他大村ニ対スル張公権、劉石蓀（万国運輸公司社長）等支那実業家ノ日支時局ニ関スル意見ナルモノハ何レモ悲観的ニシテ「支那民衆ノ対日反感ハ異常ニ根強ク日本カ重大ナル譲歩ヲナスニ非サレハ日支関係ノ好転ハ到底実現セサルヘシ」ト見做シ居ル趣ナルカ右ハ或ハ支那実業界ノ意見ノ一面ヲ表スモノナルヤモ知レサルモ同時ニ我実業家連カ排日ニ因リ毀損セラレタル貿易関係ヲ急速ニ回復セント種々焦慮シ居ル弱腰ヲ見スカサレタル結果ニ非スヤトモ想像セラル

四、前記坂西、鈴木及大村等ニ対スル支那側要人ノ意見ヲ綜合スルニ何レモ支那側カ公使館側ニ対シ発表セル意見トハ異ナリ著シク強硬ナル様見受ケラルル処右ハ支那一流ノ遣ロニテ当館側ニ於テ得タル印象ニ依レハ国民政府要人ハ内心何トカシテ日支直接交渉ニ展開セント苦心シ居ルモノノ如ク結局支那側ノ「強ガリ」ニ不拘直接交渉ノ気運ハ徐ニ醸成セラレツツアルモノト認メラル従ツテ前記表面強硬ナルカ如キ支那側ノ態度ニ惑ハサレ我方ヨリ弱気ニ出ツルカ如キハ甚タ面白カラス此ノ際我方ハ一方毅然タル態度ヲ持スルト共ニ他方支那ノ排日ハ決シテ民衆ノ自由意思ニ基クモノニ非スシテ排日ニ依リ利益ヲ受ケ居ル一部実業家側将又排日ノ終熄ヲ喜ハサル一部ノ

在支欧米貿易業者等私慾ニ惑ハサレ居ル少数分子ノ煽動ニ起因スル無意識的盲動ナレハ支那自身ノ利益ヨリ云フモ速ニ排日運動ヲ中止シ日支関係ノ回復ヲ計リ以テ東亜ノ大道ニ就クコト肝要ナリトノ趣旨ヲ強調シツツ支那側カ自然ニ折レ来ルヲ待ツコトヲ要スト存シ此ノ心組ニテ接衝方然ル可ク関係者ニ説示シ置キタリ

本信写送付先　駐満全権　北平　長春　南京　天津　青島　済南　漢口　福州　広東

5　昭和7年11月7日　在広東吉田総領事代理より内田外務大臣宛（電報）

中ソ関係に関する鄒魯の新聞記者談について

広東　11月7日後発
本省　11月7日後着

第六五一号

連俄問題ニ関シ鄒魯ノ新聞記者ニナセル談話要領左ノ通

連俄連美ハ我国カ能ク日本ニ対抗シ得ルヤ否ヤニ依リ始メテ問題トナルヘキ次第ナル処中国ノ現状ヲ見ルニ僅ニ十九路軍及東北義勇軍ノ抗日ニ奮闘セル以外何等決死的救国工作ニ努力シ居ル形跡ナク徒ニ他国ニノミ犠牲ヲ強ヒテ自ラハ僥倖ヲ恃ミ連俄或ハ連美ヲ唱ヘ甚シキニ至リテハ国際連盟ノ解決ニ全然依頼シ居ルニ於テハ誠ニ之中華民族ノ一種卑劣根性ノ表現ニ非スシテ何ソ思フニ蘇連邦トシテハ日本トノ利害関係左迄尖鋭化シ居ラサル此ノ際日本ノ在満蒙特殊権益ト引換ニ自己ノ外蒙ニ於ケル権益ヲ擁護スル意味ニ於テ尠クトモ五ケ年計画完了迄ハ日本トノ正面衝突ヲ避クルニ努ムヘク従テ中国トノ復交協調ニ肯セサルハ火ヲ睹ルヨリ明カナリ今ヤ「リットン」調査団ノ提議ニヨリ東三省ヲ変形的国際共同管理下ニ置カントシ一方日本亦国際連盟ヲ無視シ朝鮮ヲ亡シタル故智ニ倣ヒ我東三省ヲ併呑セントシツツアル今日中国トシテハ絶大ノ犠牲ヲ払フ決心ヲ以テ全国ヲ挙ケテ東北義勇軍ノ失地恢復ヲ援助スルト共ニ積極的抵抗準備ヲ整ヘ右ニ依ル一切ノ犠牲或ハ国際間ニ及ホス影響ハ毫モ顧慮スルノ要ナシ若シ然ラスシテ蔣張ノ如ク不抵抗主義ヲ以テ国際連盟ニノミ依頼スルニ於テハ所謂連俄連美ノ主張ハ啻ニ一顧ニ値セサルノミナラス反テ我国人ノ無智ト劣性ヲ世界ニ暴露スルノミ云々

御参考迄

支ヨリ上海、奉天ヨリ満ヘ転報アリタシ

支、北平、南京、奉天ヘ転電セリ

6 昭和7年11月8日 在中国矢野（真）参事官より内田外務大臣宛

国民政府より東北義勇軍に対する銃器弾薬供給について

上海 11月8日付
本省 11月17日着

機密第五九九号

昭和七年十一月八日

在中華民国日本公使館

大使館参事官 矢野 真（印）

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

中央政府ヨリ義勇軍ニ対シ銃器弾薬供給ニ関スル件

本件ニ関シ当地歩兵隊憲兵分遣所ノ調査ニ依レハ南京中央軍政部ニ於テハ客月二十五日同軍政部付少佐露国人潘谷若夫（支那語名）指揮ノ下ニ多量ノ兵器弾薬ヲ有蓋貨車八輛（四〇噸二、三〇噸二、二〇噸四）ニ積載当地ニ輸送シ来リ右ノ中一部ヲ遼、吉、黒義勇軍後援会軍機処長王文彰ニ引渡シ便衣隊ヲ使用シテ東直門内北新倉弾薬庫ニ搬入シ一部ヲ熱河ニ輸送セル趣ナルカ其状況左ノ如シ

一、北新倉弾薬庫ニ搬入セシ兵器

小銃弾 一〇八万発（一箱三百発入三千六百箱）
迫撃砲弾 一万六千発（一箱四十発入四百箱）
砲弾 八百発（一箱四発入二百箱）

右ハ十月二十六日午後ヨリ同二十七日正午迄ニ安定門駅ヨリ軍用自動車六台ニテ北新倉ニ搬入セリ

二、熱河ニ輸送セシ兵器

重機関銃 八挺
同弾薬 十二万発（一箱千発入百二十箱）

右ハ十月三十日午前二時安定門駅ヨリ自動車四台ニ積載熱河ニ輸送セリ

三、目下安定門駅停車中ノ貨車ニ積載セル兵器

兵器貨車八輛中北新倉及熱河方面ニ輸送セシ兵器ハ五ケ車輛分ニシテ目下安定門駅ニハ兵器積載ノ貨車三ケ車輛停車中ナルカ該貨車ニハ迫撃砲同弾薬、重機関銃、軽機関銃同弾薬等ヲ満載シ居レリトテ衛兵二名、私服兵数名及巡警数名ニテ厳重警戒シ居レリ

右報告ス

本信写送付先 公使 在満大使
南京 天津 張家口

7 昭和7年11月9日 在上海堀内書記官より内田外務大臣宛（電報）

蔣介石と合作問題等に関する孫科の談話について

上海 11月9日後発
本省 11月9日後着

第一二九九号（暗）

最近呉鉄城ヨリ孫科ト会見スル様勧誘アリタル趣ヲ以テ九日須磨、孫科ト会見シタル処孫ハ極メテ得意気ニ大要左ノ如キ時局談ヲ為シタル趣ナリ[1]

満州ハ単ニ日本ニ取リテノミナラス支那ニ取リテモ亦極メテ重要ナル「ナチュラル、マーケット」ナルカ満州ハ事件後支那ノ為閉鎖セラレタルノミナラス最近ハ排日運動ノ為支那自身カ非常ナル財政的窮地ニ陥リ居ル状態ニテ経済上ヨリ観ルモ何トカ日支関係ヲ急速ニ打開スル必要アリ自分ニ於テモ種々考究中ナルカ元来満州国ハ既ニ日本ニ依リ承認サレタルヲ以テ国際法上ノ一国家ナリトノ日本側主張ニハ一理有リ満州国ノ存在其ノモノヲ否認スル事ハ困難ナリト考ヘラルルモ支那側トシテハ今之ヲ其ノ儘承認スル訳ニモ行カス蔣介石ニ於テモ最近日支国交改善ノ必要ヲ痛感シ種々考慮中ナルカ如ク現ニ失地武力回復等ノ強硬論者ヲ宥メ居ルハ真ニ思慮アル遣方ニシテ若シ蔣ニ於テ急速ニ日支関係ノ打開ヲ計ル時ハ部下ハ何レモ離散シ蔣ヲ攻撃スヘク延ヒテハ内乱勃発等ノ危険モ有リ蔣トシテモ輿論ノ手前余リ弱気ニモ出ラレス困却シ居ル模様ナリ之カ為蔣ハ先ツ輿論ノ統一ヲ計ル事緊急ナリトシ胡漢民ヲ呼寄セテ統一政府ノ形態ヲ繕ハントセルモ胡ノ南京入ハ到底実現ノ見込無ク又汪精衛モ蔣トノ折合悪シク外遊シタル次第ナレハ汪、蔣、胡ノ合作ハ仲々困難ナリ元来統一政府完成ノ為ノ理想論トシテハ自分カ客年広東国民政府側ニ提唱セル国民党員及国民党以外ノ実業家及有力者ヲ集メタル国民会議ノ開催カ最上ナルモ之亦実現困難ナレハ結局蔣ノ勧誘ニ基キ自分カ汪及胡ノ代表者タル資格ヲ以テ蔣ト合作スル事トモナラハ一応ハ片付クヘク右ハ近ク三中全会ニ於テ正式決定ヲ見ル手筈トナリ居ル処自分ハ蔣ニハ不満ノ点アルモ蔣一個人ヲ仆サントセハ巨万ノ富ト人トヲ犠牲ニセサル可カラス国[2]

難ノ際之レハ忍ヒサルヲ以テ支那統一ノ為右合作ノ方針ニテ進ム事ニ決心シタル次第ニテ夫迄ノ間ニ何トカ日支間ノ空気ヲ改善スル事必要ニ付自分ハ法理論ヲ離レ個人的折衝ニ依リ日支関係打開ノ下地ヲ作リ度シト考ヘ居レリ

右ニ対シ須磨ヨリ劉崇傑ニ対スルト同様（十月二十二日付機密公第三二八号公信参照）此ノ際支那側ハ満州ヲ諦ムル事及排日運動ヲ停止スル事ノ必要ナルヲ力説シ置キタル趣ナルカ孫科ノ口吻ヨリ察スルニ蔣ハ汪、胡ナキ今日孫トノ合作ノ必要ナルヲ認メ居リ孫科モ亦反蔣運動ニ見切ヲ付ケ蔣トノ合作ヲ計ラントシ居ルモ宋子文辺リ（孫ハ極メテ小サキ者ノ反対アリト言ヘリ）ノ反対アル為未タ確定セサルモ（最近ノ蔣、宋不和説ハ此ノ間ノ消息ニモ関係アルモノト思ハル）結局蔣ニ於テ宋ヲ説得ノ上孫科ノ国民政府入トナルモノノ如ク将又伍朝枢ノ馮玉祥訪問等モ李宗仁、陳済棠、馮玉祥等ヲ纏メテ次第ニ統一政府ノ形式ヲ作リ行ク行クハ日支直接交渉ヲ展開セントスル運動ノ一表現ニアラスヤトノ印象ヲ得タル趣ナリ

満、奉天、北平、天津、青島、漢口、南京、広東ヘ転電シ上海ヘ暗送セリ

満ヨリ新京ヘ転報アリタシ

8　昭和7年11月13日　在南京上村総領事代理より内田外務大臣宛（電報）

満州国の承認取消に関する何応欽の要請について

南京　11月13日後発
本省　11月13日後着

第七四九号（暗）

十二日本官何応欽ト会談ノ際何ハ日支ノ関係ニ付往電第七四五号王正廷ト略同様ノ話ヲ為シ満州問題ハ是非速ニ解決ノ道ヲ見出シ日支ノ関係ヲ軌道ニ戻ス事両国ノ為最モ緊要ナルカ支那トシテハ満州ノ独立ヲ認ムル事ハ絶対ニ不可能ナルヲ以テ此ノ点日本側ニ於テ幾分ノ譲歩ヲ為セハ其他ノ点ニ付支那側モ余リ問題トセサル可ク日支直接交渉ニ依リ速ニ問題ヲ解決シ得ル事ト思ハルル次第ナルカ日本側ニ於テ満州国独立ノ承認ヲ取消ス事ハ考慮シ得サルヤト述ヘタルヲ以テ本官ハ日本カ独立承認ヲ取消スト謂フカ如キ事ハ絶対ニ考慮シ得サル所以ヲ説明シタル上満州国ノ独立ハ変更シ得サル既成事実ナルヲ以テ今日ニ於テハ此ノ事実ヲ基礎トシテ問題解決ノ方法ヲ見出スヨリ外ナシトノ趣旨ヲ述ヘ尚連盟ニ頼リテ問題ヲ紛糾セシメ日本ノ輿論ヲ挑発硬化セシムルノ愚ナル所以ヲ説明シ置キタリ御参考迄

支、北平、満ヘ転電セリ

9　昭和7年11月30日　在広東吉田総領事代理より内田外務大臣宛（電報）

リットン報告書日本側意見書ならびに松岡代表演説に対する鄒魯の批判について

広東　11月30日後発
本省　11月30日後着

第六八六号

二十八日連合紀念週ニ於ケル鄒魯ノ報告演説中我意見書並松岡代表ノ言論ニ関スル部分大要左ノ如シ

「リットン」調査団カ既ニ日本ノ侵略事実ヲ認メ乍ラ規約ノ適用ヲ躊躇シ我カ領土権ヲ尊重スルカ如ク見セ掛ケ事実ハ日本ノ委任統治ニ等シキ国際共同管理ヲ提議セルハ甚タ遺憾ナリ日本ノ意見書ハ外交文書ニ其例ヲ見サル極端ナル辞句ヲ以テ我国ヲ侮辱シ中国ヲ無政府状態ナリト誣ヒ居ルモ中国ハ着々進歩ノ道程ニ邁進シツツアルハ各国モ知悉スル処ニシテ又過去ニ於ケル中国ノ内乱ハ一トシテ日本帝国主義者ノ暗中策動ニ依ラサルモノナク即チ中国ノ発展ヲ阻害シ且中国ヲ無政府状態タラシメントスルハ日本帝国主義者ノ術策ナリ松岡代表ノ「日本ハ自衛権ヲ行使シタル迄ニシテ毫モ「ケロッグ」条約ニ抵触スル処ナシ」トノ言ハ不戦条約ナルモノハ国策遂行上戦争ヲ奨励スルモノト解釈シ居ルモノト称スルノ外ナク又「日本ハ数年来中国ノ各種侵略ニ遭ヘリ」トハ何ヲ目シテ侵略ト称スルヤ了解ニ苦シム次第ナリ日本政府ハ更ニ「抵貨ハ一種ノ戦争ニシテ中国ハ日本ニ敵意ヲ示セリ」ト云フモ抵貨運動ハ日本ノ暴力圧迫ニ原因スルモノニシテ合法平和的自衛権ノ発動ナリ次ニ満州ヲ以テ中国ノ一部ニアラスト主張シ世界ノ視聴ヲ欺瞞セント試ミ居ルモ之数千年来ノ歴史ヲ無視セルモノニシテ満州カ中国ノ一部タル事実ニ付テハ調査団ハ勿論日本自身モ傀儡組織建設以前ニ於テハ之ヲ承認シ居タルモノナリ日本カ如何ニ欺瞞ニ努力スルモ他諸外国ハ日本ト共ニ我ニ迫ルカ如キコトナカルヘシト雖中国々家ノ独立ハ一ニ我民族ノ自力ニ俟ツ次第ナルヲ以テ此ノ際国民ノ一大覚醒ト不断ノ努力ヲ希望シテ已マス云々委細郵報

支、北平、南京、天津、青島、済南、漢口、福州、厦門、汕頭、奉天ヘ転電セリ
奉天ヨリ満ヘ支ヨリ上海ヘ転報アリタシ
香港ヘ暗送セリ

10　昭和7年12月5日　在南京楠本（実隆）中佐より真崎参謀次長宛（電報）

日中直接交渉に関する国民政府の動向について

12月5日後4時50分発
12月5日後7時25分着

第六五二号（其一―二）秘

前電第六四七号ニ関シ其後伝ヘラルル所ニ依レハ日支直接交渉ノ訓令案ハ満州国ノ治安カ常態ニ復シタナラハ十九箇国委員会ノ下ニ於テ実施スルニ在リトノコトナルカ真偽疑ハシク極力調査セシ所二三日前外交委員会ニテ九ケ国条約並ニ不戦条約ニ違反セサル条件ノ下ニ連盟ノ調停ヲ受諾シ米蘇両国ノ連盟参加ノ下ニ交渉スルニ於テハ異存無キコトヲ決議セシ模様ナリ

尚三中全会ニ関シ蔣介石ト相談シ三日帰京セル陳立夫ノ直話ナリトテ秦ノ語ル所ニ依レハ蔣介石ハ目下日本ノ自分ニ対スル感情悪キヲ以テ直接交渉ヲ提案スルモ其結果ハ必スシモ好カラサルヘク連盟方面ノ情報モ尚之ニ一任シ置ク方カ有利ナル形勢ニ在リ故ニ来年連盟ノ結果ヲ待チテ若連盟カ日支問題ヲ調停シ得ス又米国等ノ援助ヲモ期待シ得サル場合来春ノ四中全会ニ於テ何等カノ条件ヲ付シ日支直接交渉ニ応スルモ可ナリトノ意見ヲ述ヘタリト

前記外交委員会ノ模様ニ就テ見ルモ政府要人間ニハ直接交渉ノ意見ニ傾ケルモノ相当アルカ如ク観測セラル

関東、北平、天津、済南、上海、奉天、漢口スミ

11　昭和7年12月8日　在中国有吉公使より内田外務大臣宛

中国の親米傾向に関する現地陸海軍側の観測について

上海　12月8日付
本省　12月20日着

機密公第四一四号

昭和七年十二月八日

在中華民国

特命全権公使　有吉　明（印）

外務大臣伯爵　内田　康哉殿

支那ノ親米傾向ニ関スル陸海軍側観測報告ノ件

最近時局殊ニ蔣介石派ノ親米連欧政策ニ関シテハ邦字新聞ニモ各種報道流布セラレ居ル処右ニ対スル当方面陸海軍側ノ観測等何等御参考迄左記ノ通報告申進ス

陸海軍側ニ出入スル諜報者ノ情報ヲ綜合スルニ蔣介石ハ目下自己ノ独裁政治樹立ニ大童ノ状態ニテ表面親日政策ヲ翳シ居ルモ茲両三年内ニハ必ス日米戦ノ発生ヲ見ルヘク其ノ際ハ米国ト結託シテ一挙ニ満州ヲ奪回セント頻ニ軍備ヲ整ヘ居ルモノノ如シ殊ニ上海事件ニ於ケル十九路軍ノ活躍ハ大イニ蔣ノ支那軍隊ニ対スル自信ヲ強メタルモノノ如ク若シ支那ニシテ武器サヘ完備シ居ラハ日本ハ怖ルルニ足ラスト豪語シ、米国方面ヨリ多量ノ武器輸入ヲ計画シ居リ米国モ亦他日日米戦争勃発ノ際ハ支那ヲ米国空軍ノ根拠地トシテ日本軍ノ「フィリッピン」攻略ヲ禦クヘク支那空軍ノ発達ニハ殊ニ努力ヲ注キ居リ現ニ杭州ノ航空学校ニハ数名ノ米人顧問アリテ飛行訓練ニ従事シ居リ支那学生ノ航空技術モ最近ハ相当熟練ノ域ニ達セル由ニテ其ノ他米国ノ資本ヲ以テ海州方面ニ広大ナル飛行場ヲ設立スル計画サヘ考慮セラレ居ル趣ナリ又最近契約調印ヲ了セリト伝ヘラルル米国小麦借款ノ如キモ実ハ米国ヨリノ武器借款ノ「カムフラージュ」ニテ広東側ノ本件借款反対ハ此ノ間ノ実情ヲ知リ居ルカ為ナリト伝ヘラル右ノ外蔣介石ハ航空署ヲ軍政部ヨリ独立セシメテ軍事委員会ノ下ニ自己薬籠中ノモノトセンカ為種々画策シ居ル由ニテ現ニ毛邦初（二十七、八歳ノ青年将軍）ヲシテ反蔣系ノ飛行将校及学生ヲ同校ヨリ駆逐セシメタル趣ナリ尚又諜報ニ依レハ蔣ハ数名ノ米国技師ヲ漢口ニ招聘セルカ彼等ハ主トシテ器械水雷ノ組立ニ従事スル由ニテ最近長江一帯ノ防備ハ相当完成セルモノノ如ク為ニ国民政府モ南京ニ復帰スルニ至リタルニ非スヤトサヘ認メラレ居レリ

尚伊太利ヨリノ飛行機購入、蔣ノ「ファッショ運動、隴海線開発ヲ理由ニ独逸資本ヲ以テ海州ニ開港場ヲ設ケントスル風説、粤漢鉄道ヲ廻ル英支団匪賠償金ノ使途問題、仏領印度支那トノ通商条約締結等ハ何レモ蔣ノ伊、独、英、仏等トノ連絡懐柔政策ナリト観測シ居ルモノト認メラル」

以上陸海軍側ノ観測ハ多少穿チ過キ居リ中ニハ牽強付会ノ

節アル様認メラルルモ最近米国カ支那懐柔ニ浮身ヲヤツシ支那ノ機嫌ヲ損セサルヲ事トシ居ル様見受ケラルルハ事実ニテ現ニAP「ハリス」ノ如キモ杭州航空学校ノ内情ニ付米国官憲ニ尋ネタルモ要領ヲ得ストテ当方ニ情報ヲ求メ来レル程ニテ又「シカゴ・デーリー・ニュース」特派員「スウィートランド」ノ陝西渭北ノ阿片栽培ニ関スル情報ニ対シ米国公使ノ執レル態度等ハ此ノ間ノ空気ヲ反映スルモノニ非スヤトサヘ思考セラレサルニ非ス勿論此ノ種消息ニハ事柄ノ性質上確証ヲ得難ク従テ孰レトモ遽カニ結論ヲ下シ難キ次第ナルモ時節柄何等御参考迄右報告申進ス

本信写送付先　北平　駐満全権　奉天　天津
南京　広東　漢口

12　昭和7年12月(12)日　在南京上村総領事代理より内田外務大臣宛（電報）

山海関における日中衝突に対する中国側の抗議について

第八一一号

本官発支宛電報第七七〇号

外交部長ヨリ十一日付貴公使宛公文ヲ以テ大要左ノ通リ申越セリ

確報ニ依レハ本月八日夜十時過キ日本軍用鉄甲車ハ山海関停車場ニ入リ込ミ故ナク場内ニ向ツテ十余発ノ砲撃ヲ為シタルカ我司令部ヨリ交渉ノ結果九日午前二時ニ至リ漸ク砲撃ヲ停止セリ又秦皇島海関ノ報告ニ依レハ九日早朝武装セル多数ノ日本人ハ山海関海関ニ闖入シ衛隊二名ヲ殴打シ貨物ヲ竊取シ財産ヲ毀損シタル趣ナリ

査スルニ日本側カ故ナクシテ山海関ノ城内ヲ砲撃シ又同地海関ヲ擾乱シ殴打及器物毀損ヲ敢テシタルハ事態ヲ拡大セント挑戦セルモノナルコト明ナリ目下日支問題ハ国際連盟ノ正当ナル解決ヲ計リツツアル折柄日本側カ前記ノ如キ行動ヲ為スハ不法モ極レリ依テ茲ニ特ニ厳重抗議ヲ提出スルニ付直ニ貴国政府ニ電報シ今回ノ事件ヲ惹起セル者ヲ懲罰シ並ニ同地ノ日本軍ニ対シ再ヒ此ノ種ノ行為ヲ為ササル様切実ニ戒告セラレ度ク今後若シ日本側ノ挑発的行動ニ依リ重大ナル事態ヲ発生センカ日本ニ於テ完全ニ之レカ責任ヲ負ハレ度ク尚今回支那側ノ蒙リタル一切ノ損害ニ関シテハ本国政府ハ賠償要求ヲ提出スル権利ヲ留保ス何分ノ御回答アリ度シ

原文郵送ス

大臣、北平、奉天、天津、青島、済南、満、連盟代表ヘ転電セリ

13　昭和7年12月17日　在北平矢野参事官より内田外務大臣宛（電報）

日中直接交渉その他に関する張学良との会談について

北平　12月17日後発
本省　12月17日後着

第六八三号（暗、極秘）

本官賜暇帰朝ニ付挨拶旁十六日学良ヲ往訪セル処極秘[1]トシテ御話シ致度シトテ

一、自分ハ昨年事変以来非常ニ謹慎シ南京政府ノ如キ浅薄ナル宣伝外交ハ為サス問題ノ実際的解決ニ着眼シ今日ニ及ヘルニ拘ラス日本側ハ依然自分ヲ排日ノ巨魁トシテ排斥セラル其ノ理由何処ニ依リヤ腹蔵無キ御意見承リ度シト云ヘルニ付

二、本官ハ打明ケテ申セハ貴下ニ対シ日本側ノ不満多々アリ例ヘハ貴下ノ排日取締カ兎角緩慢ニ失スルハ勿論(イ)貴下カ義勇軍ヲ供給シ或ハ朱慶瀾ノ活動ヲ許スカ如キ(ロ)軍隊ノ移動ヲ盛ニ行ヒ恰モ日本側ニ対シ事ヲ釀サントスル姿勢ヲ採リ居ルカ如キ(ハ)曩ニ蘇炳文ト密接ニ連絡シ其ノ対日宣伝ヲ北平ニテ行ヒタルカ如キ(ニ)満州国其他ニ関シ発セラルル排日宣伝ハ概ネ北平ノ発電ナルカ如キ不都合ノ事実枚挙ニ遑アラス要之日本側一般ハ北平カ対日悪宣伝ノ根拠地ニテ貴下カ其ノ巨魁ナリト認メ居レリト直言セルニ

三、[2]学良ハ(イ)義勇軍ノ（脱）付テハ自分ハ目下財政ノ遣繰ニ窮シ現ニ代表者ヲ四人モ宋子文ノ許ニ派遣シ居ル実情ニシテ同軍ヲ援助スルカ如キ余裕無シ仮ニ自分等ニテ日本側ニ反抗ノ意思有リトセハ素質ノ悪キ義勇軍ヲ使用セス正規軍ヲ使用ス可シ(ロ)軍隊移動ハ先ニ王樹常ト于学忠カ更迭セル儘其軍隊ヲ動カササリシカ斯テハ種々不便多キ為今回其軍隊ヲ入替ヘ居ル為ナリ又義勇軍ハ名ハ義勇軍ナルモ実際土匪ナル為満州ニテ討伐セラレ敗退入関セハ治安維持困難ナル為関内逃込ミヲ防ク必要上喜峰口其他要地ニ多少軍隊ヲ配置セル次第ナリ(ハ)蘇炳文ニ付テハ同人ハ元自分ノ部下ナリシ関係上自分ニ報告ヲ寄越スニ

過キス彼ヲ援助スルカ如キハ地理的其他ノ関係上不可能ナリ(二)北平カ排日情報供給ノ根拠地タルノ感アルハ新聞通信社等カ北平ヲ之等情報ノ発出地トナスコト最モ便利ト認ムルカ為ナリ例ヘハ上海ニテ作レル情報ヲ北平通信トシテ発出スルカ如キ事例多ク北平通信トアルモ必スシモ北平ヨリ発電セラレシモノニ非スト種々陳弁セルニ付本官ハ何レニスルモ此ノ際日本ノ体面ヲ損スルカ如キ情報ノ発出ハ百害有リテ一利無キ故厳ニ部下ヲ取締ラルルコト肝要ナル旨切言シ置ケリ[3]

四、次ニ本官ヨリ曩ニ貴下ハ漢口ニ赴キ蔣介石ト会見セラレタルカ蔣ノ対日意見如何ト問ヒタルニ学良ハ実際ヲ申セハ対日問題ハ今日支那ニ取リテ全然行詰リ居リ支那側要人中満州ノ現状ヲ認ムルノ趣旨ノ下ニ国論ヲ押切リ日本側ト開談スル勇気アルモノ現在ノ処絶無ナリ現在国際連盟ニ問題ヲ提起シ居ルハ対内外交ニテ国民ニ対スル一種ノ鎮静剤ニ過キス尤之ハ極秘ノ話ナルカ万々一日本側ニ於テ此ノ際支那側ト何等話合ヲ開始シ日支関係ヲ常道ニ復セラルル御希望有ラハ蔣介石ハ全責任ヲ以テ之ニ当ル決心アリ但シ之ハ外部ニ漏レサル様願ヒ度シト云ヘリ本談内容外部ヘ発表御見合ヲ請フ

支、満、南京、天津、奉天ヘ転電セリ

14　昭和7年12月(29)日　在天津桑島（主計）総領事より内田外務大臣宛（電報）

熱河侵入問題に関する菊池支那駐屯軍参謀長より張学良あて警告について

別　電　同日着在天津桑島総領事より内田外務大臣宛第四八五号
張学良宛警告要旨

第四八四号（暗）

往電第四七七号ニ関シ

一、軍司令部ノ情報ニ依レハ学良軍ハ二十六日夜ヨリ大体予定通リ移駐ヲ開始セル由

二、右ニ関シ当地参謀長（菊池門也大佐）ハ三十日赴平シ学良ニ対シ大体別電第四八五号ノ通リ警告ヲ与フルコトトセリ

三、当地新聞ハ最近ニ至リ一斉ニ大見出ヲ以テ熱河方面ニ関スル記事ヲ掲ケ居ル処要スルニ錦州ノ日本軍ハ最近大増員ヲ見攻撃準備既ニ成レルコト錦朝沿線ニ活動ヲ開始セルコト熱河侵略ハ明年一月乃至三月頃決行セラルヘキコト吾人ハ全力ヲ尽シテ之ニ備ヘ義勇軍ヲ援助スヘキコト等ヲ報シ居レリ又当地邦字新聞モ四、五日以来石本ノ殺害説其ノ他学良及義勇軍ノ積極的挑戦態度ニ関シ盛ニ書キ立テ初メタリ

本電別電ト共ニ連盟、支、北平、南京、満、奉天、済南ヘ転電セリ

（別　電）

第四八五号（暗）

往電第四八四号ニ関シ

北支ニ於テ貴軍ノ熱河侵入ハ満州国ノ治安ヲ擾乱スルモノナリトノ見地ニ基キ日本帝国ハ貴軍ノ熱河方面ニ対スル行動ニ関シ深甚ノ注意ヲ払ヒツツアリ貴軍ノ熱河侵入ハ極メテ重大ナル結果ヲ招来スルモノト認ムル旨本年七月下旬小官自ラ警告シ置ケルニ拘ラス貴軍ハ最近熱河方面ニ其ノ兵力移動ヲ開始シ又在満州各匪軍ヲ悉ク熱河ニ集合ヲ策シ且熱河方面ニ軍需品ヲ集積シツツアル等諸般ノ策動ハ如実ニ反満抗日ノ準備ヲ進メツツアルモノト認メサルヲ得ス斯ノ如キハ日本帝国並ニ満州国ノ到底黙視シ得サル処ニシテ極メテ重大ナル結果ヲ招来スヘク万一斯ル状況ニ立至ル場合ニ於テハ其ノ責任ハ貴方ニ存シ日本帝国ハ一切其ノ責ニ任セサルヘキニ付右御承知アリタシ

15　昭和7年12月(30)日　在満州国武藤大使より内田外務大臣宛（電報）

関東軍の張学良および湯玉麟に対する政治工作について

別　電　同日着在満州国武藤大使より内田外務大臣宛第四八三号
張学良および湯玉麟に対する政治工作予定について

第四八二号（至急、極秘）

関東軍ニ於テハ最近ニ於ケル学良正規軍ノ熱河侵入及之ニ伴フ義勇軍ノ策動ニ鑑ミ愈熱河経略ニ着手スル事トナリ先ツ別電第四八三号ノ「プログラム」ニ基キ学良及湯玉麟ニ対シ直接的政治工作ヲ開始シ右準備工作ノ完了ト共ニ明年三月末ヲ期シ同軍ノ実力発動ヲ為サントスルモノニシテ軍ニ於テハ近ク右計画実施方ニ付中央ニ電請ノ見込ナル趣ナリ

尚前記「プログラム」第一ノ対学良警告ハ北平機関ヲ通シ好意的形式ヲ以テ別電第四八四号ノ趣旨ヲ口頭ニテ申入レ

ントスルモノニシテ其ノ時期ハ本月二十二日付学良側命令ノ実行セラレタル事ヲ確認シタル上適宜決定スルト共ニ満州国側ヨリモ同様警告ヲ発スル手筈ナル由

本電別電ト共ニ寿府連盟、支、北平ヘ転電セリ

（別　電）

第四八三号（至急、極秘、別電）

対張学良及湯玉麟直接政治工作予定

今次学良正規軍隊ノ熱河侵入ヲ機トシ対学良及湯玉麟直接的政治工作ヲ開始ス

政治工作ノ予定左ノ如シ

左記

第一、学良ニ対シ侵入正規軍隊ニ関スル第一次警告

第二、湯玉麟ニ対シ侵入学良正規軍ノ撃退勧告

第三、湯玉麟ニ対シ義勇軍ノ策動弾圧ニ関スル勧告

此前後ニ於テ満州国土ノ共同防衛ノ見地ニ立チテ日本国政府ノ対学良警告ヲ予期ス

第四、前諸項ノ警告及勧告ノ実行セラレサルニ於テハ満州国軍隊ヲ熱河ニ侵入セシメ学良侵入軍ノ撃退及義勇軍弾圧ニ関シ湯玉麟ヲ援助セシム

此ノ時期ハ概ネ三月末頃トナルナラン

此ノ前後ニ於テ再ヒ日本国政府ノ警告ヲ予期ス

第五、第四同様ノ名義ヲ以テ関東軍ノ実力発動

右ノ期間ニ於テ満州国側ヨリ適時数回ニ亘リ学良及湯玉麟ニ対シ警告若ハ勧告ヲ発ス但其時期及内容等ニ付テハ関東軍ト予メ協議スルモノトス

寿府連盟、支、北平ヘ転電セリ

16　昭和7年12月(30)日　在北平中山書記官より内田外務大臣宛（電報）

菊池支那駐屯軍参謀長より張学良あて警告の中止について

第六九五号（暗）

閣下宛天津発電報第四八四号(一四文書)(二)及第四八五号(一四文書)ニ付テハ参謀長ハ二十九日来平セル永津武官ト協議ノ結果参謀長ハ右ヲ実施セサルコトトナレル由

17　昭和7年12月31日　在上海重光（葵）公使より内田外務大臣宛（電報）

撤兵問題への張学良の動向に関し張公権と会談について

上海　昭和7年12月31日後発
本省　昭和8年1月1日前着

第一四二五号（暗）

往電第一四一八号ニ関シ

張公権卅一日再ヒ来訪北平ヨリハ自分ノ電報ノ趣旨ニ依リ処置スヘシトノ返電昨卅日到着セルカ北平等ニ於テ撤兵ノ話合進行中ナリヤトノ質問ナリシニ付本使ハ北平ニ於テ久シク話合進行中ナルハ事実ナルモ何分ニモ学良ハ掛引ヲ弄スル事多ク軍事行動開始後事ハ非常ニ切迫シ一時間ヲ争フ必要アル次第ヲ述ヘ置キタリ張公権ハ左ノ趣旨ヲ更ニ電報スル由ナルカ其際学良カ南京ノ意向ニ反シテ撤兵スルニ於テハ免職セラレタル上馮玉祥等ニ乗セラレ没落スルニ至ルヲ惧レ居タル為兎角逡巡セシハ無理カラヌ次第ナル処自分等ハ南京政府ニ運動シテ学良免職等ノ処置ニ出テサル様ニ話合ヲ付ケタリト語レリ

奉天、北平、青島、済南、南京、天津、牛荘、連盟、在米大使ヘ転電シ上海ヘ転報セリ

18　昭和7年12月(31)日　在北平中山書記官より内田外務大臣宛（電報）

張学良軍の熱河方面への移動に関する湯爾和との会談について

第六九三号（至急極秘）

十二月初旬ヨリ学良ハ熱河方面ニ向ツテ軍ノ移動ヲ計画シ居ル旨ノ情報アリ永津武官トモ常ニ連絡ヲ密ニシ監視シ居タル処山海関事件当時右移動中止シタル由ナリシヲ以テ其儘ト為シ置キシカ二十五六日頃ニ至リ再ヒ移動ヲ開始シタル旨武官室情報アル外当館諜報モ之ニ符合シ居レルニ付此ノ事態ヲ此儘黙過スルニ於テハ延イテ華北ノ事態ニ重大ナル影響ヲ及ホシ其結果極メテ寒心スヘキモノアルヘキヲ慮リ二十八日湯爾和ヲ往訪シ我方情報ニ依レハ学良ハ京津方面ヨリ三個旅ヲ長城外乾溝鎮地方ニ輸送スル計画ニテ現ニ其輸送中ノ由ナルカ学良側ニ於テ正規軍ヲ長城外ニ輸送セハ自然日本軍トノ衝突ハ免レサルヘク其結果ハ極メテ重大ナリト思考スル処一説ニハ之ヲ以テ于学忠軍ト王樹常軍ノ入換ヘノ如ク説明シ居ルモ現実ノ移動ノ方向ヨリ判断シ斯ノ如キハ説明トナラス学良ノ真意果シテ如何承知シ度キ旨申入置キタル処二十九日参謀本部ヨリ永津武官ニ対シ支那側ニ警告方訓令アリタルヲ以テ同武官ト懇談熟議ノ上先ツ

小官ヨリ右湯ヘ申入ノ糸口ヲ利用シテ学良ニ申入ヲ為ス事トシ三十日湯ヲ往訪シ前日ノ会談ヲ学良ニ通シタルヤヲ尋ネタル処実ハ韓復榘来平中ニテ学良モ多忙ナルヲ以テ今三十日夕面会ノ事ニ致シ居レリトノ事ナリシヲ以テ改メテ其後ノ我方ノ情報ヲ説明シ昨今ノ形勢ヲ観ルニ軍ノ移動ハ続続行ハレ弾丸ノ輸送又益々熾ナルカ右ハ日本軍ニ於テモ承知シ居レルヲ以テ夫々必要ノ準備ヲ整フルノ已ムヲ得サルニ至ルヘク斯ノ如キ状態継続スルニ於テハ重大ナル結果ヲ惹起スヘキハ火ヲ睹ルヨリモ明カニシテ其場合華北ノ治安大イニ憂フヘキモノアルカ故ニ余ハ政府ノ訓令ヲ受ケタル次第ニ非サルモ当地方ノ治安維持ノ見地ヨリ現状ノ経過ヲ黙視スルニ忍ヒス出来得ル限リノ微力ヲ致サントスル次第ナルカ若シ学良ニシテ正規軍ヲ以テ日本軍ト一戦ヲ試ミントスル決心ナルニ於テハ日本軍側ハ喜ンテ之ヲ迎フヘク外交官タル我等トシテハ万事休セリ然レトモ若シ学良ニ其ノ意志ナクシテ或ハ南京ニ対スル申訳若ハ韓等ノ将領ニ対スル体裁上今回ノ如ク軍事行動ニ出ツルモノトセハ其結果ノ重大ナルニ鑑ミ極メテ拙劣ナル政策ト謂ハサルヘカラス余ハ学良ニ対シ何等ノ要求若ハ注文ヲ提出スル次第ニ非ス唯右軍事行動ノ真意ヲ御尋ネセントスルニ在ルノミナルカ形勢ノ急迫セルニ鑑ミ貴下同道学良ニ直接面談致度キニ付御打合ヲ願度シト述ヘタル処湯ハ乾溝鎮ハ河北省内ナラスヤトテ恰モ省内ノ軍ノ移動ヲ自由ナリト為セルカ如キ口吻ナリシヲ以テ直ニ之ヲ抑ヘ目下ノ事態ハ極メテ重大ニシテ行政区画ヤ法律論ニ拘泥スヘキ時期ニ非ス行政区画ノ如何ニ拘ラス軍事的ニハ長城カ関内外ノ境界ニシテ其ノ長城外ニ正規軍ヲ進出セシムル事ハ日本軍側ヨリ見レハ攻撃ヲ受クル事アルモノトシテ作戦上ノ行動ヲ要スヘキハ必然ノ理ナルヲ以テ学良ニシテ直ニ一戦ヲ交ウル意志ナシトセハ長城以外ノ学良軍ヲ関外ニ撤退セラレテハ如何ト述ヘ再会ヲ約シテ別レ同日午後湯ニ面会シタル処湯ハ午前ノ会見後直ニ学良ニ面会シ小官ノ来意ヲ伝ヘタル処学良ハ微恙引籠中ニ付明三十一日午後面会致スヘシトテ湯ニ伝言シタル処ニ依レハ右軍ノ移動ハ事実ナルモ日本軍ト交戦スル等ハ思モヨラス又錦州ノ日軍一個師団ニ対シ学良軍三個旅ニテハ到底問題トナラス之ヲ以テモ交戦ノ意ナキヲ知ラルヘク右移動ハ専ラ南京、上海方面ニ対スル関係ニ外ナラサルニ付御了解ヲ請フト

何レ明日学良ニ面談ノ上追電ス

支、南京、満、天津ヘ転電セリ

19　昭和8年1月1日（1日）　在北平中山書記官より内田外務大臣宛（電報）

部隊移動の真意に関する張学良の談話について

第六九六号（至急、極秘）

往電第六九三号（一八文書）ニ関シ[1]

三十一日学良ヲ往訪ス湯爾和原田同席（竜一）ス小官ヨリ政府ノ訓令ヲ受ケテ行動スル次第ニ非サル事前ニ湯ニ話シタル通リナルカ昨今当地方ノ状況ヲ観察シ事態極メテ重大ト思考スルカ故ニ先ツ湯ニ懇談シ其結果来訪シタル次第ヲ述ヘ進ンテ最近貴下ハ三ケ旅ニ関内ヨリ関外ニ移動ヲ命シ其一部ハ既ニ山海関ノ北部ニ於テ長城ヲ越エ乾溝鎮凌源方面ニ進出シタル由ニシテ多量ノ兵ニ弾薬ヲ輸送シ居ル情報ニ接スルト同時ニ日本軍ニ於テハ貴下正規軍ノ移動進出ヲ以テ貴下カ日本軍ト戦闘ヲ行フ意志アルモノトシテ異常ノ緊張ヲ示シ居リ此ノ状態ヲ放置スルニ於テハ近ク衝突ハ免カレサルモノト思考スル処貴下カ其軍ヲ移動スル真意如何ト尋ネタル処学良ハ今日ハ軍司令官ノ資格ヲ離レ個人トシテ打明ケテ御話致シ度シト冒頭シ近来新聞紙カ熱河問題ニ付根モ無キ記事ヲ頻リニ書キ立テ為ニ両国間ノ緊張ヲ増スニ付近ク新聞記者ヲ集メテ真相ヲ話ス積リナルカ御尋ネノ軍ノ移動ハ事実ニシテ実ハ四ケ旅ヲ移動シ居レルカ一ケ旅ハ保定ニ戻シタルニ付現在ハ三ケ旅ナリ其ノ趣旨ハ三中全会ニ於テ抗日案通過ヲ見タル関係モアリ中央ノ命令ニ従フト他ノ一面ニハ満州ニアル義勇軍ハ自分ノ方ニモ一種ノ癌ニシテ何レハ日本軍ニ追ハレテ結局関内ニ入リ来ルヘク其改編解散等ノ処置方ハ目下考案中ナルモ差当リ之カ関内進入ヲ防ク目的ニモ適フカ故ニ移動ヲ行ヒタルモ日本軍トハ戦闘スルノ意志毛頭無ク唯我管轄内ノ消極的防禦ノ為ニシテ此ノ命令ハ自分トシテハ遵奉セサルヲ得ス之一年以前ト自分ノ地位ニ大ナル差アル処ナリト答ヘタルニ依リ小官ヨリ前述ノ如ク今回ノ移動ハ其結果極メテ重大ナルニ拘ラス予定計画通リ実行スル考ナリヤト念ヲ押シタル処学良[2]ハ中央ノ命令ナレハ之レニ従ハサル訳ニハ行カサルニ付兵ヲ並ヘテ国民ニ見セルニ過キス決シテ戦闘スルノ意志ナシ若シ日本側ニテ此命令ニ従フコトヲ欲セラレサルニ於テハ自分カ之ニ従

ハサルモ立チ行ク途ヲ作ラレタシト逃ケヲ張レルニ付小官更ニ話ヲ次キ貴下カ予定計画ヲ実行シ日本軍ト対陣スルコトトナラハ其ノ結果ハ必ラスヤ衝突起ルヘク斯カル明白ナル結果ヲ予想シ乍ラ貴下ハ之ニ対シ政治的考慮ヲ加ヘ危機ヲ脱スル考ナキヤ本日会見ノ結果ハ要スルニ貴下ハ其軍ヲ予定通リ移動シ事態ヲ此儘ニ進行セシムル考ナリト了解シ差支ナキヤト尋ネタル処学良ハ従来本問題ノタメ度々日支ノ関係緊張シ来レル処日本トノ間ニ根本的ニ之ヲ解決シタク其案ニ付考慮中ナリ（三十日湯ハ学良ハ近ク南京ニ至リ右解決方法ニ付蔣ト懇談ノ予定ナリト云ヒタルニ付夫レカ解決セハ本件ノ如キモ自然ニ解決スヘシ）ト述フ玆ニ於テ小官ヨリ現下ノ事態ハ非常ニ急迫シ居リ根本問題モ結構ナレトモ万一関外ニ於テ日本軍ト貴方正規軍トノ間ニ衝突起レハ平津ニ於ケル日本軍部ノ激昂ヲ或ハ政府ト雖モ之ヲ抑エ得サル事態ニ立至ルナキヤヲ惧ルルカ故ニ移動問題ハ差当リ何トカ処置スル必要アリト信スト述ヘタルニ学良ハ右平津ノ一語ニ強キ刺戟ヲ受ケタルカ如ク遂ニ自分モ現事態打開ノ解決ヲ考フルニ付日本側ニ於テモ援助セラレタシト折レタルニ付小官ヨリ前述ノ通之レハ政府ノ訓令ニアラス只個人ノ思付ナルカ現長城外ニアル貴下ノ軍隊ヲ長城以南ニ撤退スル事ハ貴下ノ出来得サル事ナリヤト突込ミタル処学良ハ自己ノ立場上実ニ口外スルニ苦シキ処ナルカ日本側ヨリ攻撃サヘ受クレハ退ク考ナルモ事態ニ何等変化ナキニ自発的ニ撤退ヲ行フ事ハ困難ナリ自分（学良）ノ困難ナル立場ハ御了解アリタシト答フ会談約一時間ニ及ヘルニ付本日ハ之レ位ニテ引揚ケタルカ湯ハ居残リ居タルニ付孰レ近日何等申出来ルモノト予想ス

（申ス迄モナク本会談ハ絶対秘密ニ願ヒ度シ）

支、満、南京ヘ転電セリ

20　昭和8年1月2日　内田外務大臣より在パリ沢田連盟事務局長宛（電報）

熱河問題に関連する中国の内情について

第二号　暗、極秘

熱河地方カ満州国ノ一部タルコトハ其ノ建国ノ経緯ニ徴スルモ明ニシテ現ニ「リットン」調査団ニ於テ同国ノ境界ヲ尋ネタル当時モ我方トシテハ満州国当局ニ照会シ南ハ長城ヲ以テ同国ノ境トストノ回答ヲ得タル上之ヲ同調査団ニ通報シ置タル次第アリ即チ熱河問題ハ満州国ニ取リ純然タル国内問題タルト同時ニ日本トシテハ日満議定書第二項ニ依リ満州国側ト協同シテ治安維持及防禦ノ義務ヲ有スル地方タリ従テ同地方ニ対スル支那軍ノ移動カ必然日本軍ニ対スル挑発ナルコト明瞭ナルニ拘ラス最近支那側ニ於テ突如トシテ長城外ニ兵ヲ進メタル事情ハ極メテ複雑ナルモノアリ即チ日支紛争ノ真相並ニ之カ恒久的解決ニ関スル日本ノ決意漸ク明瞭トナルニ従テ連盟ノ態度モ漸次実際的トナリ支那一流ノ宣伝政策ノ成功望薄ラキタル折柄南京政府ノ政敵タル広東派特ニ孫科（親露主張）伍朝枢（親米主張）ハ各其ノ主張ヲ提ケテ無知ナル民論ヲ煽ラムトスル形勢アリ依テ南京政府トシテハ三中全会ヲ前ニシテ右政敵ヲ抱擁シ且民論ニ具フルノ趣旨ニ依リ慌シク対露復交（目下蔣介石ハ極力共匪討伐中ナルカ如キ状況ニテ往年ノ如ク容共政策ニ出テ得サル事情ニ在ルハ明ナルモ復交ニ依リ連盟首脳部ノ不安ヲ醸サムトノ考量モ多分ニ含マレ居ルモノト思考セラル）ヲ断行シテ孫科ヲ拉致スルト共ニ右全会ニ於テ伍朝枢ノ抗日案ヲ通シテ差当リ日貨抵制ノ密令ヲ発スル（本件ノ成行モ今後注意ヲ要ス）一方学良ニ対シ熱河進兵ヲ命セシモノト認メラル而シテ広東派ノ底意ハ右ニ依リ同時ニ学良ヲ窮地ニ陥レ予テ気脈ヲ通シ居ル北方将領ト共ニ平津地方ヲ得更ニ転シテ反蔣運動ニ移ラムトスルモノト想像セラル学良トシテハ右命令ニ服スルコトノ結局自己破滅ノ因タルコトヲ知悉シ居ルヲ以テ抗日ニ深入リスルコトナカルヘキモ（往電合第四号及第五号参照）熱河進兵ノ声ニ依リ連盟ヲ驚カシ来ル十六日以後ノ形勢ヲ自己ニ有利ニ転回セムコトヲ僥倖スル点ニ於テハ南京政府要人等ト同様ト認メラル而シテ南京政府最高責任者ノ内意ハ客年代表宛往電第五四号（一一一五四文書）ノ如ク結局日支直接交渉ニ依リ時局ヲ収拾スルノ外ナシト為シ居レルモノノ如ク而モ前記広東派ノ底意モ知悉シ居ラサルニ非ラサルモ差当リ策動飽クコトナキ広東派ト合流シテ其ノ気勢ヲ挫キ徐ロニ時局収拾ニ着手セントスルモノト思考セラル

当方トシテハ熱河地方カ前記ノ通リ満州国ノ一部ニシテ日本ノ共同防禦ノ義務ヲ負ヘル地方タルニ顧ミ之ニ対スル支那兵ノ進入ハ之ヲ不問ニ付シ置クヲ得ス従テ適当ノ方法ヲ以チ之カ撤退ノ途ヲ講セサルヲ得サルモ此ノ際不必要ニ事態ヲ荒クルハ前記複雑ナル内情ニ照シ却テ支那側ノ術中ニ陥ルモノナルヲ以テ其辺十分警戒シ居レル次第ナリ惟フニ

本件ニ付テハ支那側ヨリハ引続キ挑発的行動ニ出テ以テ連盟ヲ深入リセシメムト策動スヘシト想像セラルル処事情ハ前記ノ如ク極メテ複雑ナルヲ以テ此際連盟ニ於テ自ラ実力ヲ以テ支那政局ノ解決ニ当ルノ決心ト用意ナキ限リ漫然深入リスルニ於テハ徒ラニ事態ヲ紛糾セシムルノミニテ遂ニ抜キ差シナラサル破目ニ陥ルヘキヲ以テ冷静ニ事ノ成行ヲ視ルト共ニ日支問題全般ノ処理ニ付テハ此ノ上共帝国政府ノ主張ヲ尊重シ出来得ル限リ日支交渉実現ノ方向ニ努力スルコト時宜ニ適スト信ス

21　昭和8年1月（4日）　在満州国武藤大使より内田外務大臣宛（電報）

山海関事件に関する軍側情報について

第三号（暗）

軍側情報左ノ通

(一)一月一日午後九時過キ何柱国軍隊ハ山海関日本憲兵分遣所内及日本軍駅監視所満州国警察隊付近ニ手榴弾ヲ投シ且小銃ノ射撃ヲ加ヘ我山海関守備隊モ亦二日午前十時頃何柱国軍ノ挑戦（支那側トノ協定ニ基キ歩兵一箇中隊ヲ南門ニ派遣シタルニ突然敵軍ノ射撃ヲ受ケ我将校一名戦死負傷者二名ヲ出セリ）ニ対シ応戦セリ

(二)第八師団ハ不取敢歩兵一箇中隊ヲ山海関ニ又歩兵一個連隊ヲ前所（山海関東方二十粁）ニ急派シ又偵察機ヲ山海関ニ派遣セルカ支那軍ノ射撃ヲ受ケ爆弾二個ヲ投下セリ旅順ヨリモ駆逐艦二隻派遣サレタリ

(三)二日何柱国軍ヨリ停戦ヲ申出来レルヲ以テ我軍ハ山海関西方石河以西ニ支那軍撤退ヲ条件トシテ停戦交渉ニ応スル事トシ目下折衝中ナリ尚二日午後八時半我守備隊ハ山海関全市ヲ占領セルモノノ如シ

(四)本事件ハ全然支那側ノ不法且挑戦的態度ニ基クモノニシテ支那側カ其態度ヲ改メス今回ノ如キ事件カ繰返サルルニ於テハ重大ナル結果ヲ招来スル事無シトセサルモ関東軍トシテハ（山海関ハ我駐屯軍カ警備ニ当リ居リ主トシテ同軍ノ管轄下ニアリ）本事件ヲ差当リ拡大セシメサル方針ノ趣ナリ

巴里連盟、北平、天津、支、米ヘ転電セリ

巴里連盟ヨリ在欧各大使館ヘ転電アリタシ

22　昭和8年1月（4日）　在天津桑島総領事より内田外務大臣宛（電報）

中村支那駐屯軍司令官の張学良に対する警告文について

第六号（至急）

今回ノ山海関事件ニ関シ北平歩兵隊長ハ支那駐屯軍司令官（陸軍中将中村孝太郎）ノ名ニ於テ張学良ニ対シ二日午後十一時半左ノ通警告文ヲ交付セリ

一日午後九時過在山海関日本憲兵分館署内及日本軍艦監視所満州国警察署付近ニ手榴弾数個ヲ投シ且小銃ノ射撃ヲ加ヘタル者有リ右ハ貴軍ニ於テ目下盛ニ熱河ニ兵力ヲ進メ徒ニ人心ヲ刺戟シテ反日抗日的行動ニ出ントスル（脱）支那側官憲ノ計画的処置ナリト認メサルヲ得ス我山海関守備隊ハ同地ニ於ケル貴軍トノ協定ヲ実施スル為南門ニ至リタル際貴軍ハ不意ニ対敵行動ニ出テ我軍ニ射撃ヲ加ヘ我将校一戦死シ別ニ負傷者二ヲ出スニ至レリ右ハ貴軍ノ不法不公正ナル行動ニ其端ヲ発シタルモノニシテ其責全然貴軍ニ存スルハ敢テ他ノ言辞ヲ挟ムノ余地無キ処帝国軍トシテ到底之ヲ黙視スルヲ得サル所ナリ若シ右ニシテ貴方ノ企図スル所ナルニ於テハ更ニ重大ナル結果ヲ北支全般ニ及ホス可ク其責任ハ全然貴方ニ存シ日本帝国軍ハ一切其責ニ任セサル可キニ付承知セラレ度シ

連盟局長、上海、支ヘ転電セリ

23　昭和8年1月4日　内田外務大臣より在英国松平大使宛（電報）

山海関事件に関する英国大使との会談について

第三号（暗）

四日英国大使（リンドレー）来訪ノ折山海関事件ニ談及シ本国政府ノ訓令ニ接シタル訳ニ非サルモ北平及天津方面ニテハ事件ノ拡大ヲ非常ニ憂慮シ居ルニ付日本政府ノ深甚ナル考慮ヲ煩シ度キ旨ヲ述ヘタルニ付帝国政府ハ既ニ必要ナル訓令ヲ其ノ筋ニ発シ支那側ニ於テ更ニ挑発的態度ニ出サル限リ事件ヲ地方的ニ解決セシムルコトニナシ居ル旨ヲ告ケ畢竟第三次中央全体会議ノ抗日決議又ハ露支国交回復等ニ刺戟セラレ支那側ニ於テ斯カル無謀ノ挙ニ出タルモノト思ハルル旨ヲ申添置ケリ

米、支、北平、天津、満ニ転電シ支ヲシテ南京ニ転報セシム

土ヲ除ク在欧各大使、巴里連盟ニ可然転報アリタシ

24　昭和8年1月4日　内田外務大臣より在米国出淵大使、在パリ沢田連盟事務局長宛（電報）

山海関事件不拡大方針を参謀本部より通達について

合第二六号　暗、極秘至急

山海関事件ニ関シ三日参謀本部ヨリ事態ヲ同方面ニ局限シ全面的拡大ヲ避ケツツ之ヲ収拾スル方針ニテ進ムヘキ旨天津軍及関東軍ニ電報セリ

連盟ヨリ土ヲ除ク在欧各大使ヘ転電アリ度

25　昭和8年1月4日　内田外務大臣より在満州国武藤大使、在上海有吉公使他宛（電報）

山海関事件不拡大方針に関する閣議決定について

合第二八号　暗、至急

山海関事件ニ関シ四日ノ閣議ニ於テ「支那側ヨリ挑発的行為ニ出テサル限リ事態ヲ拡大セス事件ヲ地方的問題トシテ解決スル方針ニテ進ムコト」ニ全員一致ヲ以テ決定セリ

本電宛先　満、支、北平、天津、連盟、米

連盟ヨリ土ヲ除ク在欧各大使ニ転電アリ度

26　昭和8年1月4日　内田外務大臣より在パリ沢田連盟事務局長、在米国出淵大使宛（電報）

山海関西方沙河の北寧鉄道鉄橋爆破事件について

合第三一号　暗、至急

山海関西方沙河ノ北寧鉄道鉄橋ハ一月二日爆破セラレタル模様ナルカ（該鉄橋ハ目下支那軍ノ駐屯区域内ニアル為メ我方ニ於テハ未タ確実ナル情報ヲ入手スルニ至ラス）右ニ関シ支那側ニ於テ日本側カ該爆破ヲ行ヒタル旨宣伝スルヤモ計ラレサルモ上記事情ニ依リ我方ニ於テ爆破ヲ行ヒシコト絶対ニナク若シ爆破ノ事実アリシトセハ右ハ支那側ノ所為ナリ就テハ右御含ノ上必要ニ関シ然ルヘク措置セラレ度シ

巴里連盟ヨリ在欧各大使（土ヲ除ク）ニ転電アリタシ

27　昭和8年1月4日　内田外務大臣より在パリ沢田連盟事務局長、在米国出淵大使宛（電報）

山海関事件の発端に関する駐屯軍発表について

て

合第三五号

往電合第三四号ニ関シ二日天津駐屯軍発表左ノ通

一日午後九時二十分憲兵隊分遣所ニ二ケノ爆弾投擲サレ一個炸裂シ同時刻ニ分遣所長官舎ニ小銃ヲ発射セルモノアリ窓硝子破壊サル次イテ停車場踏切リノ鉄道監視所及ヒ満州国ノ国境監視警察隊付近ニモ数個ノ爆弾カ投セラレタ然シ幸ニ殊更ノ損害ハ無カツタカ危険状態ニ鑑ミ我カ守備隊長ハ一小部隊ヲ南関（南門外ノ市街テ邦人ノ居住区域）ニ派遣シ居留民ノ保護ニ任シ憲兵隊ト協力シテ犯人ノ逮捕ト実情調査ニ当ル（注、一九〇二年七月天津還付ニ関スル日支交換公文所定ノ弾圧治罪権ニ依ル、日支間条約集第八五三頁参照）ト共ニ旅長何柱国カ北平ニ赴キ不在ナル為メ劉参謀長並ニ公安局長ト折衝シ南関ニ於ケル支那軍ノ防備撤廃其ノ他ニ就キ協定シアラユル手段ヲ尽シテ平和裡ニ処理スルニ努メ守備隊ニ居留民ノ収容ヲ開始シタ協定ニ基キ二日午前十時過キ我カ守備隊カ南関ニ到ラントスルヤ支那兵ハ約ニ背キ突如手榴弾ト小銃ヲ以テ我ニ敵対セル為メ遂ニ戦闘開始サレ我カ守備隊ハ支那兵ヲ撃退シ南門ヲ占領シテ対峙ス

連盟ヨリ土ヲ除ク在欧各大使へ転電アリ度

28　昭和8年1月4日　内田外務大臣より在パリ沢田連盟事務局長、在米国出淵大使宛（電報）

山海関事件に関する陸軍省発表について

合第三六号

山海関事件ニ関スル三日陸軍省発表ノ声明書左ノ通

旧臘三中全会ノ決議及ヒ北平将領会議ノ結果ハ対日挑戦ニ依リ新タナ連盟ノ干渉ヲ誘引シ且ツ米露両国ヲモ引入レ以テ頽勢ニ向ツタ連盟及ヒ第三国ノ支那ニ対スル後援ヲ挽回セントスル謀略的企図ヲ示スモノテ満州国境ニ対スル兵力移動ハソノ具体化ノ一歩ニ外ナラス学良ハコノ計画ニ基イテ既ニ満州国境ニ兵ヲ進メ金品兵器弾薬ヲ送ツテ第一線部隊ノ挑戦的抗日意識ヲ煽ツテイタコトハ隠レモナイ事実テアルソノ全般的情勢カ末梢神経ヲ勤ムル第一線部隊ニ伝ハラナカツタラ不思議テ特ニ満支国境上神経カ最モ尖鋭化シ且ツ彼我両国軍隊カ鼻ヲ突キ合ハシテイル山海関方面ニ於テハ過般ノ射撃事件以来支那軍ノ敵愾心カ十分ニ燃エテイ

ル処ヘ何柱国ノ第九旅カ何ノ必要アツテカ第一線ニ兵力ヲ集中シテ挑戦的挙動顕著ナルモノカアツタカ遂ニ今次ノ事件トナツテ爆発シタモノテアル斯ク事件ノ誘引ハ全ク支那側ノ作為シタモノテアル上ニ直接動機ハ第九旅ノ無法ナル射撃ト義勇軍ノ爆弾投擲ニアツテ責任ハ全然支那側ニアル日本軍トシテハ該地方ニハ英、米、仏、伊ノ軍隊カアリ概シテ錯綜セル国際関係ニ鑑ミ且ツ多数同胞居留民モアルコト故常ニ隠忍自重シテ行動ヲ慎重ニシ無用ナ事端ノ発生ヲ極力注意シテイタノテアルカソレカトイツテ支那軍カ不法行動ニ出タ以上コレヲ黙認スル訳ニハ行カヌコレ寡兵ナカラ断乎トシテ膺懲ヲ加ヘタ所以テアル本事件ハ必スシモ従来ノ方針ヲ変更セシムルモノテナク若シ支那側ニシテ誠意ヲ披瀝シテ善後処置ヲ講スルナラハコレヲ局部的出来事ト認メ事態ヲ拡大セシムル意思ハナイ果シテコレタケノ事件テ終結スルカ更ニ一層大キナ問題ニ引延ハサルルカハ一ニ支那側ノ態度如何ニアル何柱国ノ如キモ和平解決ヲ申シ込ム一方増援隊ヲ送ツテイル状態テアルカラドウ変化スルカ今カラ断言ハ出来ナイ

連盟ヨリ土ヲ除ク在欧各大使ヘ転電アリ度

29　昭和8年1月4日　内田外務大臣より在天津桑島総領事、在北平中山書記官宛（電報）

熱河問題処理方針通達について

別　電　同日内田外務大臣より在天津桑島総領事、在北平中山書記官宛合第四〇号
熱河問題処理方針について

合第三九号　暗、極秘至急

天津発本大臣宛電報第八号ニ関シ

一、熱河問題ノ処理ニ付テハ其ノ帝国ノ内外政局ニ及ホス影響ノ重大ナルニ鑑ミ極メテ慎重ナル態度ヲ以テ之ニ望ムヲ要スルコト申ス迄モ無ク目下本省ニ於テハ別電第四〇号ノ如キ理由ヲ具シ関係ノ向ト処理方針ノ考究ヲ重ネツツアル次第ナリ

二、従テ此ノ際山海関事件ノ如キハ局地的解決ヲ計ルコト肝要ニシテ我方トシテ之ヲ機会トシテ平津地方ニ迄戦局ノ発展ヲ見ルノ虞アル行動ニ出ツルコトハ厳ニ之ヲ慎ムヘク往電合第二八号（二五文書）閣議決定ハ右ノ趣旨ニ出テタル次第ナリ尚ホ此ノ点ハ中央軍部ニ於テモ全然同意見ニテ往電合第一二号（連盟及米宛ハ合第二六号（二四文書））出先軍憲ニ対スル指令モ右閣議決定ト同一精神ニ基クモノニシテ軍部ニ於テハ前記指令ニ追掛ケ更ニ出先ノ自重ヲ促ス意味ノ電報ヲ発シタル趣ナリ一方往電合第二九号浪人取締ノ件モ亦彼等ノ軽挙妄動ニ依リ不測ノ事態ヲ惹起センコトヲ防止スル趣旨ニ外ナラス

就テハ叙上ノ次第貴官限リ極秘御含ミノ上今後トモ周到ナル注意ヲ以テ万遺漏ナキヲ期セラルル様致度

本電宛先　天津、北平

参考トシテ支、満、青島、済南、奉天、漢口、広東、南京、連盟、米ニ転電シ支ヲシテ上海ニ転報シ連盟ヲシテ土ヲ除ク在欧各大使ヘ転電セシム尚ホ満ヨリ裁量ニ依リ錦州ヘ転電セシム

（別　電）

合第四〇号　暗、極秘至急

(イ)満州問題ヲ中心トスル帝国ノ国際関係ノ現状ヲ省察スルニ今ヤ連盟ニ於テハ何トカ其ノ面目ヲ立テツツ事実上日支事件ヨリ手ヲ引カムトスル傾向ニアルモノト見ルヘク列国ノ態度モ亦次第ニ緩和シ来リ支那側ニテモ満州問題ハ最早致方ナシト見切ヲ付ケ右見切ノ下ニ日支直接交渉ヲ開始スル等ノ方針ヲ執ル外ナシトスルノ機運漸ク動キ始メタルモノト認メラル従テ我方ニ於テ右形勢ヲ巧ニ利用シツツ満州ノ内容充実ヲ計ル一方新ニ事態ヲ悪化スルカ如キ措置ニ出ツルコトヲ避クルニ努ムルヲ要ス

(ロ)然ルニ熱河問題解決ノ為メ此ノ際同地方ニ対シ急速ニ実力ヲ用ヒンカ現在ニ於ケル熱河地方ノ政治的、軍事的地位及熱河ト平津地方トノ関係ニ鑑ミ張学良軍ト衝突ヲ惹起スルノ虞甚タ大ナリト認メラレ此ノ場合蔣介石ハ勿論其他ノ将領モ大義名分上張学良ニ対シ相当程度ノ援助ヲ与フヘク加フルニ平津地方ニ於ケル帝国居留民ノ多数ナルコト及我カ北支駐屯軍ノ存在スルコト等ノ事情アルヲ以テ当然事態ノ急転拡大ヲ来スノ虞アリ

(ハ)而シテ一度我軍カ平津地方ニ於テ比較的大規模ノ戦闘ニ従事セムカ同地方ニ於ケル諸外国就中英米仏伊ノ居留民多数ニ上リ又英国等ノ権益ノ著大ナルモノアルノミナラス前記各国ノ軍隊モ駐屯シ居ル次第ナルヲ以テ外国側トノ間ニ種々ナル紛議ヲ醸シ或ハ延テ我方トシテ最モ好マシカラサル事態ヲ惹起スルナキヲ保セス

(ニ)又右ノ如キ外国側トノ紛議乃至事端ノ発生ヲ避ケ得ルト

スルモ我軍ノ平津地方進攻ハ折角好転シ来レル帝国ノ国際的地歩カ急転悪化スヘシ蓋シ平津地方ニ於ケル我軍事行動ハ満州ニ於ケルカ如ク我方トシテ主張スヘキ公明ナル理由ニ乏シク張学良ノ不信行為ニ基ク自衛措置ト主張スルモ連盟及列国ハ之ヲ以テ日本ノ対支侵略トナシ非難攻撃スヘク支那側亦之ニ乗シ其ノ伝統的政策タル以夷制夷的策動ヲ逞シウシ来リ満州問題ニ関スル頽勢ノ挽回ニ躍起運動ヲ事トスヘク斯クテ我方ハ容易ナラサル難局ニ立ツニ至ルヘシ

(ホ)尚又日本国民ハ満州問題ニ関シ上下一致シテ政府及軍部ヲ支持シ重大ナル犠牲ト負担トニ甘ンシツツアルモ右ハ満州ヲ以テ帝国ノ生命線ナリトスル国民ノ確信ニ由来スルモノニシテ平津地方ニ於ケル斯種軍事行動ニ対シ日本国民カ満州問題ニ対スルト同様ノ態度ヲ執ルヘシトハ思考セラレス万一帝国カ重大ナル難局ニ立ツカ如キ場合ニハ国民ノ政府及軍部ニ対スル信頼ニ破綻ヲ来シ延テ満州問題自体ニ迄累ヲ及ホス虞アリ要スルニ帝国ノ対満政策ヲ万一ニモ不成功ニ帰セシムルノ虞アルモノハ熱河問題ノ取扱如何ヲ措イテ他ニナシト云フモ決シテ過言ニ非サル次第ナリ

30　昭和8年1月(5)日　在北平中山書記官より内田外務大臣宛（電報）

山海関事件に関する張学良の外交団あて声明について

第三号

学良ハ山海関事件ニ関スル「ステートメント」ヲ外交団ニ宛テタル趣ヲ以テ首席公使ヨリ一月四日付「インディビジュアル、サーキュラー」ヲ以テ右写ヲ送付シ越セリ其ノ大要左ノ通

一月一日午後九時三十分軍服ヲ着用セサル日本兵ハ山海関停車場ニ一箇ノ爆弾ヲ投シ自称満州国警官ハ小銃数十発ヲ射テリ山海関支那側官憲ハ日本側ニ対シ其ノ理由ヲ尋ネシニ日本側ハ右ニ対シ最初其ノ発砲セシハ支那側ニシテ日本憲兵分遣所ノ窓破損セルハ其ノ証左ナリト応答シ同時ニ支那側ニ対シ住民ノ退去及支那軍ノ山海関城南門ヨリ撤退セシコトヲ要求セリ支那側ハ全部之ヲ拒絶セリ一月二日午前十時頃二箇ノ日本装甲列車ハ市街ニ向テ発砲シ約二百ノ兵ハ城壁ヲ攀シテ市内ニ入ラムト試ミタルモ支那側ノ抵抗ニ会シ其ノ目的ヲ達セス正午頃三箇ノ日本軍用列車ハ兵約三千名、野砲約二十門ヲ乗セテ山海関ニ到着シ同所及其ノ近隣ニ猛烈ナル攻撃ヲ行ヘリ午後三時頃六箇ノ爆撃機ハ市街ニ爆弾ヲ投シ多数ノ死傷者ヲ出セリ

右「ステートメント」ニ対シテハ東京四日発連合所載ノ説明全文接到ノ上夫ニ基キ回答ノ予定

支、南京、天津、満、巴里連盟ヘ転電セリ

31　昭和8年1月7日　内田外務大臣より在米国出淵大使、在パリ沢田連盟事務局長他宛（電報）

山海関事件の発端に関し追報について

合第六四号

山海関事件ノ発端ニ付テハ屢次ノ電報ニ依リ既ニ大体明瞭ナルヘキ処軍部ニテ天津駐屯軍ニ対シ再調査ヲ命シタル結果左ノ通ニ付為念電報ス

一日午後九時二十分同地憲兵分遣所構内同分遣所長宿舎山海関駅我軍鉄道監視哨舎及満州国国境警察隊付近ニ手榴弾ヲ投シ又小銃射撃ヲ加ヘタルモノアリ憲兵分遣所長宿舎ノ窓硝子ヲ破壊セル弾丸ハ山海関南側面城壁上ノ方面ヨリ飛来セシモノナルヲ以テ山海関守備隊長ハ（居留民保護上必要ナルハ勿論ナルモ）主トシテ憲兵分遣所ノ自衛上右犯人ヲ捜査逮捕スル為北清事変最終議定書ニ基ク弾圧治罪権ヲ行使セントシ山海関城南門ヲ守備隊ニ於テ一時警備スルコトヲ支那側ニ要求セルニ支那側ハ之ヲ承認セルヲ以テ山海関守備隊長ハ其ノ協定ヲ実行スル為一小隊ヲ南門ニ派遣セリ

当時同地ニ在リシ支那軍ハ右協定ニモ拘ラス不法ニモ前記ノ我部隊ニ対シテ手榴弾ヲ投シ射撃ヲ加ヘタル為我方戦死将校一、負傷下士官兵数名ヲ生セリ

巴里連盟ヨリ土ヲ除ク在欧各大使ヘ転電アリ度

支ヨリ南京ヘ転報アリタシ

（編注）本電報は、上海、満州国、北平、天津にも発電された。

32　昭和8年1月9日　在北平中山書記官より内田外務大臣宛（電報）

満州問題および山海関事件等に関する張学良の日本非難談話について

北平　1月9日後発

第一五号　　本省　1月10日後着

学良ハ八日支那及外国記者ニ対シ左ノ「インタービュー」ヲ為セリ

一、九、一八事件以来余ハ常ニ合理的和平方法ニ依リ事件ヲ解決セントセリ蓋シ和平解決コソ中日両国否全世界ノ福利ヲ増進スル所以ナレハナリ思慮アル日本ノ政治家モ亦多ク此ノ種和平観念ヲ抱キ居リシモ不幸ニモ激烈分子ノ犠牲トナリタル結果和平ハ遂ニ絶望トナレリ日本ハ事態拡大後其責ハ支那ニ在リトナスモ事実ハ明カニ其然ラサルヲ証シツツアリ

二、今次山海関事件ノ発生ニ際シ嘗テ日本ハ我軍隊ノ移駐ヲ指摘セルカ日本軍隊コソ却テ他国ノ国境ニ於テ自由ニ行動セリ我軍隊ノ移駐ハ純然タル侵略防止ニシテ此ノ種自衛権ハ他人ノ剝奪シ得ル処ニ非ス曩ニ某日人カ我軍隊移駐ノ原因ヲ質問セルヲ以テ余ハ右趣旨ヲ率直ニ述ヘ置ケリ日本ハ山海関占領後右ハ我軍ノ挑戦ニ基因スルモノナリト称スルモ誰レカ信スル者アランヤ

三、日本ハ自己ニ有利ナル事ニ対シテハ極力条約ヲ楯ニ取リ廃約ト雖之ヲ引用スルニ反シ不利ナルモノハ敢然否認スルヲ常トス本事件発生当初日本ハ責ヲ我方ノ爆弾投下ニ帰セルカ右事実ノ有無ハ扨置キ単ニ爆弾ノ所以ヲ以テ他国ノ都市ヲ占領シ得ヘキモノナリヤ尚本件ノ責ハ孰レニ在リヤ又如何ニ解決スヘキヤト余ニ問フモノアルモ余笑ツテ曰ク再度調査団ノ調査ヲ請フヲ可トスヘシ又解決方法ニ至リテハ東北問題ト同様事件発生原因如何ニ依リ決スヘシ

四、日本人ハ嘗テ連盟ニ於テ東三省ハ仮令中国ニ返ス共学良ニ返スヲ得スト称セルカ蓋シ其事端ハ余一人ノ醸セル処ナリト思考シ余ニ恨ヲ抱ケル結果ナルカ其実余ハ中国ノ一軍人ニシテ国家服務ノ一員タルニ過キス又日本カ満州国ヲ取消シ得サルハ日本人ノ面子関係ナリト称セルカ中国ニ取ツテハ国家及人民ノ生存ニ関スルモノニシテ面子ノ比ニ非ス事茲ニ至レハ吾人ハ熱血ヲ以テ祖国ヲ保護シ正義ヲ維持センノミ又日本ハ学良ノ生存スル限リ和平解決ハ望ミ得ヘカラスト称シ又中国ハ既ニ交戦ノ決心ヲ為セリト称セルモ日本ニシテ和平ヲ欲セハ和平ハ直ニ実現シ得可シ蓋シ中国ハ受身ノ地位ニ在レハナリ云々

右談話後某外国記者ヨリ中国ノ軍事行動如何ト問ヒシニ対シ張ハ明答ヲ避ケタルカ次テ中国ハ抵抗ノ決心ヲ為セルヤ否ヤトノ問ニ対シテハ中国カ抵抗スルヤ否ヤハ完全ニ日本ノ出方如何ニ依ルト答ヘタル由

公使、南京、満、天津、済南、青島、漢口、奉天、広東、哈爾賓ニ転電セリ

33　昭和8年1月9日　内田外務大臣より在仏国長岡大使、在ソ連邦大田大使他宛（電報）

山海関事件の経過について

合第八三号

「普通情報」

一、昭和八年一月一日午後九時二十分頃山海関日本憲兵隊構内ニ爆弾二個ヲ投シ且小銃二発ヲ発射シ同時刻ニ山海関駅内ノ日本監視兵歩哨所付近ニ爆弾二個ヲ投シタルモノアリ同地日本守備隊ハ居留民ヲ兵営内ニ引揚ケシメ一方同地支那軍（独立歩兵第九旅ノ部隊ニシテ旅長ハ何柱国）ニ交渉ノ結果前記爆弾投下等ノ犯人捜査及一般ノ治安維持（義和団最終議定書ニ基ク所謂弾圧治罪権ノ行使ナリ）ノ為南門ニ臨時ニ我兵ヲ配置スルコトニ支那側トノ間ニ打合成立セリ

二、翌二日午前我守備隊カ右打合ニ基キ兵ノ配置ヲ実施セントスルヤ支那兵ヨリ突如射撃ヲ受ケタルヲ以テ我軍ハ已ムヲ得ス之ニ応戦セルカ将校一名戦死シ兵卒二名負傷セリ（以上我軍及兵ハ何レモ義和団事件最終議定書ニ依リ北京、山海関ニ駐屯シ居ル所謂北支駐屯軍ニ属スルモノナリ）

三、右支那軍ノ我守備隊攻撃ノ報ニ接シ前所（山海関ヨリ満州国領域内ニ入リタル最初ノ駅ナリ）駐屯中ノ我部隊（関東軍）ハ同日午後山海関ニ到着守備隊ニ応援シ三日午後山海関ヲ占領シ支那軍ハ山海関市ヨリ二粁ノ石河（Shih ho）以西ニ退却目下石河ヲ挟ンテ対峙中ナリ

四、我北支駐屯軍司令官ハ二日夜張学良宛本件ハ学良軍ノ不法不正ナル行動ニ端ヲ発シタルモノニシテ其ノ責任ハ全然学良側ニ存スル旨警告ヲ発シタルカ在北平中山書記官ヨリモ同日湯爾和ヲ通シ学良ニ対シ非公式警告ヲ与ヘタリ

五、支那側ニテハ計画的ニ我方ヲ挑発シ之ニ対スル我軍ノ

行動ヲ以テ国際連盟ニ対スル宣伝ノ具ニ供セントスル意図アルモノノ如ク我方ニテハ右謀略ニ乗セラルルコトナク出来得ル限リ事態ノ拡大ヲ防止シ本件ヲ成ルヘク局地的ニ解決スルコトニ方針ヲ決定セル次第ニシテ今後ノ成行ハ一ニ支那側ノ態度如何ニ依ル訳ナリ

「満宛ニ「新京ヘ転報アリタシ」ト付加ス」

（編注）本電報は、「浦潮、アレキサンドロフスク、哈府、米、ブラジル、馬尼剌、新嘉坡、香港、漢口、支、済南、青島、天津、北平、満、吉林、哈爾賓、鄭家屯、牛荘、安東、鉄嶺、遼陽、間島」にも発電された。

34　昭和8年1月11日　内田外務大臣より在ジュネーヴ沢田連盟事務局長、在米国出淵大使宛（電報）

九門口占拠に関する軍司令部発表について

合第九八号

我軍ハ一月十日九門口（山海関ノ北方約十二粁、満州国支那国境ニアリ）ヲ占拠セルカ右ニ関シ在錦州我軍司令部ハ談話ノ形式ヲ以テ左ノ如ク発表セリ

「学良ハ関内外ヲ通スル残サレタ唯一ノ通路タル九門ヲ経テ正規軍或ハ偽義勇軍ヲ関外ニ送ツテ我後方ヲ撹乱セントシ九門ヲ放置スル時ハ山海関其他奉山線一帯ノ治安ハ終始脅ヤカサレル結果トナルノテ一挙ニコレヲ占拠シテ学良ノ策動ヲ防止シタノテアル而シテ勝ニ乗シタ日本軍カ敵ヲ追撃シテ関内ニ一歩テモ入ル様ナコトハ絶対ニアリ得ナイコトヲ断言スル」

寿府ヨリ在欧各大使ニ転報アリタシ

35　昭和8年1月11日　内田外務大臣より在ジュネーヴ沢田連盟事務局長、在米国出淵大使宛（電報）

満州における最近の治安状態に関する陸軍省発表について

合第一〇〇号

満州ニ於ケル最近ノ治安状態ニ関スル陸軍省発表（一月十一日）左ノ通

一、吉林省東境ノ討伐テ我部隊ハ六日夜兵匪ノ根拠地蜜山ツイテ虎林ヲ占拠シタノテ叛将李杜ハ蘇領ニ遁入丁超ハ帰順ヲ申込ンテ来タ之ニヨツテ熱河省ヲ除キ全満州ニ亘リ今ヤ集団的反満抗日軍ハ一掃セラレ僅カニ馬賊及ヒソノ類似ノ匪賊カ我威力ヲ避ケテ僻陬ノ各地ニ蟠居シ蠢動シテイル程度トナツタ昨夏高粱繁茂期ニハ二十有余万ヲ算シタ兵匪偽勇軍等ハ秋ノ討伐ニテ半減シ十一月末ニハ約四万ニ減少シタ今日マテニ帰順シタモノ約六万ナホ帰順ノ申込或ハソノ望アルモノ多数テアル

二、鉄道ハ満州国全線開通シテ何等ノ事故モナクマタ満州国ノ警察制度ハ昨年来統一刷新セラレ今ヤ満州国ノ治安ハ急速ニ回復セラレツツアルトキ恰カモ特産物ノ出廻期ニ際会シテイルノテ一般民衆カコレニヨリ享受スル経済的利益ハ大ナルモノアリシカモ中央銀行ニヨリ逐次確立セラレツツアル幣制ノ統一事業ハコレニ拍車ヲカケルモノカアル

熱河省ニハ黒竜江省及吉林省方面ヨリ遁走シテ来タ兵匪ヲ合シ約四万人ノ偽勇軍及ヒ数万ノ匪賊カ居ルマタ歩兵四ケ旅、騎兵三ケ旅ノ湯玉麟配下ノ熱河軍ノホカ張学良ノ歩兵四ケ旅ハ不法ニモ国境ヲ侵シ侵入ヲ敢テシ該方面ノ人心ヲ動揺セシメソノ治安ヲ紊シテイル目下赤峰、建平、凌源及ヒソノ南方長城ノ線ニ亘リ盛ンニ陣地ヲ構築中テアル

寿府ヨリ在欧各大使ニ転報アリタシ

36　昭和8年1月11日　在独国藤井臨時代理大使より内田外務大臣宛

ドイツにおける汪兆銘の談話について

ベルリン　1月11日付
本　省　2月24日着

公第二〇号

昭和八年一月十一日

在独
臨時代理大使　藤井　哲之助（印）

外務大臣伯爵　内田　康哉殿

汪兆銘ノ言論ニ関スル件

客秋以来当国「チュービンゲン」（「ウィルテンベルク」邦）熱帯病研究所ニ療養中ナリシ汪兆銘ハ本月初旬山海関事件ニ関連シ支那ノ宣戦布告説当国ニ伝ハリシ際「ストットガルダー・ノイエスターゲブラット」ノ記者ヲ引見シ右報道ヲ否認セル由当地新聞ニ掲載セラレ居ルカ右掲載ニ基キ其談話概要左ノ通リ報告ス

日支間交戦状態ノ発生ヲ説クモノアレト余ハ之ヲ信セス

蓋シ両国ハ共ニ国際連盟員ニシテ国際間ノ紛争ハ平和的ニ之ヲ処理スヘキ明示ノ義務ヲ負担シ居ルヲ以テナリ啻日本カ軍事行動ヲ採レルニ対シテハ其地域ノ如何ヲ問ハス支那ハ一致シテ最良ノ防禦手段ヲ採ルヘシ蓋シ日本ノ行動ハ全支ニ向ケラレタルモノト解スヘケレハナリ自分ハ日本ノ侵略防衛ノ為メ支那ハ全力ヲ尽スヘシト謂フモ支那ハ今日尚宣戦布告ヲ為スニハ国力ノ足ラサルヲ良ク自覚ス支那カ列国ニ求ムル所ハ第一次ニハ道徳的支持ナリ連盟ノ明確ナル判定ハ何レカ正ニシテ何レカ不正ナルカヲ確定スヘシ

「リットン」報告ハ満州ノ事態ヲ最モ良ク解明シテ同地ノ政府カ日本ノ手中ニ踊ル傀儡ニ過キサルコトヲ証シタリ自分ハ同報告中ノ提案ニ全然同意スルヲ得サルモ之ヲ基礎トスル交渉ニハ応スルノ用意アリ支那ハ日本トノ紛争ニ於テ独往ノ意気ヲ有シ従ツテ蘇連邦トノ間ニ同盟アリトノ説ノ如キハ当ラス両国間ニハ通常ノ外交関係ノ回復ヲ見タルノミ内政問題ニ関シ二年前迄ハ自分ト蔣介石トノ間ノ意見ノ相違相当顕著ナルモノアリキ自分ハ支那ニ於ケル真正ノ民主々義ヲ高調シ彼ノ独裁政治ニ対抗セリ然レトモ満州事件発生後ハ斯ノ如キ内政上ノ闘争ハ全ク影ヲ潜メ全国民一致外侮ヲ禦クニ汲々タリ云々

因ニ本月十日当地新聞ハ汪兆銘カ国民政府ノ招電ニ接シ急遽当国ヲ引上ケ帰国セル旨報道ス右為念申添ユ

（本件写送付先　英、仏、連盟）

37　昭和8年1月12日　内田外務大臣より在ジュネーヴ沢田連盟事務局長、在米国出淵大使他宛（電報）

山海関事件に関する日本軍の措置の法的根拠について

合第一〇九号

山海関事件ニ付我軍ノ執リタル措置及ヒ今後執リ得ヘキ措置ニ関シ当方ニ於テ「ベテー」博士ニモ諮問シ研究セル法的根拠左ノ如シ

一、山海関ニ於ケル我駐屯軍ハ一九〇一年北清事変議定書第九条ニ基キ北京海浜間ノ自由交通ヲ維持スヘキ権利ヲ有スル外一九〇二年天津還付ニ関スル交換公文ニ基キ鉄道沿線両側二哩以内ノ区域ニ於テ鉄道線路及電信線並ニ駐紮軍人及其ノ所有物品ニ関シ弾圧治罪権ヲ有シ居レリ

（右交換公文中日本側往翰第一ニ右弾圧治罪権ヲ裁判権ト記シ居ルモ右ハ普通ノ裁判権ニ限ルモノニ非スシテ支那側覆函ノ如ク弾圧治罪権即チ取締及処罰ノ権利ノ意義ニ解スヘキモノナリ）

二、同地ニ於ケル今回ノ事件中最初支那側ニ於テ我憲兵隊等ニ対シ爆弾ヲ投下セルニ対シ我駐屯軍カ南関ヨリ南門ニ至ル区域ノ配兵捜索ヲ行ヒタルハ右弾圧治罪権ノ発動トシテ条約上ノ権利ヲ行使セルモノナル処其ノ間何柱国軍ノ不法攻撃アリタル為我駐屯軍並来援セル関東軍及日本軍艦ヨリ反撃ヲ加ヘ石河地域迄撃退シタルカ右ハ弾圧治罪権ノ外軍ノ安全及居留民保護ヲ目的トセル自衛措置ヲ行ヒタルモノナリ

三、我方ニ於テ右事件ニ関連シ弾圧治罪権ニ基キ支那側ニ要求シ得ヘキ事項左ノ如シ

(イ)日本軍ヲ攻撃セル何柱国軍隊責任者ノ引渡ヲ要求シ之ヲ処罰シ得ヘシ

(ロ)沿線二哩以内ノ区域内ニ関スル限リ鉄道線路電信駐紮軍人及其ノ所有品ニ関連スル広汎ナル治安取締ノ権利ニ基キ此ノ際何柱国軍隊ノ撤退ヲ要求シ得ヘク又何柱国軍隊タルト又別個ノ軍隊タルトヲ問ハス鉄道沿線両側二哩以内ヘノ進入ヲ禁止シ得ヘシ

右ハ前記交換公文日本側往翰第一ニ弾圧治罪権ヲ承認シタル理由トシテ「又外国兵ト貴国兵ト衝突ノ機会ヲ成ルヘク避クルコト望マシク」トアル趣旨ニモ合致スル所ナリ（弾圧治罪権ハ当初其ノ当然ノ結果トシテ支那兵ノ鉄道沿線両側二哩以内ニ立入ルコトヲ禁止スル意味ヲ有スルモノナルコト当時各国間及支那ト各国間ニ了解アリタル次第ナルカ其後各国側ニ於テ事実上山海関其ノ他ニ支那兵ノ駐屯ヲ黙認シ来レルニ鑑ミ右区域内ニ永久的ニ駐兵禁止ヲ主張スルハ困難ナルヘキモ少クトモ治安取締ノ必要ニ基キ当分ノ進出ヲ拒否シ得ヘキコト当然ナリ）

四、又我方ハ前記北清議定書ニ基キ北京海浜間ノ自由交通ヲ維持スヘキ権利及義務並ニ国際法上軍ノ安全及居留民保護ヲナスヘキ権利及義務ヲ有スルヲ以テ右ニ基キ支那軍ニ対シ一定距離外（鉄道沿線両側二哩内外ヲ問ハス）ヘノ撤退方ヲ要求シ得ヘキナリ蓋シ既ニ日本軍ヲ攻撃シ且今尚敵意ヲ有スル何柱国軍隊カ日本軍ノ近クニ存在スルコトハ北京海浜間ノ自由交通及軍ノ安全ニ対スル脅威

ニシテ我軍カ自由交通ヲ維持スヘキ義務及居留民保護ノ職責ヲ行フ上ニ障害タルヘキコト明ナルヲ以テナリ

五、本件権利行使ハ居留民保護ヲ目的トスル場合ニハ単独行動ニ出ツルヲ得ヘキコト論ヲ俟タサル所ナルカ天津還付ニ関スル交換公文及北清議定書ニ基キ之ヲ為ス場合ニモ我方単独ニテ之ヲ為シ得ヘキモノニシテ必スシモ関係国トノ共同行動ニ依ルコトヲ必要トスルモノニ非サルナリ蓋シ右交換公文ハ「アイデンティカル、ノート」ニシテ北清議定書ハ多数国間ノ条約ナルモ右ハ当該国カ単独ニテ該条約上ノ権利ヲ行使スルコトヲ禁スルモノニ非サルコト曾テ仏国カ「ヴェルサイユ」条約ニ依ル「ルール」占領ヲ単独ニテ行ヒタルニ徴スルモ明ナリ又之ヲ先例ニ徴スルモ一九三一年十一月天津事変ノ際我駐屯軍ハ単独ニテ支那軍ヲシテ租界ヨリ一定距離外ニ撤退セシメタリ

本電宛先　連盟、米、支、北平、満

支ヨリ南京ニ転報アリ度

北平ヨリ天津ニ転電アリ度

連盟ヨリ土ヲ除ク在欧各大使ニ可然転報アリ度

38　昭和8年1月(18)日　在ジュネーヴ連盟代表より内田外務大臣宛（電報）

山海関事件に関する中国代表の連盟あて通告について

第二六号

山海関事件ニ関スル十四日付支那代表ノ連盟通告（張学良ノ南京宛電報）中要点左ノ通

一、日本軍ノ山海関攻撃ハ一日朝ヨリ準備セラレ空列車ハ綏中迄送ラレ居タリ

二、一日午後一時日本軍ハ諸方ニ於テ爆撃射撃ヲ行ヒ又南門外ノ支那兵ヲ射チタリ

三、二日午前二時日本軍憲ハ四要求ヲ提出シ拒絶セハ市街ヲ武力占領スヘシト脅威シテ之カ即時受諾ヲ強要セリ

四、支那側ハ事実調査ヲ待チテ夜明ニ交渉方回答セルニ日本軍ハ直ニ南門公安局長ヲ逮捕シ午前十時陸海軍ヲ以テ攻撃ヲ開始セリ

協定纏マレリト言フハ事実無根ナリ右公安局長カ何等協定セリトスルモ逮捕中ナルニ付無効ナリ

39　昭和8年1月19日　在北平中山書記官より内田外務大臣宛（電報）

山海関事件に関する劉外交部次長の新聞記者談について

北平　1月19日後発
本省　1月19日後着

第三三号（暗）

目下来平中ノ劉崇傑外交次長ハ河北ノ情勢緊張セル為当地ニ駐在ノ事トナリタルヤニテ十四日以来外交大楼ニ移リ執務シ居レルカ十八日支那記者ニ対シ左ノ如ク語レル由

日軍ノ山海関侵略ハ世界ヲ震駭セシメタルカ日本政府ハ之ヲ地方問題視シ極力局地的ニ解決セントセル処我方ハ此ノ種日本ノ外交宣伝カ煙幕弾ノ如ク之ヲ以テ国際視聴ヲ困惑セシメントスルモノニシテ同事件ハ完全ニ外交問題ナリト看做シ居リ又十二月九日ノ第一次山海関事件ニ関スル協定ノ如キハ完全ニ無効ナリト認メ居レリ予ハ来平後数次学良ト会見セルカ学良ハ外交問題ニ関シテハ絶対ニ中央服従ノ意ヲ表シ居リ従テ日本側ノ宣伝スル地方交渉説ノ如キ漸次下火トナレリ尚予ハ連日各国公使ト会見シ居リ政府ノ招電アル迄離平セス云々

因ニ十九日劉側ヨリ本官ノ来訪ヲ夫ト無ク慫慂シ来リタルモ本官ヨリノ往訪ハ時節柄機微ナル関係モ有リ暫時見送ル所存ナリ御含置ヲ請フ

支、南京、天津、満、奉天ヘ転電セリ

40　昭和8年1月24日　在福州守屋総領事より内田外務大臣宛（電報）

ランプソン英公使の動静について

福州　1月24日後発
本省　1月24日後着

第三二号（暗）

一、「ランプソン」公使ハ駆逐艦「ブルース」号ニテ二十二日当地着英国領事邸ニ一泊二十三日夜領事邸ノ晩餐会（支那側要人及領事団）ニ出席シタル後十二時馬尾発上海ニ直行セリ二十四日上海着ノ予定ナル趣ナリ尚「ラ」ハ十日位上海滞在ノ上北上スヘシト随行ノ「サー、エリック」ハ語レリ支那側ハ二十二日ノ夕刻蔣光鼐ノ名ヲ以テ茶ニ公使ヲ招待シ要人出席ノ上談話ヲ交換セルカ（招待セラレタルハ公使以外ハ英国領事ノミナリ）晩餐会ニハ蔣以下要人数名モ出席シタリ

二、「ラ」公使トハ長時間雑談ノ機会アリタルカ其ノ際彼ハ蔣光鼐ノ人物ヲ称揚シ福建ノ秩序ハ彼ニ依リテ回復サルヘシトノ趣旨ヲ繰返シ述ヘ居リタリ

支、北平、南京、漢口、広東、汕頭ヘ転電セリ

支ヨリ上海ヘ転報アリタシ

41　昭和8年1月26日　在上海有吉公使より内田外務大臣宛（電報）

段祺瑞の南下および目的に関する情報について

上海　1月26日後発
本省　1月26日後着

第五五号（暗）

往電第五三号㈡ニ関シ

段南下ノ目的ニ付其ノ後入手セル情報左ノ通リ何等御参考迄

㈠二十四日不取敢王長春ニ旨ヲ含メテ段ニ面談セシメタル処段ハ王ニ対シ外間種々風評アル今日自分ハ日本側トノ面会ハ成ルヘク避クル方賢明ナリト考ヘ居レリ今次ノ南下ハ蔣ノ招請ノ外上海ニ於ケル私用モアリタル為ニテ当分上海ニ滞在スル積リナルカ東洋平和ノ為日支両国カ速ニ直接交渉ニ入ランコト切望ニ堪ヘサルモ日本側カ相当譲歩ヲ為ササル限リ中々面倒ナルヘキ旨語レル趣ナリ

㈡二十五日銭永銘（段祺瑞ノ使者トシテ赴津）ト親密ナル滙業上田ヲシテ銭ニ就キ尋ネシメタル処ニ依レハ段ハ此ノ上天津ニ留ルニ於テハ益々国民ノ疑念ヲ強ムル関係モアリ南下ヲ考ヘ居タル矢先蔣ヨリ国難ニ際シ意見ヲ聴キタシトテ招請シ来リタルヲ以テ南京ニ赴キタルモノナルカ急ニ天津ニ帰ル意向無キ模様ナリ又段ハ日支関係ニ付日本側ヨリ譲歩無キ限リ改善困難ナルカ日本側ノ譲歩ハ期待出来サル為両国関係ノ改善ハ当分見込無シト考ヘ居ル様子ナルモ銭ハ段ノ南下ハ両国関係ニ悪結果ヲ齎スモノニアラスト思フト述ヘタル趣ナリ

尚同日李思浩ノ側近者タル盛沛東ヲシテ李ニ確メシメタルニモ大体右ト同様ニシテ段ハ今後ハ政客トノ接触ヲ避ケタキ意向ナル趣ナリ

満、北平、天津、済南、南京、広東ヘ転電シ上海ヘ転報セリ

42　昭和8年1月26日　在南京上村総領事代理より内田外務大臣宛（電報）

段祺瑞および張学良の南下ならびに蔣介石の態度に関する彭学沛の内話について

南京　1月26日前発
本省　1月26日後着

第五六号（暗）

二十五日彭学沛ノ内話中御参考迄左ノ通リ

一、段祺瑞ノ南下ハ安福派其他カ北支ニ於テ段ヲ擁立セント策動シ居ル処若シ日本軍平津ニ進入シ之ニ加担シ溥儀執政ト同シ手段ニ出テ北平ニ段ヲ擁立スルカ如キコトアラハ一大事ナリトノ蔣介石ノ考ヘヨリ段ノ南下ヲ懇請シタル次第ナルカ段モ蔣ト同様ノ危険ヲ抱キ居タル為意ヲ決シ南下シタル次第ナリ而シテ段ハ天津日本租界ニ在住スル関係上平津ニ事アル場合日本軍ニ利用セラルル惧レ多分ニアル次第ニ付段自身ハ明言セサリシ趣ナルモ南京側ニテハ段ハ多分北支ノ情勢ニ付見据付ク迄ハ帰津スルコト無カルヘシト観測シ居レリ

二、張学良ノ南下ハ日本トノ関係北支ノ事態等ニ付蔣ト隔意無キ意見ノ交換ヲ為ス為メナリシハ勿論ナルカ最近蔣ハ学良ニ対シ内心ニ於テハ以前程同情ヲ有セス且蔣ハ真ノ心中ハ宋子文辺リニサヘ滅多ニ洩ラササル程ノ性格ナルヲ以テ張トハ可然応酬シタルコト想像ニ難カラサルカ胸襟ヲ開キテ相談シタリトハ思ハレス兎ニ角学良ハ従来通リ北平ニ在リテ蔣ノ後援ニ依リ北支ノ守護ニ任スルコトニ話合ヲ遂ケタリトノコトナルカ蔣自身ハ心中別ニ各種ノ場合ニ処スル具体案ヲ抱キ居ル模様ナリ

尚蔣張会見ノ結果支那ノ対日態度硬化セリトノ説ハ当ラス尤モ山海関事件以来逐日対日硬ノ議論熾ニ為リ宋子文ノ如キハ可成リ乱暴ナル議論ヲ為シ居ルモ之亦最後ノ決定ハ蔣ノ肚ニ在リ蔣ノ真肚ハ目下何人モ承知セサル模様ナルカ蔣ノ人物ニモ顧ミ危険ナル行動ニ出ツ可シトハ想像セラレス

三、自分ハ今朝モ蔣ト会談シタルカ近時最モ蔣ノ頭ヲ悩メ居ル問題ハ広東（問題）ナリ広東ハ若シ南京カ対日問題、対熱河問題ニ付国民ノ信望ヲ裏切ルカ如キコトアラハ広東ノ独立ヲ宣言スヘシト敦圉キ居リ広東独立センカ広西、福建、雲南、四川ニ波及スル虞アレハナリ尤モ蔣ハ孫科ハ殆ト問題トシ居ラス孫科ノ議論ニ依リ蔣ノ心ヲ動

カスカ如キコト有リトハ思ハレス

四、従テ熱河ノ問題ニハ蔣モ相当覚悟シ居リ学良モ相当ノ抵抗ヲ為ス積リノ如シ蓋シ熱河ヲ易々日本ノ手ニ渡サハ学良ハ素ヨリ蔣ノ地位サヘ危ケレハナリ然レトモ蔣ノコトトテ事端余リ広汎ニ渉ラサル様其処ニハ相当ノ手段ヲ施スノ用意ハ有ル模様ナルカ内政上ノ理由モ有リ楽観シ得サル可シ

五、汪兆銘ヨリハ最近約二週間後ニハ帰国ノ途ニ就キ得ル旨ノ電報有リ未タ学良ノ問題ニ付蔣汪間ニハ何等ノ話合モ無キ次第ナルカ学良ニ対スル反感ハ各方面ニ於テ愈濃厚ト為リ蔣モ稍々持余シ気味ナルニ依リ素ヨリ自分ノ単ナル想像ナルカ汪帰国後ハ此ノ方面ニモ何等変動有ルヤモ知レス云々

支ヨリ上海ヘ転報アリ度シ

支、北平、満、奉天、天津、青島、済南、漢口、広東、福州ヘ転電セリ

43　昭和8年1月26日　在天津桑島総領事より内田外務大臣宛（電報）

段祺瑞南下に関する張大公報主筆の談話要領について

天津　1月26日後発
本省　1月27日前着

第七〇号（暗）

段[1]ノ南下ニ関シ廿四日大公報主筆張熾章ノ当地大阪朝日ノ野口ニ対スル談話要領左ノ通

自分ハ三日南京ヨリ帰来セルカ今回段ノ南下ニ付一部ニハ対日硬化ヲ計ル為ナリトノ説アル処事実ハ然ラス蔣介石ハ共匪討伐其ノ他内政問題ヨリスルモ見極メ付カサル日支問題ニ長ク係ハルヲ困難トスル上現在ノ日支紛争ハ大局上ヨリ観テ東洋ノ危機ナルニ付直接交渉ニ依リ成ルヘク速ニ解決シ度キ希望ナル処偶々有吉公使来訪ノ際羅文幹及劉崇傑ニ対シ直接交渉ヲ為シテハ如何トノ話アリタルヲ好機トシ種々考慮ノ結果段ノ南下ヲ請ヒタルモノニテ蔣ノ肚ニテハ直接交渉ハ日本ヨリ切出スコト勿論無ク結局支那側ヨリ切出ササル可カラサルモ従来ノ行懸上南京政府トシテハ之ヲ為シ得サル処幸ヒ段ハ日本側ニモ良ク支那側トシテモ其ノ人物閲歴上随一ノ元老ニテ重キヲ為スニ依リ段ヲ中継トシ日支双方ノ意見ヲ交換シ大体ノ見当着キタル上段ヲシテ南京政府ニ直接交渉ヲ進言セシメ政府之ヲ容諾スル形トスルコトトシ差当リ段ヲ暫ク南方ニ遊ハセ置キ此ノ間政府部内ノ意見ヲ纒ムル模様ナルニ付日本側トシテモ段ヲ初メ南京ノ陳輝及上海ノ黄郛辺リト（政府要人トノ話合ハ機宜ニ非サルヘシ）此ノ上トモ連絡スルコトヲ希望ス自分カ二十三日劉崇傑ト会談ノ節劉モ同様意見ヲ述ヘ居リ其ノ際劉ハ日本ハ飽迄侵略シ来ルモノト思ヒ居リシニ有吉公使ヨリ直接交渉ノ話アリ意外ナリシカ直接交渉ノ第一歩ハ山海関及熱河方面ノ停戦協定ナリト語レリ自分モ政府要人ヨリ多少ノ依頼ヲ受ケ居リ時機ヲ見テ当地総領事又ハ領事ニ面談シ度シ尚日本軍部ハ飽迄学良駆逐ヲ主張スレ共右ハ蔣ノ立場トシテ絶対ニ為シ得サル処ナルニ付此ノ点了解アリ度シ

尚張ノ話振リニテハ支那軍トシテハ東三省ハ既ニ諦メ居レトモ停戦協定ニ依リアハ良クハ熱河ヲ保持セントスルモノノ如シ

支ヨリ上海ヘ転報アリ度シ

支、北平、南京ヘ転電セリ

（編注）本電報は、一月二十八日内田外務大臣より在ジュネーヴ沢田連盟事務局長、在米国出淵大使に転電された。

44　昭和8年1月27日　在上海有吉公使より内田外務大臣宛（電報）

国民政府顧問パドウの時局収拾案について

上海　1月27日後発
本省　1月27日後着

第五七号（暗、極秘扱）

南京[1]ヨリ来滬ノ国民政府顧問「パドー」カ旧友間ノ打明話トシテ二十六日須磨ニ語ル処大要左ノ通

一、国民政府カ連盟最近ノ態度ニ不満ヲ感シ居ルハ事実ナルモ右ハ連盟カ日支問題ノ解決ヲ徒ニ遷延シ居ルカ為ニテ国民政府トシテハ別ニ連盟脱退ノ意向ハ無ク今ノ処飽迄連盟ニ依頼シテ問題ヲ有利ニ解決セントシ居ルモノノ如シ最近日本ノ連盟脱退説喧伝サレ居ル処若シ日本ニシテ事件発生ノ当時ヨリ脱退ノ決意ヲ表明シ居タランニハ連盟ノ形勢ヲ一層有利ニ導ク事ヲ得タル可シ伝ヘラルルカ如キ米国ノ対支借款等支那援助説ハ事実ニ非サルカ如キモ内田外相ノ議会演説ニ対スル羅文幹、顧維鈞等ノ批評中ニハ世界各国人ニモ耳ヲ傾ケシムルニ足ル点鮮カラスト存セラルルヲ以テ日本ニシテ此ノ上強硬ノ態度ニ出テ連盟ヲ脱退スル等ノ事

有リテハ世界輿論ノ支持ヲ失ヒ苦境ニ陥ル無キヲ保シ難シ

二、[2]蔣介石、宋子文等国民政府要人ハ日支問題解決ノ為日本側ヨリ何等カノ「ジェスチュア」アルヲ希望シ居ルモノノ如キ処私見ニ依レハ例ヘハ一九二四年ノ露支協定中ニアル外蒙古ニ関スル条項ノ如キ「ライン」ニテ日本ノ為シタル満州国ノ「フォーマル、レコグニション」ハ満州国ヲ「デ、ファクト」ノ政府トシテ承認シタル意味合トシ実権ハ日本ニ於テ之ヲ握ルコト紛争ノ解決促進上最モ有効ナリト思考スルモ右困難ナルニ於テハ熱河問題ヲ以テ日本側譲歩ノ目的物トセラルルコト然ル可シ即チ熱河ノ如キ広大ナル地域ニ日満両国ノ資力ヲ傾倒スルヨリモ之ヲ政治的「バーゲン」ノ対象物ト為シ熱[3]河ヲ満州国ニ包含セシムル代償トシテ満州国ニ対シ支那ノ名義上ノ宗主権ヲ承認スルカ或ハ熱河ヲ満州国ヨリ除外スル代リニ支那ヲシテ東三省ノ独立ヲ承認セシムルカ孰レカ一方ヲ採ラルルコト一案ナル可シ何レニセヨ熱河問題ノ早急ナル武力的解決ハ世界ノ同情ヲ得難シ

三、支那側責任者ハ若シ山海関事件ヲ地方的ニ解決スルニ於テハ外部ヨリ満州ハ既ニ諦メタルカ如ク取ラルルコト及第二第三ノ山海関事件突発ス可キヲ虞レ地方的解決ヲ遷延シ抗日ノ気勢ヲ挙ケ居ルモ抗日運動ハ内部的統制ヲ欠キ居ル為声ノミ大ニテ実行性ニ乏シ

右会談ハ「パ」ノ地位ニモ鑑ミ絶対極秘トセラレ度シ為念

満、南京、北平ヘ転電シ上海ヘ転報セリ

45　昭和8年1月28日　在上海有吉公使より内田外務大臣宛（電報）

ランプソン英公使日本の自重方要望について

上海　1月28日後発
本省　1月28日後着

第六一号（暗）

[1]一月廿五日夕着電セル「ランプソン」公使本使ト往復ノ節談話中主ナル点左ノ如シ

「ラ」ハ自分ハ極東ノ和平ハ日支親善ニ俟ツ外ナシトノ信念ニテ従来右ノ主張ニ終始シ来リタルハ芳沢氏初メ日本ノ旧同僚モ熟知シ居ラルル処ト存ス従テ今次広東初メ南方各港ニ立寄リノ際モ時々無責任ナル支那政局ノ対日強硬策ヲ説クモノニ対シテハ先ツ以テ自国内ノ統一ヲ先決問題トスヘク実行不可能ナル「フール」ナルコトハ断シテ止メニスヘキ旨力説シ来リタル次第ナリ自分ハ暫ク現地ヨリ遠サカリ大分時勢ニ疎クナリ居ルモ過去ノ事実ハ今更格別必要ナラサルヘク須ラク現実ヲ見テ善処スル外ナシト考ヘ居レリト云ヒ主トシテ北方ノ状勢ニ関心ヲ払ヒ我方カ関内ニ此ノ上トモ進軍スル意志ナキヤニ付質ス処アリタルニ付本使ハ我政府ニ於テ斯カル意図アラサルハ勿論ニシテ山海関ノ占領モ支那側ノ挑戦ニ依リ悲シムヘキ偶然ノ出来事ノ結果ニ外ナラス九門口ノ占領モ之レニ伴フ軍ノ安全ヲ計ルタメノ自衛手段ノミ只熱河問題ハ我外相カ議会ニ声明セル如ク早晩解決ノ要アルヘキモ政府トシテハ能フヘキ限リ和平手段ニ出ツルノ考ト認メラレ関内ニハ支那側ヨリ進撃セサル限リ事件ヲ波及セシメサル方針ナリト了解シ居ル旨説明シ唯[2]平津地方ニハ十数万ノ学良其他雑色軍ノ駐屯スルアリ若シ統率者ニシテ失脚シ或ハ給料不払ニテモ久シク続カンカ忽チ兵変ヲ起シ少クトモ天津地方ハ危殆ニ瀕スル惧鮮カラス憂ハ寧ロ支那兵自体ニ在ルモノノ如シトセルニ同人モ首肯シ居タリ尚「ラ」ハ此ノ上日本カ支那ノ神経ヲ刺戟スルカ如キコトヲ為スノ不得策ナルヘキヲ説ケルニ付本使ハ熱河ヲ含ム満州国ノ健全ナル発達ト之カ治安維持ヲ計ルヲ限度トセル我政府ノ方針ニ見テ支那側ノ挑戦ナキ限リ斯ル心配ナカルヘシト答ヘ置ケリ

「ラ」ハ満州国ニ対スル日本ノ決心ハ篤ト承知シ居リ斯クシテ日支ノ親善ヲ計ラントスルニハ唯時ト忍耐ヲ要スヘシト為シ少クトモ此ノ際ハ双方互ニ自制シ此ノ上事態ヲ悪化セシメサル様努力セラルル外ナカルヘシト述ヘ差当リ支那ノ治安維持ニハ蔣介石ト宋子文ノ連立ニ待ツノ外ナカルヘシトシ蔣カ万一失脚スルカ如キ場合ニハ長江ニ現ハルル者ハ広東派ナラスシテ赤匪タル惧多分ニ有リト（語リ）居タリ

何等御参考迄

46　昭和8年1月(28)日　在南京上村総領事代理より内田外務大臣宛（電報）

日本軍飛行機の開魯爆撃に対する羅外交部長の抗議について

第五九号

本官発支宛電報

第五八号

外交部長（羅文幹）ヨリ二十七日付公文ヲ以テ左ノ通申越セリ

日本軍ハ東三省ノ不法占拠後時ニ熱河辺境ヲ侵シ其飛行機ハ任意ニ熱河ニ至リ爆撃シ居レル処報告ニ依レハ本月二十三日日本飛行機六台開魯ニ至リ爆弾二十余個ヲ投下シ又二十三日ニハ前後九台ノ飛行機ヨリ七八十個ノ爆弾ヲ投下シ人民数十名ヲ殺シ更ニ多数ノ負傷者ヲ出シタル外驢馬十余匹ヲ殺シ家屋四五十及無数ノ器物ヲ破壊セル趣ナリ査スルニ日本軍ハ予定ノ計画通積極的ニ侵略シ居レルカ今回山海関占拠後一層忌憚ナク熱河ニ進出シ飛行機ヨリ無辜ノ民衆ニ対シ爆撃ヲ加ヘ生命及財産上ノ損害ヲ与ヘタル此種残虐行為ハ法津上ノミナラス人道上亦許ササル処ナリ依テ厳重抗議ヲ提出スルニ付貴国政府ニ転電シ飛行機ノ此種不法行為ヲ直ニ制止セシメラレ度ク尚開魯ノ爆撃ニ依リ蒙リタル生命財産ノ損害ニ関シテハ一切ノ要求権ヲ留保ス

原文郵送ス

上海ヘ転報アリタシ

満ヨリ長春ヘ転報アリタシ

大臣、北平、満、奉天、天津、青島、済南、漢口、広東、福州ヘ転電セリ

47 昭和8年1月28日 内田外務大臣より在ジュネーヴ沢田連盟事務局長、在米国出淵大使宛（電報）

山海関事件は中国側の責任と国民政府に回答について

合第二七四号（暗）

南京発在支公使宛電報第五一号ニ関シ

在支公使ヨリ左ノ趣旨ニ依リ回答スルコトトナレリ

山海関ニ於ケル事件カ総テ中国側ノ不法行為ニ依ルモノナルコト及本件ニ伴フ一切ノ責任カ中国側ニ在ルハ本月十一日付往翰ノ通ナリ又九門口等ニ於ケル日本軍ノ行為ハ元来貴方軍隊カ長城ヲ越エ満州国内ニ侵入シ同方面ノ治安ヲ攪乱シツツアルヲ以テ治安維持上之ヲ追払ヒタルニ止マル次第ニシテ純然タル満州国内ニ於ケル我軍ノ行動ニ属シ之ニ対シ貴方ヨリ抗議ヲ受クヘキ筋合ニアラス又北平等ニ於ケル行軍演習ハ慣例及条約ニ基クモノニシテ何等違法ニアラス

寿府ヨリ土ヲ除ク在欧各大使ヘ転電アリ度

48 昭和8年1月29日 在上海有吉公使より内田外務大臣宛（電報）

ランプソン英公使の日中紛争調停に関する情報について

上海　1月29日前発
本省　1月29日後着

第六四号（暗、極秘扱）

英国公使ノ帰任ニ関連シ最近ノ漢字紙中「ランプソン」ハ英国ノ在支利益擁護ノ為日支紛争ノ調停ニ乗出サントスル意向ヲ有スル旨ノ消息ヲ伝フル者有リ又曩ニ路透「チャンセラー」ハ須磨ニ対シ相当信頼シ得可キ情報ニ拠レハ宋子文ハ竊ニ上海ノ英人実業家「ケヅウェック」ヲ香港ニ派シ日支問題調停ニ対スル「ラ」ノ意向ヲ探ラシメタル旨語レル趣ノ処右調停説ニ関シ二十七日「イングラム」カ極秘ノ含トシテ須磨ニ語ル処大要左ノ通何等御参考迄

学良ハ最早命脈無ケレハ熱河問題、山海関事件等ノ交渉ハ結局南京政府ヲ相手トスル外無カル可キモ南京政府トシテモ此等ノ問題ヲ地方問題トシテ部分的ニ解決スルハ困難ナルヘク矢張日支全般ノ問題トシテ支那側ハ日本ヨリ何等カノ「ジェスチュア」ヲ期待シ居ルモノノ如シ日支両国ニ対スル英国ノ友好関係及調停者トシテノ人物等ヨリ観テ日支間ニ「グッド、オフィセス」ヲ提供シ得ル者ハ「ラ」公使ヲ置キテ他ニ適任者無シトハ単ニ自分ノ意見ナルノミナラス支那側ニ於テモ「ラ」ノ出馬ヲ希望シ居ル向キモ有ル模様ナルカ現在ノ処

(一)支那側ハ今尚連盟ニ一縷ノ望ヲ懸ケ居ル事

(二)孫科等ハ蔣宋等カ日本ニ対シ譲歩ノ態度ニテモ見セル時ハ直ニ広東側ヲ率キテ反蔣ノ策動ヲ為スヘキ気配有ル事

(三)殊ニ腹蔵無ク申上クレハ過去十八箇月間ニ於ケル日本側ノ実際ノ行動ハ屢政府「スポークスマン」ノ言カ相違シタル為日本ニ対スル世界ノ疑惑ハ相当深マリ居ルモノノ如ク此「ミストラスト」ヲ氷解スル丈ケニテモ日本ハ今後二三十年間ハ非常ナル努力ヲ必要トスヘキ事等ノ理由ニ依リ旁英国ノ日支両国ニ対スル機微ナル立場モ有リ「ラ」トシテモ仮令宋子文辺リヨリノ希望アリトスルモ調停等ニ乗出スハ時機尚早ナリト考ヘ居レリ

満、北平、南京、天津ヘ転電セリ

49 昭和8年1月30日 在上海有吉公使より内田外務大臣宛（電報）

段祺瑞南下の経緯および段・蔣会談等に関す

る李思浩の内話について

上海　1月30日後発
本省　1月30日後着

第六五号（暗、極秘）

南下[1]セル段祺瑞ニ対スル挨拶旁事情確カメノ為本使ノ代理トシテ有野（孚）ヲ内密往訪セシメ度シトノ申入レノ下ニ其ノ手配ヲ求ムル形ニテ廿九日意ヲ含メ有野ヲシテ李思浩ヲ往訪セシメタル処李ハ段目下ノ立場上且ハ蔣介石カ呉鉄城、張群、楊虎等ヲ接待員トシ同人等及其ノ代理者カ絶ヘス段ノ寓居ニ出入シ居ル為此ノ際日本側ノ直接訪問ハ勘弁セラレ度ク其ノ代リ自分（李）カ段ニ代リ其ノ真相ヲ御話スヘキニ付公使以外ニハ絶対ニ極秘トセラレ度シトノ前置キニテ大要左ノ通有野ニ内話シタル由（李ノ立場モアリ取扱ニ御注意ヲ請フ）

一、昨年上海事件発生当時ヨリ自分（李）等段ノ旧部下ノ政見ハ判然二派ニ分レタリ其ノ一ハ日支ノ国交ヲ維持シ難局打開ノ道ヲ講シ親善回復ニ努力スルコト及内政改革ノ必要上一党専制打破ニ努力スルコトヲ主張スルモノニシテ曾毓雋、姚震、梁鴻志、段宏綱（ママ）及自分ノ五人之ニ属シ他[2]ハ此ノ意見ニ反対スルモノニテ（其ノ内容ニ付語ラス）王揖唐、呉光新及曹汝霖等之ニ属シ爾来今日迄両派対立シ居レルカ段ハ当初ヨリ自分等一派ノ意見ニ賛成シ昨年来自分曾毓雋（目下天津ニ在リ）及梁鴻志ヲ当地ニ滞在セシメ時局ノ推移観察ト連絡トニ任セシメ居レリ

二、今回段カ急遽南下セルハ段出発ノ約一時?間前蔣介石ノ密使呉鼎昌蔣ノ密書ヲ携ヘ天津ニ至リ呉光新ニ之ヲ渡シ同時ニ段及部下カ日本ニ利用セラレ種々策動シ居レリトノ点ニ関シ段ニ詰問スル処アリ之ト前後シテ呉鼎昌ノ手廻シニ依リ上海各団体ヨリ発電セラレタル段ニ対スル自重勧告電報到着シ段ハ稍興奮シ居リタル折柄蔣介石ヨリ段招請ノ電報アリ銭永銘其ノ使者トシテ蔣ノ親書ヲ携ヘ来リタル為段ハ相当憤慨シ即座ニ南下ヲ決心シタルカ当時王揖唐及曹汝霖ハ一応段ノ南下ヲ阻止シタルモ段ハ之ヲ斥ケ一両日後直ニ出発シタルモノニテ当時王等ハ前顕ノ如キ両派反目ノ関係ニ依リ自分（李）等一派ニハ事前ニ何等相談セス右経緯ハ段ノ上海着後段及段宏業ヨリ聞キタル次第ナリ

三、[3]段ハ南京ニテ三回蔣ニ会ヒタルカ各種ノ謡言ニ関シ「自分モ中国ノ国民ナリ分ヲ忘レテ日本ニ利用セラルルコト無シ」トテ其ノ態度ヲ明カニシ進ンテ時局ニ関シ抗日強硬策ノ不可ナルヲ説キ国交ノ回復ハ中道ニ依リ打開ノ途ヲ講シ依存ノ方針ニテ進ム可キコト及国策決定セハ一部ノ反対ヲ押切リ邁進スヘキ旨ヲ勧告シ更ニ国民党ノ専制及政権操縦ノ不可ナルコトヲモ率直ニ忠告シタル由ナリ（右ニ付有野（孚）ヨリ中道ニ依リ云々トハ如何ナル意味ナリヤ又日支直接交渉勧告説アルカ如何トノ問ニ対シ李ハ明答ヲ避ケタルカ李ハ段ノ意見ハ前述自分等ノ考ヨリモ一層切実ナルモノアリト答ヘ尚私見トシテ日支直接交渉ノ為ニハ満州ヲ現状ノ儘トスルハ将来双方共不利ノ結果ヲ来ス可ク従テ双方ニ歩寄ル必要有ル可シトテ段ノ意向ヲ反映シ居ルカ如キ口吻ニテ語リ又[4]蔣介石ハ如何ナル意見ヲ表示シタリヤトノ問ニ対シテハ段ヨリ委シク聞カストテ答ヘサリシ由ナリ）

四、段今後ノ予定ニ付此ノ儘直ニ北上スルハ南京側ニ対シ稍々角立ツニ付暫ク当地ニ滞在シ二月九日（春暖季）以後自分（李）モ同道シ杭州及普陀山ニ遊ヒ上海ニ引返ス積ニテ其上ニテ帰津ノ時期ヲ決スル予定ナリ又蔣ハ段ニ南京永住ヲ勧メタルモ巷間風説ノ如キ蔣カ段ノ北上ヲ阻止スルカ如キ気配ハ今ノ処見エス若シ多少ニテモ此懸念アラハ上海ヨリ帰任スルコトトナルヘシ云々

尚李ハ蔣介石ハ目下段ノ南下ヲ口実ニ馮玉祥ノ来京ヲ促ス為王法勤ヲ張家口ニ派遣シ居ルカ馮ハ多分南下セサルヘシト語レル由

北平、天津、済南、青島、南京、漢口、福州、広東、満へ転電シ上海へ転報セリ

50　昭和8年2月1日　在南京上村総領事代理より内田外務大臣宛（電報）

羅外交部長の強硬意見に関するボデーの内話について

南京　2月1日後発
本省　2月1日後着

第六四号（暗、極秘扱）

三十一日「ボデー」ノ内話ニ依レハ同人ハ一両日前羅文幹一人ヲ招待シタルカ談偶々日支問題ニ及フヤ羅ハ従来ニ見サル興奮ノ体ニテ日本軍閥ノ好戦的態度ヲ難詰シ日本ノ山海関占領ハ熱河攻略ノ第一歩ナルヲ以テ熱河ニ於ケル交戦ハ最早避ケ難ク其結果戦禍ハ関内ニモ及フヘシ支那ハ今日迄隠忍ニ隠忍ヲ重ネタルカ事茲ニ及ンテハ隠忍スルモ唯亡

国アルノミ然ラハ寧ロ戦ツテ死スルニ如カストテ捨鉢的言説ヲ弄シ更ニ連盟ノ問題ニ言及シ第十五条第四項ニ依ル報告及勧告カ全然支那ノ主張ヲ顧ミサルモノナルニ於テハ支那ハ連盟ヲ脱退スヘク幸受諾シ得ル場合ニ於テハ進テ同条第六項ニ依ル保障ノ下ニ支那ハ日本ノ暴状ニ対シ適当ト認ムル手段ヲ執ルヘシトノ意味ヲ仄カシ日本ト一戦スルノ覚悟アルヲ暗示セル趣ニテ「ボ」ハ羅カ斯ノ如キ強硬意見ヲ吐クニ至レルハ蔣介石ト張学良トノ間ニ対日方策決定セルカ為ナリト思ハル現ニ北平「ウイルデン」公使ヨリモ学良側ノ態度頗ル強硬トナリ北支ノ形勢険悪ナル旨ノ電報アリタル旨述ヘ居タリ

往電第五五号ニ依ルモ羅文幹ハ「ボデー」ニ対シテハ可成リ強硬ナル意見ヲ述フルモノノ如ク或ハ仏ニ対シテハ態ト懸引上威喝的態度ヲ示シ居ルモノニ非スヤトモ思ハルルモ御参考迄（本件出所厳秘トセラレタシ）

満、天津、連盟代表ヘ転電セリ

51　昭和8年2月2日　在上海有吉公使より内田外務大臣宛（電報）

段南下をめぐる国民政府の動向について

上海　2月2日後発
本省　2月2日後着

第七四号（暗）

一[1]、国民政府ノ対日方針ハ三中全会ニ於テ積極的抵抗ヲ決議シテ以来党部ノ活躍及商会ノ運動ト相俟テ相当強硬トナリ居ル処右ハ南京側カ連盟ニ対スル関係ノ外広東側ニ対抗シテ国民政府ノ地位ヲ保持センカ為ニシテ言ハハ策略的ノ行動ニ過キスシテ南京側ノ実権ヲ握レル蔣介石一派ノ本心ハ日本トノ間ニ之レ以上事ヲ構ヘス殊ニ長江筋ニ於テハ事勿レ主義ヲ守リ居ル事ト観察セラレ当方ニ於テ市政府当局及蔣ノ側近者等トノ接触ニ依リ得タル印象並相当信頼スヘキ各種情報ニ依ルモ右観察ハ大体間違無シト思考シ居レル処

二、然ルニ山海関事件ニ次キ我方ニ於テ熱河征略ノ計画ヲ進メ居ル旨報道セラルルニ及ヒ対日積極的抵抗ノ気勢日ヲ追フテ熾烈トナリ殊[2]ニ段祺瑞ノ南下ハ国民政府ニ於テ挙国一致対日抵抗ニ移ル前提ナリトノ説新聞等ニ宣伝セラレ為ニ当方面ノ人心ニ著シキ衝動ヲ与ヘ居ルハ事実ニシテ北方ニ於ケル我方軍事行動ノ進展ニ伴ヒ国民政府トシテモ連盟及国内輿論ニ対スル関係上勢ヒ兵力ヲ北方ニ移動スルノ已ムヲ得サルニ立至ル可ク我方ノ出方如何ニ依リテハ憂慮スヘキ事態ニ立至ル可キ危険アル事往電第六二号申進ノ通ナルカ斯クノ如キ場合ニ於テモ蔣ノ真意如何ハ暫ク置キ我方ニ於テ自重ノ態度ヲ厳守スル限リ当方面ニ於テハ当分現状ヲ維持シ得ルモノト思考セラレ右ノ趣旨ニ依リ海軍側ト充分連絡ヲ保チ居ル次第ナリ

三[3]、将又日支交渉問題ニ関シ国民政府側ニ於テハ日本側ヨリ或ル程度ノ譲歩的態度ヲ示ササル限リ之ト接触シ難シトノ意図ヲ有スル事ハ屢次ノ電報ニ依リ首肯セラルル処ナルカ今回段ノ南下ニ関連シ種々ノ情報伝ヘラルルモ仮リニ段ニ於テ両国関係ノ改善ヲ企図シ居ルトスルモ無条件ノ日支交渉ヲ考ヘ居ラサル事ハ往電第六五号其他ノ報告ニ依リ明カナルヘク従テ我方ト国民政府トノ関係モ亦暫ク何等ノ改善ヲ期待シ得サルモノト存シ居レリ

四、尤モ前記国民政府側ノ対日態度ハ連盟ノ動キト密接ナル関係ヲ有スル事勿論ニシテ連盟ニ於テ第四項適用ヲ決定シ我方ニ於テ勧告ヲ受諾セサルカ如キ場合ニハ支那側トシテハ列国ノ干与ヲ誘致スル為我方ノ軍事行動ヲ進展セシムル意味合ニテソノ積極的抵抗ヲ或ハ急速度ニ拡大スルヤモ計リ難クソノ結果各地ニ於テ憂慮スヘキ事態ヲ発生スヘキ危険アルヘク此点ニ関シテハ予メ充分ノ注意ヲ払フノ要アリト存セラル

満、北平、天津、青島、済南、漢口、南京、広東、福州、厦門ヘ転電セリ

上海ヘ転報セリ、広東ヨリ香港ヘ転報アリ度シ

52　昭和8年2月2日　在南京上村総領事代理より内田外務大臣宛（電報）

満州国不承認原則確立に関する羅外交部長の談話について

南京　2月2日後発
本省　2月2日後着

第六九号

某国カ偽満州国不承認ヲ九国委員会起草報告書中ニ明白ニ規定スヘキコトニ対シ猶予ヲ表示セリトノ情報有リトテ羅外交部長ハ二日ノ新聞ニ談話ノ形式ヲ以テ大要左ノ如キ意見ヲ発表セリ

国際連盟ハ今ヤ重大時期ニ逢着セルニ依リ決然タル精神ヲ

以テ連盟理事会並ニ総会累次ノ決議案ニ連盟自身ノ有スル偉大ナル原則ヲ適用スヘキナリ察スルニ昨年三月十一日ノ連盟決議案中ニハ連盟各締約国ハ連盟規約、巴里協約ニ違反シ暴成セラレタル局面並ニ右ニ依リ締結セラレタル条約並ニ協定ニ対シテハ等シク承認ヲ与ヘサル可シトノ原則有ル処現在寿府ニ於ケル列強代表カ満州傀儡政府ヲ否認スヘキ明白ナル宣言ニ対シ躊躇シ居リ前顕決議案ノ原則ニ賛成セル責任ヲ法ヲ設ケテ回避セントシ居ルモノノ如シ

満州国ナルモノカ日軍アリテ初メテ存在スルモノナルコトハ「リットン」報告書中ニモ認メラレタリ連盟規約、巴里条約ニ違反スルコトハ毫モ疑ヲ容レサル所ナリ依テ連盟ニ於テハ中国ノ主権ヲ尊重スル国家カ此ノ種偽組織ニ承認ヲ与ヘサルニ依リ不承認ノ原則ヲ適用スヘキコトヲ宣言スルハ絶対必要ニシテ且ツ合理的行為ナル可シ而モ右不承認原則ハ各国カ既ニ宣布シ且ツ認メ居ルヲ以テ苟モ何国ニ依ラス将来満州国ヲ承認スヘキ非法ナル地歩ヲ留保セントスルカ如キハ明ニ三月十一日決議案ノ効力ノミナラス連盟規約、不戦条約ノ効力ヲモ破壊セントスルモノナリ中国ハ勿論斯カル情勢ト為ル可キヲ信セサルモ万一右ノ情勢実現シタル場合ニハ関係各国ハ必スヤ日本ノ侵略ニ依リ暴成セラレタル非法組織ニ対シ厳正ナル表示ヲ為ス可キコトヲ深ク信スルモノナリ

支、北平、天津、青島、漢口、広東、満ヘ転電セリ

支ヨリ上海ヘ転報アリ度シ

53　昭和8年2月3日　在上海有吉公使より内田外務大臣宛（電報）

日本軍の軍事行動を傍観し得ずとの賀耀組の談話について

上海　2月3日後発
本省　2月3日後着

第七七号（暗、極秘扱）

三日賀耀組ハ須磨ニ対シ支那側ハ連盟最近ノ空気ニハ甚タ不満ナルモ脱退等ノ事ハ目下ノ処考慮シ居ラス唯熱河及平津ニ於ケル日本側此ノ上ノ積極的軍事行動ヲ此ノ儘傍観スルハ自殺行為ニモ等シキヲ以テ日本軍ノ更ニ攻撃シ来ル場合ニハ未タ具体的防戦計画ハ無キモ蔣介石トシテモ国民ノ手前ミスミス華北（河カ）ヲ見捨テル訳ニハ行カサルヲ以テ勝敗ヲ度外視シテ日本軍ト一決戦スルニ覚悟ヲ極メ居ル次第ナリト語レルヲ以テ須磨ヨリ右ノ如キ支那側ノ自暴自棄ナ態度ハ却テ日支間ノ紛争ヲ増シ東洋平和ノ大局上不利ナルノミナラス露支復交後共産党ハ弗々暗中飛躍ヲ開始シ広東側ハ反蔣ノ策動ヲ為シ居ル旨ノ聞込モ有リ勝敗ヲ賭シテ迄モ体面上日本ト戦フハ蔣介石ノ為採ラサル処ナリ支那内政ノ混乱ヲ救フ為ニハ華北ノ問題ヲ地方的ニ迅速解決スル事必要ナル旨説示セル処賀ハ外間露支復交後蔣ノ容共政策的傾向ノ為共匪ノ活動活潑ナリトノ風説有ルモ右ハ為ニスル者ノ宣伝ニシテ事実ニ非ス又対広東政策ニ関シテハ曩ニ黄紹雄ノ派遣ニ依リ南京政府トシテハ既ニ弁法有リ尚又山海関事件等ノ地方的解決ニ関シテハ支那側ニ於テハ最近日本ノ対支政策ハ悉ク軍部ニ依リ指導セラレ居ル旨ノ感触ヲ深メ居ルニ付同問題ヲ地方的ニ解決スルニ於テハ更ニ第二、第三ノ問題起リ遂ニハ何時ノ間ニカ平津地方ヲ席捲セラルルニ至ルヲ恐レ居ル次第ナリト答ヘタルニ付須磨ヨリ日本ノ外交政策ハ決シテ軍部ニ依リ指導セラレ居ルモノニ非ス官民一致ノ国論ニ依リ支配セラレ居ル旨ヲ強調シ置ケル趣ナリ

以上何等御参考迄

上海ヘ転報セリ

北平、満、天津、南京、広東ニ転電セリ

54　昭和8年2月4日　在南京上村総領事代理より内田外務大臣宛（電報）

熱河問題に関しランプソン英公使日本側の自重を要望について

南京　2月4日前発
本省　2月4日前着

第七四号（暗）

三日[1]「ランプソン」公使ト会談ノ際

一、「ラ」公使ヨリ自分ハ旅行中ニテ連盟ノ討議ニ充分「フォロー」シ得サリシ為詳細ナル点ハ充分了解シ得サル点有リトテ質問セルニ付本官ハ従来ノ経緯ヲ説明シタル上連盟宛貴電第二七号閣下ヨリ英国大使ニ伝ヘラレタル文章ヲ読聞カセ之ニ註解ヲ加ヘ説明シタル処「ラ」公使ハ夫レニテ了解セリ然ルニ満州問題ニ対スル南京ノ空気ハ頗ル強硬ナル上広東方面ノ空気ハ一層甚タシキ有様ナルニ依リ和協委員会カ成立シ日支直接交渉ノ端カ開カレタリトスルモ支那側ハ真向ヨリ満州国ノ独立ヲ否認スヘキ事明カナル処此間如何ニシテ和協ノ途ヲ見出シ得ルヤ目下ノ南京ノ空気ニテハ

第一五条第三項ニ依ル決議等ニサヘ反対スヘシト思ハルト述ヘタルニ依リ本官ハ支那人ノ性格トシテ外国ニ頼リ得ル間ハ心ニモ無キ強カリヲ言ヒ夷ヲ以テ夷ヲ制スル政策ヲ採ルヲ伝統トシ来レル事御承知ノ通ナルカ蔣介石ノ如キハ日支直接交渉ヨリ外ニ解決ノ途無キヲ承知シ居レリ唯国民カ外国ニ頼リ得ルモノト考ヘ強カリヲ言ヒ居ル間ハ已ムナク静観シ居ル次第ナリ故[2]ニ連盟カ日支直接交渉ヨリ外無キコトヲ明カニセハ支那人ノ強カリモ漸次鎮マリ其処ニ問題解決ノ真ノ途カ開カレ来ル次第ナリトノ趣旨ヲ敷衍説明シタルニ「ラ」ハ夫レモ尤モナリト頷キ居タリ（尚「タイチマン」モ別ノ機会ニ本官ニ対シ南京ノ空気ニテハ和協委員会成立スルモ日支間ノ満州問題ヲ解決スルノ望無カル可シト述ヘ居タルニ顧ミ支那側ハ「ラ」公使ニ対シ飽迄満州国ノ独立ヲ否認シ直接交渉ノ望無キコトヲ強調シ居ルモノト思ハル）

二、次イテ「ラ」公使ハ熱河問題ヲ満州国ノ国内問題ナリトスル日本ノ主義ハ自分ニハ良ク了解セラルル処ナルカ此問題ニ対スル南京側ノ態度ノ強硬ニシテ興奮シ居ル模様ニハ聊カ驚キタリ熱河ノ現状ニテハ日本カ早晩軍事行動ヲ採ルノ已ム無キニ至ル可キハ自分モ想像シ得ル次第ナルカ武力ノ行使ハ遅レレハ遅ルル程結構ナリ南京ノ現在ノ空気ニテ突如熱河ニ戦闘開始センカ成行心配ニ堪ヘスト述ヘタルニ依リ本官ハ学良ノ挑戦的態度及我方ノ隠忍シ居ル次第ヲ説明スルト共ニ万一ノ事アリトスルモ学良及蔣介石カ自己ノ運命ヲ犠牲ニシテ日本ト戦フ程馬鹿トハ思ハレス南京ノ要人連カ外国側ニ対シ極端ナル言説ヲ為スハ多分ニ政策的ノ意味アルモノト思ハルト述ヘ置キタリ

支、北平、満、広東、漢口、天津、青島、済南ヘ転電セリ

支ヨリ上海ヘ転報アリ度シ

55　昭和8年2月4日　在南京上村総領事代理より内田外務大臣宛（電報）

熱河問題後の国民政府当局者の態度に関するランプソン英公使の内話について

南京　2月4日後発
本省　2月5日前着

第七六号

四日「ランプソン」カ出張中ノ須磨ニ対シ左ノ通リ内話セル趣ナリ

一、自分カ政府当局者殊ニ羅文幹、孫科、宋子文トノ会談ヨリ得タル印象ニ依レハ支那側ハ山海関事件及熱河ニ対シ日本側カ取ラントスル措置振ノ為相当「ベリコース」トナリ居ルモノノ如ク甚タシキハ勝敗ノ如何ヲ問ハス直ニ日本ニ対シ一戦ヲ試ムヘシトノ議論モアル様ナレト言ハハ支那側一流ノ「ショー」ニ過キストモ見ラルル節アリ例ヘハ新聞記者等ニ対シテハ支那モ亦場合ニ依リテハ連盟ヲ脱退スヘシ等宣伝シ置キ乍ラ自分ハ本問題ニ付テハ誰ヨリモ何等ノ「ヒント」サヘ与ヘラレサリシ次第ナリ尤モ不幸熱河問題紛糾ヲ来スカ如キコトアラハ憂慮スヘキ事態ヲ惹起スヘキヤノ気配充分ナルヲ以テ自分ハ個人的ノ「アドヴァイス」トシテ今日ノ如キ困難ナル時局ニ際シテハ如何ナル行動ヲ取ルニ当リテモ其ノ結果醸スヘキ影響ニ付十二分ニ考慮ヲ尽スコト肝要ナル旨ヲ切実ニ諭シ軽挙ヲ夫ト無ク戒メ置キタリ

二、何レニセヨ今ノ処直接交渉等ニ入ラントスル気配ハ毫モ無ク寧ロ反対ニ何等カノ方法ヲ以テ先ツ日本ヲ窮地ニ陥レンモノト内々企ラミ居ルヤニ見受ケラレタリ

三、自分ニ調停ノ労ヲ請フカ如キ素振ハ全然無之モ自分ノ帰任以来中央日報初メ支那側各紙カ代ル代ル英国ノ親日的態度ヲ詰責スルカ如キ筆法ヲ用ヒ自分ヨリ何等カ「プロチャイナ」ノ「ジェスチュアー」ヲ要求スルカ如キ気配ヲ看取シタルヲ以テ二日羅文幹ニ率直ニ右ハ甚タ面白カラス英国ニ対シ却テ不幸ナル印象ヲ与フヘキヲ説示シ厳格ナル取締方申入レ置キタリ一方偶々倫敦ニ於テ所謂満州及西蔵ニ関スル日英相互了解説ニ対シ発表セラレタル「デメンテイ」（右ニ付本国政府ヨリ自分ニ対シ何等ノ通報モ無カリシ次第ナリ）モアリ其ノ中右ノ如キ愚ニモ付カヌ支那側ノ宣伝ハ止ムコト無カラント考ヘラル

56　昭和8年2月10日　在北平中山書記官より内田外務大臣宛（電報）

外交部重要記録の南京行輸送について

北平　2月10日後発
本省　2月10日後着

第六五号（暗）

往電第六三号ニ関シ

外交部檔案保管所ノ重要記録三百十八箱ハ九日午後一時発平漢線列車ニテ南京ニ輸送セラレタリ

前電ノ通リ転電セリ

57　昭和8年2月11日　在上海有吉公使より内田外務大臣宛（電報）

熱河と東三省間に境界線樹立に関する黄郛の申出について

上海　2月11日後発
本省　2月11日後着

第九二号（暗、極秘扱）

日支問題ニ関シ十一日黄郛ノ須磨ニ対スル談話大要左ノ通[1]

右ニ付更ニ慎重ノ考量ヲ加フヘキ筋合ナルモ不取敢

一、蔣介石ハ日支関係ヲ如何ニシテ打開センカト大ニ苦慮シ居ルモ何分日本ノ積極的軍事行動ハ底止スル所ヲ知ラサル為国民ノ反日的感情益々募リ来リ若シ蔣ニシテ日本側ニ対シ何等妥協ヲ申出ツルカ如キ事アラハ遂ニハ其地位ヲサヘ失フニ至ル惧アリ目下途方ニ暮レ居ル次第ニテ最近蔣ヨリ自分ニ対シ数回ニ亘リ日支関係打開策ノ発見方依頼シ来レルカ自分ハ曩ニ済南事件ニ際シ売国奴ノ汚名ヲ被リ今尚其態度親日的ナリトテ各種ノ脅迫絶ヘサル程ナルモ日支問題紛糾ノ今日自分ハ決死ノ覚悟ヲ以テ問題ノ解決ニ尽力スルニ決意シタル次第ナリ即チ腹蔵ナク申上レハ国民政府ハ目下殆ト崩壊ノ状態ニアリ従テ若シ日本軍ニシテ欲スルニ於テハ熱河ヲ席捲シ更ニ進ンテハ全支軍隊ノ武装解除ヲモ為シ得ヘケンモ如何ニ日本軍ト雖モ支那四億ノ民ハ如何トモ為シ難カルヘク日支問題ノ紛糾ハ結局東洋以外ノ第三国ヲシテ漁夫ノ利ヲ得シムルニ過キス又支那トシテモ徒ラニ連盟ニ頼ルハ得策ニアラサルヲ以テ此ノ際断然日支直接交渉ニ依リ問題ヲ解決スルコト必要ナリトノ結論ニ到達シ張群トモ種々相談ノ上直接交渉ニ入ル前提トシテ左ノ如キ試案ヲ得タリ

(一)[2]熱河ト東三省トノ間ニ適当ノ自然的境界ヲ物色シ右ヲ境トシテ両軍トモ敵対行為ニ出テサル事

(二)山海関ハ条約上日本天津駐屯軍ノ管轄地域ナレハ関東軍ハ関外ニ撤退シ同方面ノ治安ハ中村司令官ト友好関係ニ在ル周竜光ノ部下ノ支那警察官ヲシテ維持セシムル事

二、依テ須磨ヨリ国民政府ハ目下仮令無統一ノ状態ナリトハ云ヘ若シ蔣介石ニシテ日支関係打開ニ付誠意ヲ有スルニ於テハ此ノ際「スポーツマンライク」ノ態度ニ出テ適当ノ責任者ヲ通シ直接交渉ヲ日本ニ嘆願シテハ如何ト反問セルニ対シ黄郛ハ支那側ノ日支問題ニ対スル態度ハ輿論ノ手前目下全ク反動的ニテ支那側ヨリ直接交渉等ヲ切リ出ス事ハ自殺行為ニモ等シク自然誰ニモ此ノ勇気ナキ次第ナレハ日本側ヨリ以上ノ如キ「ライン」ニテ交渉開始方ノ公式又ハ非公式ノ意思表示ヲセラレ度ク若シ右ニ依リ両軍ノ戦闘ヲ停止セシメ得ルニ於テハソノ中ニハ満州問題モ何トカ解決ノ途ヲ発見シ得ヘク右ニ付テハ種々ノ考案アリ得ヘキカ全然自分一己ノ思付キヲ云ヘハ例ヘハ溥儀執政ハ世襲ノ君主ニアラサルヲ以テ適当ノ時機ニ今少シ支那側ニモ受ケノ好キ人物ヲ据エテ支那側ノ面子ヲ立テルモ一案ナルヘク又若シ日本軍カ前記境界ヲ境トシテ此ノ線以上熱河ニ侵略セサル事ヲ声明セラレ支那側ニ於テモ右声明ニ充分信頼シ得ルニ至ラハ両国民間ノ感情モ次第ニ融和スヘキヲ以テソノ際ニハ満州国ノ問題ハ暫ク「セット、アサイド」シテ之ニ触レサル事モ或ハ出来得ヘシ最近屢々坂西中将其他日本側有力者ヨリ蔣ニ対シ武器金銭等ノ援助案ニ関シ申出テアリタルモ蔣ノ立場トシテ此ノ際日本ノ援助ヲ受クル訳ニハ行カス又蔣モ物質的援助ヨリハ日本軍カ此ノ上ノ侵略的行為ニ出テストノ保障ノ方ヲ希望シ居ル次第ナレハ若シ日本ヨリ右保障ヲ受クルニ於テハ自分トシテモ粉骨砕身問題ノ解決ニ当ル考ヘナリ

三、熱河ニハ目下十五万ノ支那軍隊アリ中八万ハ馬占山、馮占海ノ部隊、残リハ湯玉麟ノ麾下ニシテ最近宣伝セラレ居ル学良軍ノ熱河移動説ハ学良ノ中央ニ対スル宣伝ノミニテ同人ノ軍隊ニシテ熱河ニ在ルハ僅カ二旅ニ過キス従テ之等十五万ノ軍隊ハ日本軍熱河攻撃ノ際ニハ遁ケ場ヲ失ヒ死者狂ヒニ抵抗スヘク日本軍トシテモ多大ノ犠牲ヲ覚悟セサルヘカラス又日本軍ノ熱河占領ハ結局日支問題解決ノ最後ノ切札ヲ失ハシメ日支関係ヲ最後ノ土壇場ニ陥レ以テ将来直接交渉ノ実現ヲ不可能ナラシムルニ至ルヘキノミナラス国民政府トシテモ日本ノ熱河侵略ニ対シテハ国民ノ手前飽迄武力抵抗ニ出ツルノ外無ク結局[4]西南五省トシテモ一度日本ニ対抗スルコトトナルヘシ又共産軍ハ之ニ乗シ益々猛威ヲ奮フヘク延テハ外国ノ干渉ヲ誘致スル惧モ鮮カラサルヘシ最近顔恵慶ヨリノ手紙ニ依ルモ連盟ノ日支問題ニ対スル態度ハ決シテ両国ノ利益ヲ考慮シ居ルモノニアラスシテ日支問題ヲ利用シテ連盟ノ威力ヲ示シ軈テハ東洋問題ニ容嘴ノ素地ヲ作ラントノ下心ヲ有スル趣ニテ右事実トセハ支那

ノ日貨排斥等ハ極テ小サナ問題ニテ東洋平和ノ為ニハ両国相提携シテ外力ニ当ルノ必要アル次第ナリ自分ハ日本軍ノ熱河武力解決ハ両国ノ空気ヲ益々悪化セシメ直接交渉ノ端緒ヲ全然苅取ルモノニテ東洋ノ死活問題ニ関スル重大問題ナレハ若シ右「ライン」ニ依リ交渉ヲ開始シ得ヘキ見込立ツニ於テハ自分ハ南昌ニ赴キ之ニ対スル蔣ノ意向ヲ篤ト探リ見ル積リナルカ前記自分ノ微意ニ対シ日本ノ政治家カ此ノ際勇ヲ鼓シテ何等カノ意志表示ヲセラルルコト希望ニ堪ヘス

北平南京ヘ転電セリ御見込ニ依リ在満大使ヘ転電アリタシ

58　昭和8年2月12日　在上海有吉公使より内田外務大臣宛（電報）

中国最近の政況について

上海　2月12日後発
本省　2月12日後着

第九五号（暗）

客年往電第一四四六号[1]ニ関シ

其後ノ政況左ノ通

一、蔣介石ハ三中全会ニ於テ其地位ヲ強化シ孫科ノ抱込ニ成功シ且孫ヲ通シテ広東派トモ相当ノ渡ヲ付ケツツ南京政府ノ地位ヲ強固ニシ居ルヤノ感有ルモ孫ハ元来宋子文トハ好カラス嘗テハ行政院長タリシ関係上今ヤ実質的ニ宋ノ下風ニ立ツヲ喜ハス現ニ三中全会ニ於テ抗日案ニ関連スル宋子文ノ仕打ヲ怨ミ居ルヤニ伝ヘラレ居リ其後彼ハ着々立法院ニ腹心ヲ入レ宋子文等カ財政問題対日問題等ニテ（脱）スル時ヲ待チ居ルカ如ク殊ニ今回帰国ノ陳友仁カ何カニ付ケ孫ニ献策ス可ク旁孫ヲ加ヘタル後ノ南京政府ハ却テ幾多ノ弱点ヲ有スルニ至リタルモノノ如シ

二、蔣介石ハ挙国一致ヲ名トシ胡漢民以下西南委員会ノ要路ニ対シ抗日ノ為協同センコトヲ慫慂シ黄紹竑ヲ派遣シテ斡旋セシメタル処西南委員会ハ却テ南京窘メノ抗日強行案ヲ提唱シ二月始メ国防委員会ヲ設ケテ一敵国ノ観ヲ呈シ特ニ陳済棠ハ依然トシテ右顧左盻自家地盤ノ擁護ニ没頭シ為ニ其腹心李揚敬ヲサヘ十九路軍ト通謀セリト猜疑シテ軟禁シ西南五省又ハ七省ノ連盟独立運動ニモ参画スト称セラレ介石モ遂ニ愛想ヲ尽カシ最近ハ李宗仁、白崇禧ヲシテ十九路軍ト通シ済棠ニ当ラシメント策シツツ有リトモ伝ヘラル現[2]ニ白ノ代表南京ニ在リ種々折衝中ナルモノノ如ク他方黄

ヲ中心トスル西南組ハ或ハ共匪討伐ヲ名トシテ軍ヲ江西ニ進メントスル気配モアリ介石ノ南昌出陣ハ之ヲ制止セン下心ヨリ出テタルモノナリトノ観測ハ信スヘキカ如シ

三、南京側ハ露支復交ニ依リテ露支関係ノ新展開ヲ計ラントシタルカ如シ、予テ容共政策ノ苦難ヲ甜メタル介石ハ露支復交ノ齎ラスヘキ内政上ノ危険ヲモ考慮シ居ル折柄共産軍ハ復交後第三国際ヨリ援助ヲ期待シ早クモ勢ヲ得テ南昌ヲ脅サントスルニ至リタルヲ以テ直ニ討伐ニ向ヒタルモ彼ハ今回ノ出陣ニ際シ資金ヲ工面シ出来得レハ匪軍ノ買収ヲモ企テン心組ナルノミナラス熱河問題ニ関シ対他（ママ）抵抗ノ已ムヲ得サル場合ニ生スヘキ共産軍トノ妥協ノ可能性ヲモ考慮ニ入レ共匪ノ懐柔策ニ出テツツアリトサヘ報セラル

四[3]、張学良ハ先般段祺瑞ト前後シテ密ニ来京シ日本ノ熱河攻略ニ基ク其ノ地位ノ不安ヲ訴ヘ特ニ財政窮乏等ノ為今ニモ其ノ勢力ノ失墜ヲ見ルヘキ実情ヲ報告シタル趣ナルカ介石ハ予テ何応欽等ヲ学良ノ後釜ニ据エント考ヘタルモ元来多数軍隊ノ混在スル平津ノ地ニハ南方軍ヲ入ルル余地乏シク又事実介石ノ軍隊ハ共匪其ノ他ニ対スル防禦上北支ニ向ケ得ヘキモノ高々河南駐在ノ三師位ニ過キサルモ対外関係上学良ヲ見殺シニシ難キ事情モアリ関係重大ナルヲ以テ結局ハ最後迄学良ヲ河北ニ踏留マラシメントシ軍資金（数百万元ト称セラル）ヲ与ヘテ学良ヲ鞭撻シタルカ如シ即チ介石トシテハ閻錫山、馮玉祥ニ信頼シテ学良ニ代ラシメ難ク韓復榘モ亦其ノ器ニ非ス又段祺瑞ノ出馬ハ河北ニ第二ノ満州国ノ出現トナル虞モアリ結局土壇場迄ハ学良ヲ据置クニ過キス又今ノ処自家ノ地位保持ノ為ニモ万難ヲ排シテ学良援助ニ決セルモノト認メラル

五[4]、最近南京政府ノ財政窮迫殊ニ著シク最近ノ温州付近ニ於ケル劉珍年ノ兵変盧州ニ於ケル遊撃隊沈鳳山部ノ兵変等ハ何レモ給料不渡ノ為ニシテ又陳紹寛モ経費不足ノ為辞職ヲ申出テ何応欽カ先般来病ト称シ上海ニアルハ各軍ヨリノ経費督促ニ応シ得サルカ為ナリト伝ヘラレ居ル実情ナルカ尚従来南京側ヲ援助シ来リタル華僑カ一般不況ノ為最近却テ南京側ニ援助ヲ求メ居ル状況ナリ

六、要スルニ介石ハ自家勢力ノ強化ヲ計リツツアルモ内外共重大ナル困難ニ逢着シ居リ特ニ熱河ニ対スル日本軍事行動ノ結果動乱華北ニ波及シ学良失脚ノ事トモナラハ其地位ハ勢ヒ動揺ヲ免レサル可キ形勢ニアリ尤モ一方前述ノ如ク

学良ニ平津ヲ死守セシメ得ル以上仮リニ日本軍カ河北ニ進出スル事アリトスルモ必スヤ列強ノ干渉トモナル可ク最悪ノ場合ハ先ツ避ケ得可キ見込ヲ以テ他方汪精衛ノ帰国ヲ機会トシ何等局面転回ヲ策シ居ルカ如ク愈々万策尽クルニ於テハ共産軍ト妥協シテモ日本軍ニ敵対スル場合ヲ考ヘ居ルニアラスヤト認メラルル節アリ旁々彼ノ対日策ハ俄ニ予測シ難キモ或ハ意外ノ飛躍ヲ為スニアラスヤト観測スルモノモアリ

北平、南京、済南、青島、漢口、天津、広東、福州ヘ転電セリ

広東ヨリ香港ヘ転報アリタシ

59　昭和8年2月13日　在上海有吉公使より内田外務大臣宛（電報）

日中直接交渉および段祺瑞問題等に関する陳友仁の内話について

上海　2月13日後発
本省　2月13日後着

第九七号（暗、極秘扱）

十一日陳友仁カ極秘ニ会見シタル須磨ニ対スル内話左ノ通リ右ハ広東側ノ例ノ宣伝ト認メラルル節多キモ何等御参考迄

一、南京政府其後ノ措置振リハ全然無定見ニシテ此ノ儘ニテハ日支問題解決ノ見込無ク一方連盟ハ面子ヲ保チ東洋問題ニ此ノ上容喙スル素地ヲ作ルニ余念無ク前途誠ニ憂慮ニ堪ヘス現ニ自分カ孫科等ヨリ得タル印象ニ依レハ南京側ハ日本ノ熱河ニ対スル軍事行動阻止ノ為百方嚇シ文句ヲ用ヒ居ルモ内心ハ所謂抵抗モモノニ為ラサルヘシト諦メ居ルモノノ如ク只北支ニ於ケル南京政府従来ノ関係ヲ滅却セシメサル方法サヘ立タハ熱河ハ諦メ居ルヤニモ見ラルル節アリ呆レタル次第ナリ

二、然ルニ帰国後直ニ聞ク処ニ依レハ一説ニハ段祺瑞ハ日本側ノ為強迫セラレ其ノ中溥儀ノ二ノ舞ヲ演セシメラルヘキヲ惧レテ南下シタリト為スモ他ノ説ハ実ハ在天津日本軍部当局並ニ坂西中将等ハ東京政府ノ旨ヲ受ケテ段祺瑞ニ於テ日本ト妥協スル様蔣介石ニ説得方極力慫慂シ段モ結局ハ日本側擁護ノ下ニ北支乗取リヲ決意シ蔣ヨリ招カレタリト称シテ南下シ右「ライン」ニテ蔣ノ腹ヲ探リタリト為ス処其後事実ハ全然後説ノ通リナルヲ確メタル為蔣モ藍衣社員ヲシテ段ノ上海ニ於ケル寓居ヲ厳重監視セシメツツアル趣（真偽確メ中ナルモ別ノ情報ニ依レハ段ハ事実何者カ数名ニ依リ警護セラレ居リ又藍衣社ハ暗殺隊長顧順章ヲ派シ段殺害ヲ計画シ居ルトモ伝ヘラル）ナルカ日本カ尚此ノ種ノ陰謀ヲ続クルニ於テハ東洋ノ時局カ全ク列強ノ為采配セラルル時モ近カルヘク懸念ニ堪ヘス

三、[2]就テハ広東以来ノ好誼ニ基キ極メテ内密ニ申上クル次第ナルカト前置シ日本カ此ノ儘ニテ押進マハ「デッドロック」ノ外無キ次第ナルモ若シ直接交渉ヲ開始スルノ意有ラハ是カ前提トシテ日支双方ニ新事態ヲ形成スル事絶対ニ必要ナリ自分ハ輿論ニ対シ機微ナル関係上依然トシテ対日経済絶交等ヲ主張ハシ居ルモ実ノ処右新事態サヘ実現シ且日本側カ支那ノ満州国承認ヲ直接交渉ノ前提要件タラシメントスルカ如キ意図ヲ捨テ先ツ虚心坦懐大局ヨリ交渉ニ入ルノ誠意有ラハ問題ノ解決左シテ困難ナラスト思考ス同志ト相謀リ右新事態ノ形成ニ邁進シ度キ所存ナリ

四、即チ日本側ニ於テモ政府的見地ヨリ問題ヲ処理スル様同様新事態ヲ作ル事望マシキト同時ニ支那側ニ於テハ

(イ)自分予テノ主張通リ張学良ヲ査弁シ

(ロ)広東側ヲシテ胡漢民汪精衛間ノ感情的不和ヨリ超越セシメ其ノ采配スル政府ヲ以テ南京ニ加ハラシム

等ノ措置ヲ執ル事必要ナルカ実ハ李宗仁白崇禧等ノ広西派ハ早クモ蔡廷鍇等ト気脈ヲ通シ右様ノ御膳立ヲ急キツツアル次第ナレハ此ノ点篤ト御考慮ノ上日本側ハ相当ノ決心ヲ以テ少シク将来ヲ見透シ解決ノ端緒ヲ開カレン事希望ニ堪ヘス

満、北平、広東、南京、天津ヘ転電シ上海ヘ転報セリ

60　昭和8年2月14日　在南京上村総領事代理より内田外務大臣宛（電報）

北平外交部重要記録の南京到着について

南京　2月14日後発
本省　2月14日後着

第九二号

北平発閣下宛電報第六五号（五六文書）ニ関シ

外交部檔案保管所ノ重要記録三百余箱ハ十三日当地着外交部ニ送達セラレタリ

尚往電第八八号古物陳列所宝物ハ其ノ後其ノ保管地ニ付各方面ヨリ異論有リ洛陽又ハ開封ニ移ストノ説モ有ルモ未タ

確定セサル趣ニテ尚浦ロニ留置ノ儘ナリ
支、北平、満、奉天、天津、青島、済南、漢口、広東ニ転電セリ
支ヨリ上海ニ転報アリ度シ

61　昭和8年2月15日　在上海有吉公使より内田外務大臣宛（電報）

満州問題に関する日本の態度緩和方段祺瑞より申出について

上海　2月15日後発
本省　2月15日後着

第一〇二号（暗、極秘）

一、[1] 十二日呉光新本使ヲ来訪シ段祺瑞ハ先般来一度本使ヲ訪問シ度ク考ヘ居ルモ周囲ノ関係上及老齢ニテ外出不便ナル為其ノ意ヲ得サリシカ本日特ニ自分ヲ代理トシテ挨拶ニ寄越シタリトテ段ノ挨拶ヲ伝ヘ尚最近曹汝霖等ヨリ段ニ是非日本公使ニ面会スル様慫慂シ来リ段ニ於テモ本使ト懇談方希望シ居ル由申出テタルニ付本使ハ段ノ健康ノ都合モ顧慮シ十四日答礼旁段ヲ訪問セルカ一通リ挨拶ヲ交換シタル後段ハ時局問題ニ言及シ中日ノ関係ハ目下極メテ不幸ナル状態ニ在ル処自分（段）ハ中日両国ハ両国自体ノ為ニモ世界全局ノ和平維持ノ見地ヨリスルモ相互ニ提携シ親善ヲ維持スヘキモノニシテ何レカ一方ノ危険ハ直ニ他方ヲ危険ニ導クヘク同時ニ両国ノ不和ハ第三者ノ干渉ヲ招キ双方共不利ヲ蒙ルヘキ運命ニアリ右ハ両国関係ノ根本義ナリト確信シ居ル処日本ハ近来既往ノ外交方針ヲ一変シ軍部ノ強硬意見ニ基キ満州国ヲ成立セシメタルカ此ノ儘ニテ進マハ両国共不利ノ結果ヲ来シ和親回復ノ途無カルヘキニ付此ノ際日本政府ニ於テ大局ニ着眼シ現在ノ政策ヲ一転シ満州ニ対スル態度ヲ緩和セラレム事希望ニ堪ヘストノ趣旨ヲ述ヘタリ

二、[2] 依テ本使ハ此ノ点ハ本使モ全然同感ナル旨答ヘタル上日本ノ外交政策カ軍部ノ意見ニ依リ動キ居ルモノトノ観察ノ誤リナル事日本ノ満州問題ニ対シ惧（ママ）ルルハ政府ノ統一セル意見ト挙国一致ノ確乎タル信念ヨリ出テタルモノナル次第ヲ説明シ尚満州ニ対シ日本ノ関心カ多年ノ歴史的関係ニ由来スルコト今回ノ事変カ国民政府及張学良ノ不法ナル利権回収、熱河我権益侵害等誤レル政策ニ原因シ日本ハ終ニ隠忍ノ余地無キニ至リ勃発シタルモノナル次第ヲ説示シ満州国ノ存立ニ対シ我強硬ナル態度ヲ印象セシメタル処

三、段ハ国民政府及学良ノ不当ナリシ点ハ自分モ認ムル所ナルカ当時ト異ナリ今ヤ政府モ国民モ既ニ相当反省シ居リ日本ノ権益ニ対シテハ充分之ヲ認識シ居ルニ付此ノ点ハ解決容易ナルヘシ唯満州国ノ建設ハ中国四億万民衆ノ一致反対スル所ニシテ之ヲ此ノ儘ニシ置ク限リ親善ノ恢復ヲ求ムル事恐ラク困難ナルヘシ目下連盟ニ於テ問題トナリ居ル「リットン」報告ニ対シテハ中国側ニモ種々異論アルモ其ノ第九第十両章ハ大体ニ於テ穏健ナル意見ト認メラルル処日本ノ現在ノ主張ニ対シテハ国際方面ニモ妥当ト認メ居ラサル模様ニテ此ノ儘押シ進ム事ハ日本ノ為ニモ不利ナルヘシ願ハクハ此ノ際日本政府ニ於テ大局ニ着眼シ両国関係ノ根本義ニ顧ミ満州国ノ取消シニ付慎重ノ考慮ヲ払ハレン事ヲ希望スト述ヘタリ

四、[3] 右ニ対シ本使ハ御説ノ如キ支那側ノ反省カ切メテ一昨年末頃迄ニ見エタランニハ或ハ妥協ノ余地有リタルヘキモ支那ハ問題ヲ連盟ニ持出シ強テ事態ヲ拡大紛糾セシメタル為勢ノ趨ク処終ニ今日ノ状態ヲ招来シタルニ非スヤトテ既ニ成立セル満州国ノ存続ニ対スル我方ノ儼然タル態度ヲ繰返シ説示シ又「リットン」報告ノ所謂満州ノ自治制案カ列国ノ内政干渉ノ端緒トモ観ラルヘキ次第ヲ告ケ支那将来ノ為必スシモ有利ナル案ニ非サル旨ヲ説示シタル上暫ク本使ハ支那側ニ於テ大局ヲ達観シ両国相携ヘテ既成ノ満州国ヲ守リ立テ之ヲ以テ永年ノ癌タル満州国問題ヲ解決シ更ニ之ヲ基調トシ日支親善ノ恢復ヲ計ルノ望マシキ次第ナリト述ヘタルカ段ハ満州国問題ニ付日本カ態度ヲ緩和セサル限リ中日ノ提携ハ実現ノ可能性無カルヘシトテ依然前言ヲ繰返シ尚此ノ上トモ日本側ノ切実ナル考慮研究ヲ望ム旨付言セリ

五、会談要領大体上記ノ通ニテ要スルニ右ハ段ノ個人的意見ト観ラルル処此ノ間先般来噂セラレタルカ如キ蔣介石ノ意ヲ受ケテ為サレタルカ如キ気配認メラレス又段ハ先般ノ蔣トノ会見及当面ノ題目タル熱河問題等ニ付何等言及スル処無カリキ（会談ノ内容ハ外部ニ発表セサル事ト致度シ）

北平、天津、済南、青島、南京、漢口、福州、広東、満ヘ転電シ、上海ヘ転報セリ

62　昭和8年2月18日　内田外務大臣より在ジュネーヴ沢田連盟事務局長、在米国出淵大使宛（電報）

駐日中国公使の引揚説について

合第四二七号（暗）

支那側ノ駐日公使引揚宣伝ニ関スル件

最近支那側ハ日本ノ熱河攻撃ノ場合駐日公使ニ引揚ヲ命シ非公式ニ国交ヲ断絶シ以テ抵抗ヲ試ムヘシトノ宣伝ヲ拝シ居ル処（十三日在北平ノ宋子文カ支那新聞記者ニ与ヘタル「インターヴィユー」及十五日外交部談話等）十六日上村カ外交部次長徐謨ト会談ノ際徐ハ政府トシテ本件ヲ考慮シタルコトナシトテ前記外交部談話ナルモノヲ否定セルカ更ニ米参事官「ペック」カ同日羅文幹ト会談ノ際訊シタルニ羅モ前記徐ト全然同一ノ説明ヲ為シタル趣ヲ上村ニ語レル由ナリ

尚前記徐トノ会談ノ際上村ノ得タル印象ニ依レハ支那側ノ公使召還ハ目下ノ所真面目ナル考ニ非ス寧ロ外国ニ対スル一ノ威嚇トシテ宣伝シ居ルモノノ如キ趣ナリ以上為念連盟ヨリ在欧各大使（土ヲ除ク）ニ特電アリタシ

63　昭和8年2月22日　内田外務大臣より在南京上村総領事代理宛（電報）

熱河省における日本軍の軍事行動に関し国民政府へ申入れについて

別電　同日内田外務大臣より在南京上村総領事代理宛
第六号
右申入れ

第五号　暗、至急

一、熱河問題ニ関シ黄郛ノ須磨ニ対スル申出ノ件ノ経緯ハ御承知ノ通リナルカ（本件ハ黄郛ノ立場ニモ顧ミ支那側等ヘハ絶対極秘トスルヲ要ス）熱河討伐目前ニ迫リ居ル此ノ際国民政府ニ対シ別電第六号ノ趣旨ヲ申入レ日支両軍ノ衝突ヲ避ケムトスル我方ノ誠意ヲ示スト共ニ熱河討伐ノ結果万一両軍ノ衝突トナリ不祥ナル結果ヲ招来スルコトアラムカ右ハ支那側ノ責任ニ帰スヘキモノナル趣旨ヲ明ニシ置クコト事宜ニ適スト存ス就テハ（須磨黄郛会談ノ経緯ニハ全然言及スルコトナク）政府ノ訓令ニ依ル趣ヲ以テ国民政府外交当局ニ対シ大至急前記別電ノ趣旨ヲ申入レラレ度

二、我方ハ主トシテ後日ノコトヲ慮リ本件申入ヲナス訳ニシテ差当リノ所ハ云ハハ一方的通告ヲナス位ノ腹ニテ之ヲ行フ次第ナルト共ニ支那側ニ於テ今直ニ之レニ応シ来ルヘシトモ思考シ居ラサルニ付此ノ辺御含置アリ度尚万一此ノ際支那側カ張学良軍等ノ撤退ニ応スルトスルモ熱河省内ニ於ケル我方ノ軍事行動ヲ中止又ハ緩和スルコトノ不可能ナルハ前記我方ノ立場上当然ノ義ナリ将又本件申入ノ次第ハ英米等関係各国ニ内報スル筈ナルモ此ノ点ハ支那側ヘハ内密ニシ置カレ度

軍部ト打合スミ

別電ト共ニ支、北平、天津、満ニ転電シ本電及別電ノ要領（合第四六二号）ヲ米、英ニ転電シ英ヲシテ土ヲ除ク在欧各大使及連盟ニ転電セシメタリ

（別　電）

第六号　暗、至急

一、今般満州国ニ於テハ同国領域中未タ治安ノ全カラサル熱河省内ノ匪賊及兵匪残徒ノ粛清ニ膺ルコトトナリ我軍ハ日満議定書ノ関係上満州国軍ト協力スヘキ立場ニアル処熱河省ニ於ケル張学良軍其ノ他ノ反満軍隊ノ存在ハ満州国ノ主権ニ抵触スルノミナラス同省治安ノ恢復ト両立セサルカ故ニ同国ハ従来之カ関内撤収ヲ要求シツツアリシモ右要求ノ未タ容レラレ居ラサル処前記熱河省ノ粛清事業遂行ノ結果満州国軍ニ協力スル日本軍ト張学良軍其ノ他ノ反満軍隊トノ衝突ヲ惹起スルコトアルモ右ハ学良軍等カ熱河省ニ止ル限リ止ムヲ得サル所ナルト共ニ其ノ責任ハ前記満州国ノ要求ヲ容レサリシ支那側ノ負担スヘキモノナリ

二、尤モ満州国軍ニ協力スル我方ノ熱河省ニ於ケル軍事行動ハ其ノ目的タルヤ同省治安ノ確保ノ外ナキ次第ナルヲ以テ満州国領域内ニ止ルコトヲ本則トスルモ張学良軍其ノ他ノ反満軍隊ニシテ飽迄積極的行動ニ出テ来ル場合ニハ戦局ノ北支方面ニ及フコトナキヲ保セサル処之カ為ニ起ルコトアルヘキ結果ハ総テ支那側ノ責ニ帰スヘキモノトス

三、満州国ニテハ湯玉麟軍等ニシテ同国ニ帰服セハ寛大ナル態度ヲ以テ之ヲ遇スルコト従前此ノ種ノ場合ニ於ケル方針ト異ルコトナキ趣ナリ

64 昭和8年2月24日 在南京上村総領事代理より内田外務大臣宛（電報）

日本軍の熱河侵入には全力を挙げて抵抗との羅外交部長の談話について

南京 2月24日後発
本省 2月24日後着

第一二二号（暗）

往電[1]第一一六号二十三日本官羅外交部長ト会談ノ際羅ハ全然友人トシテ御話スル次第ナリト断ハリタル上極メテ打解ケタル態度ニテ自分ハ御承知ノ通決シテ排日家ニ非ス寧ロ日本ノ友人トシテ日支関係ノ一日モ早ク常態ニ復センコトヲ所期シ居タル次第ナルカ右ノ如キ希望ノ実現スルヤ否ヤハ一ニ日本ノ態度如何ニ懸リ居ル所ナリ然ルニ日本ノ軍閥ハ狂人ノ如ク自国ノ経済的実力モ将又世界ノ声乃至支那人ノ感情モ全然顧慮スル所無ク唯自ラ目指ス所ニ向ツテ一途ニ突進スルノミ斯テハ如何ニスルモ両国ノ関係ヲ調整シ得サルノミナラス支那トシテモ国家ノ体面上之ニ対抗スルノ手段ヲ講セサルヲ得ス故ニ日本軍ノ熱河侵入ハ不可避ナルヲ知ルヤ支那側ニ於テハ全力ヲ挙ケテ抵抗スルノ決意ヲ固メ凡ユル手段ヲ講シタリ今後ハ一夜ニシテ奉天ヲ占領セルカ如キ夢ヲ再ヒ見ルコトハ不可能ナルヘク日本ノ軍閥ハ熱河ニ於テ初メテ一大障碍ニ突当リ覚醒スル所アルニ至ルヘシ而[2]カモ国民政府ハ更ニ最悪ノ場合ヲモ考慮シ国力ヲ賭シテ飽迄抵抗スルノ覚悟ト用意ヲ有ス日本ノ軍閥如何ニ其ノ力ヲ恃ムモ遂ニ超ヘ得サル壁ニ突当リ覚醒スルニ至ル可シ然レトモ支那ハ常ニ受動的ナリ日本カ常ニ積極的行動ニ出ツルカ故ニ已ム無ク抵抗スルモノニシテ未タ嘗テ支那カ積極的態度ヲ執リタル事無ク今後モ唯受動的ニ抵抗スルノミトテ縷々強硬論ト不平トヲ取交セ述フル所アリ其ノ間本官ニ於テ其ノ言説ノ誤レル点ヲ指摘シ強ク反駁スルモ少シモ激スル所無ク終始微笑ヲ浮ヘ打解ケタル態度ヲ持シテ本官ノ抗弁ニモ耳ヲ傾ケ本官ノ辞去スルニ当リテハ羅ハ特ニ日支ノ関係今日ノ如ク収拾ノ見込立タサル状態ニ陥レルモ両国ハ結局何日迄モ憎ミ合フ可キ間柄ニ非ラス自分ハ必スヤ両国ノ関係カ常道ニ復スルモノナルヲ信スト繰返シ述ヘ居タリ（会談ハ羅ニ於テ外部ニ発表セラレサルモノト予想シ居ル次第ニ付発表無之様願度シ）

支、北平、天津、満ヘ転電セリ

支ヨリ上海ニ転報アリ度シ

65 昭和8年2月24日 在天津桑島総領事より内田外務大臣宛（電報）

熱河問題と平津地方の治安状況について

天津 2月24日後発
本省 2月24日後着

第一一〇号（暗）

日本軍北票占領ノ報二十二日当地ニ伝ハリ右ト相前後シテ北平公使館ハ平津一帯ノ邦人ニ引揚命令ヲ発シタリトノ北平電通ノ虚報ハ日本ヨリ「ラジオ」其他ニ依リ当地ニ伝ヘラレ又地方的ニハ頻々タル支那軍隊ノ当地通過及省市両政府党部東北第一軍司令部連合シ新聞検閲ヲ開始シ一方日本側ニ於テハ最近支那街ト相通スル租界街口ニ鉄柵ノ設置又ハ軍部ニ於テ租界内ノ防備設備ヲ始メシ等ノ事実ハ一般支那人ヲ刺戟シ流言蜚語ヲ生シ日本租界及支那街ヨリ他租界ニ避難スルモノ弗々アルモ表面ハ比較的落着キヲ示シ居ルモノト認メラレ更ニ対日空気ニ至リテハ新聞論調乃至日貨諸取引等往電第九五号所報以後別段ノ変調ヲ認メス現ニ最近上海方面ヨリ来津セル邦人ノ如キ上海ノ極メテ不愉快ナル空気ニ鑑ミ当地ハ更ニ極悪ナルヲ予想シ来レルニ当地カ少クモ表面ハ案外平静ニシテ対日感情モ左シテ不良ノ形跡見エサルニ驚キ居ル実情ナリ

要スルニ当地ノ状況ハ各方面トモ熱河方面ノ余波平津地方ニ波及スルヲ極メテ憂慮シツツ時局推移ヲ見送リ居ル状態ナリ

支ヨリ上海ヘ転報アリタシ 支、北平、済南、青島、漢口、広東、満、奉天、哈爾賓ヘ転電セリ

66 昭和8年2月24日 在済南西田（畊一）総領事より内田外務大臣宛（電報）

満州国承認問題に関する日本の態度緩和方韓復架談話について

済南 2月24日後発
本省 2月24日後着

第四九号（暗）

二十三日韓主席ト会見ノ際

一、韓ハ満州問題ニ関スル連盟並ニ日支関係ニ付元来昨年末御話セル通リ「リットン」卿其他ニ於テ満州問題ハ支那直接ノ問題ナルニ支那自身之ニ対抗セスシテ連盟側ニ

蔣駐日中国公使の引揚説について

2月24日付
2月25日着

外秘第四三八号
昭和八年二月二十四日
警視総監　藤沼　庄平

内務大臣　山本　達雄殿
外務大臣　内田　康哉殿

駐日蔣公使引揚ケ説ニ関スル件

本月二十三日付東京日日、同朝日、時事、報知等各新聞夕刊ニ「駐日蔣公使ニ引揚ケ命令アリ同公使ハ近ク蘇連赴任ノ途次本邦ニ渡来ノ駐露支那公使館書記官呉南如ト重要会見ヲ遂ケ本月末頃ニ引揚クルナラム」等ノ記事アリタルヲ以テ内査スルニ今日迄支那本国ヨリ引揚命令アリタル事実又引揚準備ノ模様無之本件ニ関シ駐日民国公使館参事官江洪杰ハ次ノ如ク漏セリ御参考迄

記

一、近時支那公使館ニ引揚命令アリタル如ク噂ヲ為スモノアリ又東京日々、同朝日新聞等ニ引揚準備シアル如ク報道シ居レルカ現在ノ処未タ本国ヨリ何等ノ命令ナキハ勿論之等ニ関スル準備計画等ナシ東京ノ新聞カ想像的記事ヲ掲載シタル為メ在留支那人間ニハ非常ニ憂慮シタルモノアリタルモノノ如ク其ノ真相ヲ訊サント日々多数当館ニ照会シ来ル状態ニテ甚タ迷惑ノ至リナリ新聞報道ハ当分自重セラレンコトヲ希望シ居ル次第ナリ

一、余個人トシテ南京政府方面ヘモ照会シタルニ現在如斯事情ナシトノ回答アリ又二十二日内田外相ニ対シ南京其他ヘノ駐支日本官憲方面ノ状況等ヲ問ヒ合セタルモ引揚ケ云々ノ模様全ク事実無根ナリ

一、蘇連駐在支那公使館書記官ニ転任セル元外交部司長呉南如カ赴任ノ途次駐日公使館ニ立寄リ蔣公使ト重要会見ヲ為スカ如ク伝ヘラルルヲ以テ神戸及横浜領事等ニ照会シタルニ渡露模様ナルモ支那公使館ニ立寄ル等ノ事ナシ呉書記官カ日本ヲ通過スルハ目下満州里方面ノ通過不能ノ為メ敦賀、浦塩経由任地ニ赴クニ過キス云々

因ニ本月二十一日民国政府ヨリ公使館費用トシテ三井銀行経由金九千円ノ送金アリタル趣キナリ

右及申報候

縋ルトモ連盟ハ法理的ノ声援ニ止ルノ外無シトテ支那ノ抗日ヲ煽リ居リ日本側ニ対シテハ如何ニ言ヘルヤ承知セサルモ結局日本カ到底承諾シ得サル勧告案ヲ作成シ為ニ脱退ノ情勢迄ニ至レル模様ナル処各国トシテハ直接日本ニ対シ干渉スルニ至ラストモ表面限リニテモ支那ニ同情ヲ持チ且物質的援助例ヘハ米国ノ小麦借款英国其他ノ団匪賠償延期各国ノ飛行機武器弾薬ノ売込又ハ各種経済上ノ契約等ヲ為セルカ支那トシテハ現実ニ金ヲ支払ヒ又ハ将来種々ナル拘束ヲ受ケ然モ其武器ニテ日本ト戦フカ如キハ馬鹿ケタル事ナルモ目下ノ処背ニ腹ハ代ヘラレサレハ当分ハ已ムヲ得サルヘシ唯各国ハ必スヤ日支双方ノ疲弊スル時期ヲ待チ然ルヘク干渉ノ如キ手段ニ出ツヘク尤モ日本ハ相当ノ準備有リ最後（迄）各国ノ圧迫ヲ排撃シ初志ヲ貫徹シ独逸ノ二ノ舞ヲ為スカ如キ事無キ様慎重ナル計画有ランカ日本モ世界ヲ敵ニシテ幾年続クヤ疑ハシク結局ハ支那モ悲惨ナル目ニ遭フヘケレハ熱河ニテモ一段落付カハ早目ニ日支直接交渉然ル可キ方法ニテ解決スル要有ラント考ヘラルル処

右ニハ多少支那トシテ交渉シ得ラルル条件ノ了解無クハ目下日本ノ主張ノ如ク只管満州国承認ノ既成事実ヲ繰返スノミニテ之カ承認ヲ迫ルモ承認ノ見込無カルヘク最後ニ日支トモ如何トモ致シ難キ状態トナリ各国ノ干渉等ニ依リ結局或程度ニ妥協シテ承認スルカ如キ事態トナル懸念有ルニ付寧ロ日支間直接交渉ニテ早目ニ決スル事得策ナラスヤト思ハルル旨内話シタルニ付

二、本官ハ貴説ノ如キハ貴国ノ他ノ識者中ニモ有ル模様ナルカ私見トシテハ現時ノ如キ日支紛擾ヲ継続スル事ノ不利ナルヲ承知セルモ支那側ニテ自覚無ク依然夷ヲ以テ夷ヲ制スルノ態度ニ出テ満州国ヲ承認セサル以上仮令各国カ如何ニ圧迫ストモ之ニ対スル準備有リ満州国ノ確立ヲ計リ日支将来ノ親善ヲモ考慮シ東亜ノ平和維持ヲ計ル確信ヲ有シ居ルニ付幾年掛ルトモ一時的ノ事態ニ依リ動揺スルカ如キ事無シトノ趣旨ヲ力説シ置ケリ

支ヨリ上海ヘ転報アリタシ

支、北平、青島、天津、南京、漢口、広東、満ヘ転電シ芝罘ヘ暗送セリ

67　昭和8年2月24日　藤沼（庄平）警視総監より山本（達雄）内務大臣、内田外務大臣宛

68　昭和8年2月25日　在上海石射（猪太郎）総領事より内田外務大臣宛（電報）

上海の治安維持に関し呉鉄城に申入れについて

上海　2月25日後発
本省　2月25日後着

第六三号（暗）

往電第五九号ニ関シ

本官本廿五日呉鉄城ヲ往訪シ連盟及熱河問題ニ関連シ上海ノ治安維持方ニ付種々意見ノ交換ヲ為シタル処呉ハ当地中国側ニ於テモ熱河ノ形勢切迫ト共ニ相当不安ノ空気アルモ自分ハ最大ノ努力ト最善ノ方法ヲ以テ治安維持ニ努ムル決心ナルニ付日本側ニ於テモ充分協力ヲ希望スル旨述ヘタルニ付本官ハ不良分子ノ煽動ニ依リ些細ノ事件ヨリ問題発生ノ惧アルニ付此ノ上トモ一層ノ取締ヲ希望ス又新聞等ノ刺戟的記事掲載モ出然得ル限リ抑止サレ度旨申入レ置キタリ本官トシテハ特ニ此ノ際上海ヲ無風地帯ト為シ置クコト大局上極メテ必要ナリト思考シ遺漏無キ様心掛ケ居ル次第ナルカ最近数回市政府当局トノ会談ノ際ノ印象ニ依レハ中国側官憲モ昨年ノ事変ニ懲リ今回ハ誠意取締リニ当リ居ルコトハ充分首肯シ得ル処ニシテ当地治安維持ノ為ニハ此ノ上トモ支那側当局トノ間ニ連絡ヲ保チ之カ誘導ニ努ムル要アリト思料セラレ右見地ヨリスルモ往電第六〇号卑見ノ通リ支那側ノ停戦協定違反事件ニ関シ実力阻止ノ態度ヲ示シ結局睨合的空気ヲ醸成スルコトハ当方面治安ニ一沫ノ不安ヲ与ヘ面白カラス夫レヨリハ支那側ヲシテ公約ヲ厳守セシムル様仕向クルヲ安全ト云フヘク断乎タル措置ハ支那側カ万一公約ヲ破リタル場合ニ於テ之ヲ採ルモ遅カラサルヘシト思考ス

北平、満、天津、青島、済南、漢口、南京、福州、広東、蘇州ヘ転電シ上海ヘ転報セリ

69　昭和8年3月1日　在天津桑島総領事より内田外務大臣宛（電報）

熱河問題解決後における華北政況および張学良の地位について

天津　3月1日後発
本省　3月1日後着

第一二三号（暗）

往電第一一九号ニ関シ

廿六日北平ヨリ帰来ノ孫潤宇カ廿三日頃熱河発帰平セル者ノ談トシテ本官ニ語ル処ニ依レハ熱河方面ニ於ケル支那軍ノ配置ハ比較的強力部隊ハ後方ニ置キ雑軍及義勇軍ノ類ヲ前線ニ配シ居ルモ各軍ヲ通シ殆ト戦意無ク地方民中ニハ五色旗ヲ準備シ居ル者サヘアル実情ナルヲ以テ熱河ハ案外早ク解決スヘキ見込ナル趣ニシテ一方当地支那新聞ノミナラス一般支那人中ニモ右同様ノ見込ヲ抱ク者稍々顕著トナレル処更ニ昨廿七日王揖唐カ同人ノ意見トシテ本官ニ語ル処ニ依レハ熱河ノ解決ト共ニ学良ノ地位ニ動揺ヲ見ル可能性相当アリテ之ニ代ルモノトシテハ蔣介石ノ勢力ヲ考ヘラルル次第ナルカ蔣ハ従来学良ト合作ノ態度ヲ示シ対内関係上抗日ヲ旗幟トセルモ衷心日本ニ対シ武力行動ノ非ナルヲ悟レルヲ以テ特ニ其ノ主力部隊ヲ左シテ当面ノ問題ニ非サル剿共ニ藉ロシテ北送セサリシカ如キハ其ノ間ノ事情ヲ説明スルモノト認メラレ而モ熱河問題解決ノ上ハ学良ノ平津地方維持ハ困難ナルヲ予想シ宋子文、楊杰ヲシテ北支ニ於テ抗日ヲ強調シツツ中央勢力ノ扶植ヲ計リ愈学良政権没落ノ暁蔣自ラ北支ノ政局ニ当ルヘシトハ思ハレサルモ恐ラク腹心ノ部下ヲ据エ之ヲ支持シテ北支ノ地盤維持ヲ策スヘク右ニ対シ学良トシテハ目下十五万ノ兵力ヲ有スルモ今日ニ於テハ絶対信用スルニ足ルモノハ一部分ニ過キス殊ニ宋子文カ先般携帯シ来レル軍費ノ大部分ヲ学良ニ於テ私シ為ニ部下将領ノ反感ヲ受ケ一方蔣介石ヨリ間接ニ注意ヲ受ケシ事実サヘアリ更ニ平津地方民ハ学良ノ誅求ニ甚シク反感ヲ有シ近来ニ至リテハ学良ノ北支ニアル間ハ日本側ノ脅威ヲ免ルル能ハストナシ旁反張気分ハ漸次濃厚トナリツツアリ学良ニ於テモ前記蔣介石側ノ意図及地方的反張空気ヲ知悉スルモ今日ノ場合如何トモ策ノ施シ様ナク熱河問題解決ヲ切掛ケニ進ンテ蔣介石側ノ策謀ニ乗リ一応平津地方ヨリ保定或ハ其以南ノ地ニ身ヲ引キ以テ将来ノ地歩ヲ図ラントスル態度ヲ採ルニアラスヤト観測セラルル趣ナリ

支ヨリ上海ニ転報アリタシ

支、北平、南京、済南、青島、漢口、広東、満、奉天、哈爾賓ニ転電セリ

70　昭和8年3月6日　在南京上村総領事代理より内田外務大臣宛（電報）

羅外交部長の辞職説および蔣駐日公使の帰国

問題に関する劉外交部次長の内話について

南京　3月6日後発
本省　3月6日後着

第一四五号（暗）

外交次長劉崇傑ハ北平ヨリ帰京後宋子文ニ報告ノ為直ニ赴滬シタルカ六日朝上京セリ同日同人ノ本官ニ対スル内話中御参考迄左ノ通リ

一、新聞ニハ自分ノ上海ニ於ケル談話トシテ熱河問題ニ付羅部長（文幹）ハ憤慨ノ極辞表ヲ提出シタル趣ナルカ其ノ場合ニハ自分モ辞職スヘシト述ヘタル旨掲載セラレ居ルモ右ハ自分ノ談話ヲ誤解シタルモノナリ今朝帰京早々羅部長ニ面会シタルカ部長ニハ此ノ際辞職スルカ如キ意向無ク右新聞記事ヲ見テ笑ヒ居レリ

二、蔣公使（作賓）ノ帰国ハ目下ノ処賜暇帰朝ニテ特別ノ意味無シ但シ今後ノ情勢ニ依リ如何ナル意味カ付セラルルヤハ自分トシテハ明言シ得ス（トテ本官ノ質問ニ対シテモ右以上ノ説明ヲ為サス）

尚劉ハ或ハ近ク再ヒ帰平スルヤモ知レスト述ヘタリ

支ヨリ上海ニ転報アリタシ

支、満、北平、天津、青島、済南、漢口、広東ニ転電セリ

71

昭和8年3月7日　在北平中山書記官より内田外務大臣宛（電報）

熱河および華北問題に関し外国側の干渉は有害とのランプソン英公使の談話について

北平　3月7日後発
本省　3月7日後着

第一一三号（暗）

七日英国公使ヲ往訪シタルカ御参考トナル点左ノ通

一、「ラ」ノ承知スル所ニテハ北平並北支一帯平穏ニシテ何等不安ノ徴候ヲ認メス外交団ニ於テ之ニ付何等話合アリタルヲ聞カスト言ヒタルニ付小官ヨリ第二師、第二十五師カ通州ヲ発シ古北口方面ニ向ヘル事実ハ北支ヲ不安ニ導ク原因ニアラサルヤヲ惧ルト述ヘタルニ「ラ」ハ四日支那側ノ最モ信スヘキ筋ヨリ聞ク所ニ依レハ現ニ長城方面ニ向ヘル軍隊ハ関外ヨリ流入シ来ル敗兵ニ備フル為ナル由ナリト答ヘ又小官ヨリ白河付近ニ支那側カ陣地ヲ構築セル事ニ付天津総領事ニ於テ抗議ヲ提出セルコト並于学忠カ其ノ事実ヲ否認シ居ル次第ヲ説明シ之モ亦北支

ニ於ケル不安ヲ誘発スル原因ニアラサルヤヲ惧ルル旨述ヘタルニ「ラ」ハ日本側ニ於テ「ラ」ノ承知スルカ如ク関内ニ於テハ事端ノ発生ヲ避クルコトニ努メラルル方針ナル以上ハ之亦憂慮スヘキコトナカルヘシト述ヘ

二、熱河討伐終了後ノ日支関係ニ付同僚中ニ何等カ交渉乃至解決ノ方法ナキモノナリヤト話セルモノアリタルモ「ラ」ハ之ニ対シ外国側ノ過早ナル措置ハ寧ロ有害ニシテ本問題ハ結局時ヲシテ之ヲ解決セシムルヲ上乗ノ策トスヘク唯之レ以上事態ヲ悪化セサランコトヲ密ニ希望スル旨ヲ述ヘタルカ今モ斯ク信シ居ル旨ヲ語リタリ

支、満、南京、天津、錦州ニ転電セリ

72

昭和8年3月7日　在南京上村総領事代理より内田外務大臣宛（電報）

中央軍の北上問題に関する陳儀との会談について

南京　3月7日後発
本省　3月7日後着

第一四八号（暗）

最近蔣介石ハ麾下ノ八箇師ヲ北上セシムル事トシ既ニ平漢線方面ヨリ約四箇師北上ヲ完了シ更ニ第八十七師ノ大部モ一両日来夜陰ニ乗シ南京ヨリ浦口側ニ渡リタル趣ノ聞込モ有リ右ハ北支ノ混乱ニ備フル対内的関係ト思ハルルモ六日本官陳儀ト会談ノ際本官ハ試ニ最近中央軍ヲ続々北方ニ移動セシメ居ル模様ナルカ何ノ目的ナリヤト尋ネタルニ陳ハ右ハ貴官カ先般外交部長ニ対シ戦乱北支ニ及フ事有ルモ支那側ノ責任ナリト述ヘラレ日本ハ北支ニ戦乱ノ拡大スル事ヲ予想シ居ルモノノ如クナルヲ以テ之ニ備フル為ナリト答ヘタリ依テ本官ハ右北上セル中央軍ハ熱河省境迄進出スル予定ナリヤ将又張学良ハ北支ニ戦禍ノ波及スルヲ覚悟ノ上ニテ熱河省境ニ進攻セントシ居ル次第ナリヤト反問シタルニ陳ハ支那側トシテハ戦争カ北支ニ波及スル事ハ欲セサル所ナルニ依リ日本側ニテ自重セハ支那側カ熱河侵入ヲ計ルカ如キ事無シト述ヘ尚蔣介石ノ北上ハ未タ決定シ居ラサル旨ヲモ付言セリ

支ヨリ上海ヘ転報アリタシ

支、満、北平、天津、青島、済南、漢口、広東ヘ転電セリ

73

昭和8年3月9日　在南京上村総領事代理より内田外務大臣宛（電報）

日本軍の熱河平定後の状況に関する羅外交部長の談話について

南京　3月9日前発
本省　3月9日後着

第一五七号（暗、極秘）

出張中ノ須磨書記官ニ対シ八日羅文幹ハ何時ニ無ク沈痛ナル面持ニテ左ノ通リ内話セル趣ナリ[1]

一、熱河ハ少クモ二個月ハ大丈夫ト思ヒシニ斯モ短期間ニ片付ケラレタルハ実ノ処驚クノ外無キカ日本カ此ノ際余程ノ決心ヲ以テ熱河ト北支トノ機微ナル関係ノ処理ニ当ラレサルニ於テハ勢ノ趨ク処実ニ憂慮ニ堪ヘサル結果トモナルヘキニ付是非トモ良イ加減ニ日支事件ノ結末ニ邁進セラレ度キモノナリ更ニ打明ケテ云ヘハ東三省ヤ熱河ノ領土ハ実ハ問題ニ非サルモ日本ノ態度カ支那人民ノ而モ子々孫々迄植付クヘキ「エンミテー」カ由々シキ大事ナレハ之ヲ除外シ得ヘキ永久的解決方策ヲ一日モ速ニ見出シ度キモノナリ

二、張学良ニ対シテハ自分ヨリ数回辞職ヲ勧告シ居タル処愈実現スル模様ナルト其下野後暫クハ委員会様ノモノニテ急場ノ処理ニ当ラシメ徐ロニ後任者ヲ定ムルコトトナルヘク又[2]十七日頃着滬ノ筈ナル汪精衛ハ仮ニ健康カ許ストスルモ此ノ際直ニ行政院長ニ復職スヘキヤ相当疑問アルノミナラス数箇師団ノ北上ニ依リ江西省共匪ノ進出等内政上幾多ノ難関ハ隠シ得サルカ自分ハ解職セラレサル限リ飽迄日支事件ノ解決ニ当リ度キ所存ナリ

尚八日朱家驊モ須磨ニ対シ連盟ニ依ル解決望無キ今日日支直接交渉ニ依ルノ外無キカ日本側ヨリ虚心坦懐速ニ之ニ乗リ出サルルコト切望ニ堪ヘスト繰返シ居タル趣ニテ羅、朱両部長トモ余程弱リタル風ヲ隠シ得サルヤニ見受ケラレタル趣ナリ

支、満、北平ヘ転電セリ

74　昭和8年3月9日　在南京上村総領事代理より内田外務大臣宛（電報）

張学良の下野説に関する彭学沛の内話について

南京　3月9日後発
本省　3月9日後着

第一六一号（暗）

九日彭学沛ノ内話左ノ通

一、南京及上海方面ニ於ケル張学良糺弾ノ声ハ可成リ熾烈ニテ学良モ下野ヲ声明シタル次第ナルヲ以テ学良ノ引退ハ十中六、七分迄ハ確実ト見ラレ居ルモ学良カ尚北平ニ留マリ何応欽ト軍事ニ執掌シ居ル点ヨリ見テ学良ノ心事ニ尚疑無キ能ハス（若シ蔣介石カ保定ニ留マラス北平ニ赴クカ如キ事アラハ従来ノ情誼モアリ学良ヲ下野セシムル事愈困難トナル可シ）

二、学良下野セハ先ツ委員会ヲ設ケテ北支ノ時局ヲ収拾シ治安維持ニ当ラシム可ク差当リ何応欽カ委員会ヲ主宰スル事トナル可シ（何応欽ハ各方面ヨリ大ナル野心無キニ付安心ナリト見ラレ居ル趣ナリ）

三、馮、閻ハ実力無キヲ以テ大ナル役割ハ為シ得サル可シ

四、汪兆銘ヨリハ未タ何レノ方面ヘモ意思表示ヲ為シ来ラス態度不明ナルカ十七日頃上海着ノ予定ナルニ付其ノ上ニテ態度ヲ決定ス可シ

五、広東方面ハ未タニ内訌ヲ続ケ居リ広西派トノ確執モ有リ一致反蔣運動ニ乗出シ得サル可ク他方今後尚数ケ月ハ国民ノ一致抗日ノ余燼冷メサル可ク未タ反蔣ノ機運熟シ居ラサルヲ以テ蔣介石モ之ヲ利用シ一致国難ニ当ル可キヲ説キテ茲当分ハ反蔣運動ヲ圧ヘ得ルモノト思ハル

尚南京政府側ノ要人ハ熱河ノ大敗ニ依リ孰レモ意気頓ニ沮喪シ過般本官陳儀ト会見シタル際ノ如キ陳ハ気ノ毒ナル程銷沈セル面持ニテ日本カ此ノ上何ヲ為スヤモ知レスト恐レ居ル様子見受ケラレタリ

支、満、北平、天津、青島、済南、漢口、広東ヘ転電セリ

支ヨリ上海ニ転報アリ度シ

75　昭和8年3月9日　在南京上村総領事代理より内田外務大臣宛（電報）

パドウ国民政府顧問より日中時局解決の具体策提示について

南京　3月9日後発
本省　3月10日前着

第一六二号（暗、至急）

往電第一五七号（七三文書）ニ関シ[1]

八日羅文幹ノ呼寄セニ依リ在寧セル「パドウ」九日須磨ヲ来訪シ昨八日来二回ニ亘リ羅部長ト日支時局解決方ニ関シ意見ヲ交換シタル次第ナルカト冒頭シ（「パ」ハ羅ヨリ冒

頭往電ハ羅ノ須磨ニ対スル談話ノ次第ヲ聴取シ羅ヨリ右ニ関シ話ヲ進ムル様旨ヲ含メラレタルモノノ如ク認メラレタル由）熱河ニ於ケル日本軍ノ敏速ナル行動ニ支那側ハ全然呆気ニ取ラレタル如ク自然日支問題ニ関スル政府部内ノ意見大ニ緩和セラレタルヤニ看取セラルルニ付テハ全然「プライベイト」ノ含ミニテ意見ヲ交換シ度キ次第ナリトテ左ノ通リ会談シタル趣ナリ

一、羅部長ハ日本側カ満州国ノ存在及抗日運動ノ停止ヲ主張シ居ル点ヲ気ニシ居ルカ飽迄右二点ヲ固執セラルルニ於テハ支那側ニ降服ヲ要求スルニ外ナラス（八日羅ハ須磨ヨリ日本従来ノ態度ヲ繰返シタルニ対シ日本ハ支那ノ「サレンダー」ヲ予期シ居レリト苦笑シ居タルニ符合ス）斯テハ面子ヲ重ンスル支那ノ応シ得ヘキ処ニ非ス何等カ他ニ御考慮ヲ加ヘラレ直接交渉ニ入ルノ端緒ヲ作ラレ間敷キヤ日本ハ連盟ニ於ケル討議カ永引キタレハコソ当初ニ於テハ思ヒモ寄ラサリシ満州国ヲ生ミタル次第ニテ日本ニ取リテハ天佑トモ云ヒ得ヘキ有利ナル発展ヲ為シツツアル日支事件ノ解決ニ関シ一番支那ノ面子ヲ考ヘラレテハ如何ニヤト尋ネタルニ付須磨ヨリ全然個人的ノ意見ナルカト前提シ坊間日支直接交渉ト称スルモ法律的見地ヨリセンカ満州国ハ日本ノ承認ニ依リ立派ナル国際法上ノ一国家ヲ形成シタル事実ニ鑑ミ満州問題ニ関シ兎ヤ角日支間ニ論議スヘキ事柄ナク自然所謂直接交渉ノ対象ヲ見出スニ苦シム次第ナリ尤山海関事件ニ付之ヲ地方的案件トシテ交渉ニ応スルノ用意アルハ既ニ表明セル通リナル上排日排貨ニ付尚幾多支那側ニ要求スヘキ事柄ハアルモ右[2]ニ付当該日本官憲ヨリ夫々既ニ「アプローチ」シ居ル次第ナリト答ヘタルニ「パ」ハ成程法律的ニ言ハハ支那ヨリ満州ニ付テ為ス可キ要求ハ御説ノ通満州国ニ付テコソ為シ得可キカ日本トハ直接関係無キモノトモ言ヒ得可シ併シ実際的考慮ヨリセハ日本側カ法律的見地ヨリ離レテ政治的「ラプローチメント」ヲ試ミルノ義理有ルニ非ラスヤト反問シタルニ付須磨ヨリ夫レニシテモ右ハ所謂満州問題トハ別問題ナルヤニ思考セラルルト答ヘタルニ「パ」ハ然リトスルモ兎モ角日本側ニハ之ニ応セラルル用意アル次第ナリヤト尋ネタリ

二、依テ須磨ヨリ一体右話合ニ入ルトシテ何等カ具体案ニテモ有ル次第ナリヤト試問シタルニ「パ」ハ実ハ満州国ノ処理ニ関シ先般申上ケタル案ハ（公使発閣下宛電報第五七号（四四文書））

御参照）熱河問題片付キタル今日適用シ得サルニ付其ノ後種々考慮ノ結果自分限リ案出シタル処ニ対シ日本カ現在満州国トノ間ニ有スル諸協定ハ其ノ儘トシ満州国ヲシテ支那側トノ間ニ右ト略同様ノ取極メヲ為サシメ謂ハハ往年ノ「ボスニヤヘルツェゴビナ」地方カ有シタリシ「コドミニオン」様ノ処理方法位ハ我慢出来間敷キヤト尋ネタルニ付須磨ヨリ満州国ノ存在ハ日本ノ諸協定ニ依リ今ヤ其輪郭確定シ（脱）御説ノ如キ法案ニ依リ変改スルハ不可能ナリト思考スト答ヘタルニ「パ」ハ当惑ノ面持ニテ再考シタル上若シ果シテ右カ出来ヌ相談ナラハ日本ハ支那ニ対シ「ギブ、アンド、テイク」ノ方策ヲ執ラルルノ見地ヨリ満州国ノ成立ニ代ルヘキ何等重大ナル利益ヲ付与セラルルノ用意無キヤ例ヘハ自分ノ研究ニ依レハ㈠一九〇一年ノ「プロトコール」ニ依ル日本側ノ利権ノ抛棄㈡治外法権ノ撤廃㈢租界ノ返還㈣船舶ノ内河航行権ノ返還等ノ中一、二ヲ実行スル事トシ事実満州国問題ヲ「セット、アサイド」スルカ如キ考案ハ如何ト尋ネタリ

三、[3]依テ須磨ヨリ御話ノ如ク満州問題ヲ「セット、アサイド」シ二十一箇条問題ニ関シ日支両国カ過去二十数年ニ亘リトレルト同様ノ態度ニ依リ実質上不問ニ付スル事ハ自分ニ於テモ密カニ考ヘ居ル一案ナルモ御申出ノ如キ四項ノ何レカ一、二ヲ支那側ニ与フヘキヤ否ヤノ問題ヲ考慮スル前ニ先ツ念頭ニ浮フハ支那中央政府ノ「ソリダリティ」ナリ即チ目下ノ如ク共産党或ハ広東等複雑ナル内政上ノ脅威堪ヘサル今日此ノ儘ニテ何等ノ話合ヲ進ムル事ハ世界何レノ国ニ於テモ躊躇スル訳合ナリト応酬シタルニ「パ」ハ実ハ熱河ニ於ケル意想外ノ敗北ニ依リ南京政府部内ノ弱点早クモ暴露シ宋子文等ニ対スル反感サヘ部内ヨリ持上リ居ル実状ナレハ御話ノ次第ハ尤モナルカ自分ノ長キ支那滞在ノ経験ヨリスルモ支那側ノ自力ニ依リ強力政府ノ確立ハ余程ノ年月ヲ要スヘキカ故ニ自分ノ案タル四ノ一、二ヲ与フル事カ即チ南京政府ヲ強化スル所以トモナル次第ニテ之等ノ点ヲ是非共慎重ニ御考慮セラレ速ニ日本側ノ同情アル「ムーブ」ヲ切望スル次第ナリト熱心ニ述ヘタリ

四、依テ須磨ヨリ夫レニテモ今ノ処南京政府ノ見据中々付キ難キニ付先ツ南京側カ衷心ヨリ日本トノ握手ヲ切望シ進テ其ノ「ヂェスチャー」ヲ示シ来ルヘキ時期ヲ待ツ事必要ナルヘシト述ヘタルニ「パ」ハ支那側ハ敗残者ナレハ何等

ノ「ヂェスチャー」モ先ツ侵略者タル日本側ヨリ為サルヘキヲ期待シ居ル訳合ナルカ相当ノ時期ニ達セハ日本側ヨリ何等申出ラルヘキ用意ナキヤト尋ネタルニ付須磨ヨリ前述㈠ノ通法律的ニ謂ヘハ直接交渉ノ対象ヲ見出シ難キニ日本側ヨリ「ムーブ」シ得サルハ謂フ迄モナシト答ヘタルニ「パ」ハ然ラハ満州国側ヨリナリトモ話合ノ端緒ヲ出サシメラレスヤト問ヘルニ付須磨ヨリ右ハ全然満州国側ノ決定スヘキ所ナルカ之トテ中々困難ナルヘク要スルニ前述ノ如キ考慮ノ下ニ暫ク形勢ヲ見送ル事必要ナルヘシト答ヘ問答ヲ打切リタルニ「パ」ハ本九日更ニ段々私的意見ノ交換ヲ続ケ度シト述ヘテ引取リタル趣ナリ御如才ナキ事乍ラ本会談全然極秘トセラレ度シ（極秘扱）

支、満、北平ヘ転電セリ

76 昭和8年3月9日 内田外務大臣より在北平中山書記官宛（電報）

中国側の態度如何によつては日本軍関内進出あるべき旨華北要人に注意喚起方について

第三四号 暗、極秘至急

我方ニ於テハ支那側カ挑発的行為ニ出テ来ラサル限リ長城ヲ越ユルノ意向ナキコト累次申進ノ通リナルカ最近支那側カ長城付近ニ大兵ヲ集中シ居ルハ其ノ真意奈辺ニ存スルヤ逆睹シ難キモ或ハ古北口等ヲ奪還セムトスル計画ナルヤニモ察セラルル次第ニテ果シテ然リトセハ自然我軍ニ於テ関内ニ進出スルノ止ムナキニ至ルヘキノミナラス場合ニ依リテハ京津方面ヨリ支那軍ノ背面ヲ襲ハサルヘカラサルニ至ラサルヲ保セサル処（現ニ我方ニテハ万々一ノ場合ヲ顧慮シ勃海湾方面ニ海軍ノ集中ヲ行ヒ居レリ）支那側カ面目問題等ノ為メ前記ノ如キ態度ニ出ツル結果我軍ノ関内進出ヲ見ルコトトナルハ支那側トシテモ真ニ致命的打撃ト思ハル就テハ貴官ハ北支ノ実勢ヲ支配シ得ヘシト認メラルル適当ノ要人ニ至急接触ノ上事態憂慮ニ堪エサル趣旨ヲ以テ叙上ノ次第ヲ貴官ノ思付トシテ告ケ其ノ注意ヲ喚起セラレ度

右軍部ト打合スミ

支、南京、天津、満、英、米ニ転電シ英ヲシテ土ヲ除ク在欧各大使及連盟ニ転電セシム

77 昭和8年3月10日 在済南西田総領事より内田外務大臣宛（電報）

張学良下野説および華北の現況に関する韓復

渠との会談について

済南 3月10日後発
本省 3月10日後着

第七五号（暗）

往電第七三号ニ関シ[1]

九日本官韓主席ト会見ノ際全然私談ナリト冒頭シ

一、本官ヨリ華北治安維持ニ付学良ノ下野説等ニ関連シ諸説アル模様ナルカ最近ノ新聞報道ニ依レハ其ノ一説トシテ蔣介石ハ既ニ中央直系軍四ケ師ヲ北上セシメ通州ヲ中心トシ北平方面並一部ハ平津間ノ防備ニ当ラシムルト共ニ東北軍及宋哲元、龐炳勛、商震等ノ雑軍部隊ヲ長城以南ノ前線ニ配置シテ熱河ヲ始メ失地回復ノ為トテ抗日継続ヲ高唱シテ日本軍ノ矢面ニ立タシメ一方安福派、旧直隷派、山西派及旧西北軍系等ノ策動ヲ根底ヨリ整理シ進テ山東ヲモ圧迫セントスルヤノ説アルカ右ハ遽ニ信シ難キモ何等承知セラルルヤト尋ネタルニ韓ハ熱河ヨリ関内ニ敗退スヘキ部隊ハ別トシ河北省内丈ケニテモ東北軍其ノ他ニテ約二十万アリ何レモ北方各省人ニテ中央軍ノ四、五師ニテハ如何トモ出来ス蔣モ亦此ノ国難ニ際シ斯ル態度ニ出ツヘシトハ考ヘラレス蔣トシテモ華北政局ノ維持ハ各省首脳者ト篤ト商議ノ上決定スヘシト答ヘタル後山東方面ハ累次御話シタル通リ絶対ニ治安維持ヲ確保シ時局如何ニ変化ストモ日支紛糾ノ渦中ニ投セシメス現状維持ヲ計ルヘキニ付右了知アリ度シト述ヘタリ

二、[2]依テ本官ハ貴見ハ勿論賛成ナル処日本軍カ長城ノ線ニ止マリ支那側ヨリ挑戦行動ナキ限リ戦闘ヲ停止スヘキ我政府ノ方針ナリト考ヘラルルモ貴国側ニ於テ往々日本軍進出セサルコト判明セハ日本ニ其ノ実力ナシト宣伝シ対内的ニハ徒ニ失地回復ヲ唱ヘ対外的ニハ長期抵抗ヲ名トシ連盟及米、露ノ援助ヲ利用セン浅慮及広東派等亦中央追窮ノ材料タラシメントシ抗日ヲ高唱シテ反撃行動ニ出テンカ已ムナク更ニ長城以南ニ進撃ノ如キ不幸ナル事態発生スルヤモ計リ難キヲ懸念セラル右ハ両国識者ノ極力注意シ未然ニ防止スヘキ事ニシテ貴官ノ如キハ斯ル事態ヲ生セシメサル様最善ノ努力ヲ希望スト述ヘタルニ韓ハ貴見ノ次第ハ充分了承シ精々斯ル事ナキ様努力スヘシト答ヘタル上今後必要ニ応シ華北方面ニテ日支衝突ヲ避クル方法乃至ハ万一ニモ日本軍関内進出ノ如キ場合ニ処スル自分（韓）ノ意見ヲ内密ニ

貴国政府ニ取次キ得ラルルヤト問ヒタルニ付本官ハ貴見ト同様山東方面ニ日支紛糾ヲ波及セシメサル為互ニ腹蔵ナキ意見ヲ交換セル次第ナルカ両国ノ為ニナル事ナレハ貴意ノ取次ニハ吝カナラスト答ヘ置ケリ

支ヨリ上海ヘ転報アリタシ

奉天ヨリ錦州ヘ転電アリタシ

支、北平、青島、天津、南京、漢口、広東、満、奉天ヘ転電シ芝罘ヘ暗送セリ

78　昭和8年3月11日　在北平中山書記官より内田外務大臣宛（電報）

張学良の下野通電について

北平　3月11日後発
本省　3月11日後着

第一二四号

張学良ハ十一日付ヲ以テ全国ニ対シ左ノ如キ下野通電ヲ発セリ

一、余ノ父及余ハ歴年支那ノ東北ニ於ケル主権保持ヲ己ノ任トシ父ハ遂ニ身ヲ以テ之ニ殉セリ余ハ就任後先父ノ遺志ニ基キ終始中央ヲ鞏固ニシ中国ノ統一ヲ職志トシ恭々未タ曾テ変ラス即チ日本ノ公然タル恫喝ヲモ顧ミス易幟以テ国民党ノ東北ニ於ケル活動ヲ補導シ又民国十九年秋命ヲ奉シテ入関中国ノ統一ヲ擁護セリ蓋シ余ハ健全ナル政府ヲ樹立シテ始メテ外侮ヲ防キ得ヘキヲ確信セルヲ以テナリ九、一八事変発生当時余ハ病臥中ナリシモ之ヲ国際連盟ニ提訴シテ公道ヲ主張セリ日本軍ノ熱河侵略ニ際シ余ハ軍ヲ率ヒテ敵ト相対セルカ接戦以来事ノ成敗如何ヲ問ハス国家ノ犠牲トナレル部下ハ万ヲ以テ数フヘシ

二、今回北上ノ蔣介石ト会商ノ結果今日余ノ引責辞職カ当国ニ忠ヲ致シ中央ヲ鞏固ニスル最善ノ方法タルヲ悟リ毅然下野シテ以テ国人ニ謝セントス東北ノ健児ハ十九年命ヲ奉シテ入関シ中央ヲ援助セルモ今尚国難去ラス国土回復セラレス帰ルニ家無キ者数万ニ達セリ就テハ中央カ彼等ノ労苦ヲ察シテ良ク指導シ又社会人士カ援助ヲ与ヘラレムコトヲ請フ彼等ハ何レモ国家ノ為ニ赤誠ヲ有シ且東北ノ状況ヲ知悉セリ若シ将来報国ノ機有ランカ即チ東北回復ノ為ニ一死以テ其志ヲ遂ケ漂泊ヲ免ルルヲ得セシメラルレハ余ノ願ハ足リ又国人カ余ノ誠心ヲ汲ミ余ノ庸愚ヲ諒セラレンコトヲ請フ云々

支、満、南京、漢口、広東、福州、青島、済南、天津、奉天、哈爾賓、錦州ヘ転電セリ

支ヨリ上海ヘ転報アリタシ

79　昭和8年3月11日　在北平中山書記官より内田外務大臣宛（電報）

張学良下野後の状況に関する周竜光の談話について

北平　3月11日後発
本省　3月11日後着

第一二五号（暗）

往電第一二三号ニ関シ

十一日周竜光（竜光）カ原田（竜一）ニ為セル内話左ノ通

一、時局ハ急転直下学良ノ下野トナリタルカ当方面ハ自分カ近ク辞職スル外（天津周市長モ辞表ヲ提出セル由）衛戍司令公安局長等ノ治安機関首脳者ハ当分更迭セサル可シ

二、通州密雲付近ニ在ル中央軍カ古北口奪回等積極行動ニ出ツ可シトハ考ヘラレス右ハ仮ニ此ノ挙ニ出テントセハ夫ニ伴フ糧食等ノ諸給与ハ当然当市ニテ調達スヘキ筈ナルニ未タ何等ノ沙汰無ク又右様ノ話モ聞キ居ラス何等ノ準備無キ点等ニ見テ同軍ノ任務ハ対内関係上ノ一作用ト見ルヲ至当トス

三、北方軍事ハ何応欽ニ又自分ノ後任ハ黄郛ノ模様ナルカ両人トモ日本出身ニテ殊ニ黄郛ハ蔣介石ノ信任アル人物ニテ此ノ場合黄ヲ起用シテ当地ニ拉シ来ル蔣ノ用意充分察セラレ日支両国前途ノ為誠ニ悦ハシキ次第ナリ

支、満、南京、広東、漢口、青島、済南、天津、奉天、哈爾賓、錦州ヘ転電セリ

支ヨリ上海ヘ転報アリ度シ

80　昭和8年3月12日　在上海有吉公使より内田外務大臣宛（電報）

張学良の上海到着について

上海　3月12日後発
本省　3月12日後着

第一四九号

張学良ハ十二日午後三時「ドナルド」李秘書同伴飛行機ニテ来滬宋子文宅ニ入レリ

満、南京、北平、漢口、天津、福州、済南、広州ヘ転電シ

上海ヘ転報セリ
広東ヨリ香港ヘ転報アリタシ

81　昭和8年3月13日　在北平中山書記官より内田外務大臣宛（電報）

張学良下野後の政情に関する湯爾和・王克敏の内話について

北平　3月13日後発
本省　3月13日後着

第一二八号
往電第一一二五号（七九文書）ニ関シ
十三日湯爾和及王克敏カ原田ニナセル内話左ノ通
一、[1] 湯爾和
(一)学良ハ十二日午前九時朱光沐、湯国楨、李応超、丹農及衛兵ヲ従ヘ飛行機ニテ上海ヘ出発午後二時同地着直ニ宋子文邸ニ入レルカ当分同地ニ滞在ノ筈
(二)保定会議ノ結果東北軍ハ四軍ニ分チ第一軍于学忠（李振唐等ノ六個師及学良ノ衛隊劉多荃旅ハ十九師ト改称本軍ニ隷属ス）第二軍万福麟（王永勝等ノ六個師）第三軍何柱国（従来ノ第九旅及更ニ常経武等ノ四個師）第四軍王以哲（従来ノ第一〇七師ニ何立中等ノ五個師）等ニ改編セラレ蔣介石ニ直属ノコトトナレリ又省政府首席衛戍司令市長等ハ当分現状ノ儘トシ時局安定ノ上更迭ヲ見ル筈
(三)張作相暗殺説喧伝セラレタルカ右ハ全然謬言ニシテ現ニ自分ハ十日夜順承王府ニテ同人ト会見セリ
二、[2] 王克敏
(一)学良ノ後任何応欽ハ勿論蔣介石ト共ニ軍人ノコトナレハ外部ニ対シテハ（本）音ヲ吐カス飽迄抵抗ヲ主張シ居ルモ実際ハ極メテ穏健ニシテ現ニ昨夜会見種々意見ノ交換ヲ為セルカ其ノ口吻ニ観ルモ古北口、喜峰口等ノ奪回ヲ試ムルカ如キハ有リ得サル模様ニテ唯日本軍カ進ンテ古北口以内ニ在ル支那軍ヲ攻撃スル場合ニハ応戦スル準備アルモノノ如シ
(二)一方蔣介石ハ石家荘ニ於ケル閻錫山トノ会見ヲ終ヘ十二日再ヒ保定ニ来リ今後北方時局カ安定スル迄同地ニ逗留ノ筈ニテ蔣ハ十六七日頃着滬ノ筈ナル汪精衛ヲ行政院長ニ迎ヘタル後対日策転換ヲ行ハントスルモノノ如ク其ノ段取トシテ黄郛ニ北平市長若ハ他ノ名義ヲ与ヘ日本側トノ間ニ地方的ニ満支国間相互不侵犯協定ヲ締結セシメ日支両軍対峙ノ危険状態ヲ緩和シ次テ黄ヲ外交部長ト為シ日支問題ノ解決ヲ計ラントスル方策ナルカ如シ
(三)蔣カ中央軍ヲ北上セシメタルハ一般ニハ抗日ヲ標榜シツツ実ハ郭カ汪精衛対学良問題発生ノ際学良部下ノ反対ニ依リ下野不成功ニ終リタル前例ニ鑑ミ之ニ備フル為ノ措置ナルカ如ク従テ日本側ニテモ善ク這間ノ事態ヲ見極メラレ軽々ニ関内ニ軍事行動ヲ起シ前記蘊醸中ノ対日策転換ノ好機運ヲ頓挫セシメサル様切望ニ堪エス
前電ノ通転電セリ
英ヨリ土ヲ除ク在欧各大使ニ転電アリタシ

82　昭和8年3月13日　在天津桑島総領事より内田外務大臣宛（電報）

白河口砲台修築、天津二十支里以内駐兵問題等に関する中国側見解への反駁について

別　電　同日在天津桑島総領事より内田外務大臣宛第一五九号右反駁要旨

天津　3月13日後発
本省　3月13日後着

第一五七号（暗）
白河口砲台修築天津ヨリ二十支里以内駐兵並白河口一帯海防設備ニ関スル我方抗議及先方回答ハ三月二日付拙信機密第一九八号及往電第一二〇号ノ通ナル処南京政府ノ指示ニ依ルモノカ今般大要別電第一五八号（見当ラズ）ノ通リ従来ト全然異レル態度ノ回答ヲ為セルニ付大要別電第一五九号ノ通リ反駁シ置ケルカ支那側カ直ニ之ニ応ス可シトモ思ハレサル処目下当方面機微ナル事情ノ下ニ飽迄本件ヲ論争スル事ハ面白カラサル可キニ付暫ク此ノ儘トシ置キ差当リ北平公使館辺ヨリ条約関係国側ニ対シ支那側条約違反ノ事実ヲ然ルヘキ形式ニテ指摘シ置ク事然ルヘシト思考ス
右軍トモ協議済
本電別電ト共ニ支、北平、南京、満ヘ転電セリ

（別　電）

天津　3月13日後発
本省　3月13日後着

第一五九号　暗（別電）
往電第一五七号ニ関シ
二十支里以内駐兵カ交換公文違反ナルコトハ貴方累次ノ回答中ニ是認セルニ拘ラス今回前言ヲ覆シ

(一)日本ハ一九〇一年ノ条約上ノ特権ヲ乱用シテ山海関ヲ占領シ
(二)天津ニ多数ノ日本軍ヲ駐在セシメ居ルヲ以テ支那軍ノ穆家荘等駐留ハ天津治安維持上已ムヲ得ス
ト云フカ如キハ本官ノ了解ニ苦シム処ナリ即チ
(一)ニ関シテハ貴方ヨリ挑戦的態度ニ出テタル上一九〇一年ノ議定書ニ基ク我軍ノ行動ニ対シ不法妨碍ヲ加ヘタルヲ以テ之ヲ排撃シ山海関ヲ占拠シタルモノニテ特権乱用云々ハ本末顛倒ノ贅言ナリ
(二)ノ点ハ一九〇二年ノ交換公文ヲ一見セハ明瞭ナリ又議定書中ノ権利ノ我方単独行使不可ナリト云フカ如キ奇説ニハ弁駁ノ要無シ
更ニ白河口一帯ニ塹壕築構等海防的設備ヲ為スハ議定書ノ精神並交換公文ノ明文ニ反ス目下貴方ノ設備ハ半永久的且大規模ニテ単ナル演習作業ト認ムルヲ得ス仮リニ演習作業トスルモ白河交通ノ脅威トナルヘキ此ノ種設備ハ条約違反ナリ又右設備ヲ以テ自衛準備ト云フモ各般ノ事情ニ徴シ条約違反行為ヲ覆ハントスル遁辞ニ外ナラス
累次条約尊重ヲ明言シ常ニ地方治安維持ヲ顧念セラルル貴主席ハ篤ト御考慮ノ上速ニ右不法行為ヲ是正セラレ度ク然ラスシテ万一不幸ナル事件発生ストモ予テ貴方ノ責任ナリ云々

83　昭和8年3月13日　在天津桑島総領事より内田外務大臣宛（電報）

石家荘における蔣介石の動向に関する胡霖の談話について

天津　3月13日後発
本省　3月13日後着

第一六一号（暗）
往電第一五二号ニ関シ
石家荘ヨリ帰津セル大公報社長胡霖カ田中（荘太郎）ニ語レル談話要領左ノ通リ御参考迄
(一)石家荘ニ於テ蔣介石ニ二回会見セルカ軍事ニ関シ蔣ハ明言ヲ避ケ居タルカ事実北上セル中央軍ハ小部隊ニ過キス且ツ蔣北上ニ当リ帯同シ来レル幕僚ハ文官ヲ主トセル事情、折角北上シ乍ラ北平ニ入ラサル点及黄郛ノ北平市長ハ尚ホ未定ナルモ穏健ナル何応欽ニ北支ノ軍事ヲ一任セルカ如キ点等ニ鑑ミ蔣北上ハ北支政権接収ヲ目的トシ積

極的排日ノ意図アリト見ルヲ得ス尤モ喜峰口及古北口方面ニ出陣シ居ル軍隊ハ対内的殊ニ広東方面ニ対スル関係ト一方北支ニ兵変ヲ惹起スル惧モアリテ今遽ニ之ヲ交代セシメ得サル可シ
(二)但シ日本軍関内ニ対シ積極的行動ニ出ツルカ如キ場合ニハ蔣トシテモ諸種ノ関係上已ムナク排日行動ニ出ツルヤモ計ラレス
(三)蔣ハ石家荘ニ於テ閻錫山ト会見セルカ之レ中央ノ北支接収ニ対シ予メ了解ヲ遂ケ置ク為ニシテ両者ノ関係至ツテ円満ナルモ馮玉祥ニ対シテハ蔣ハ全然問題トシ居ラス
(四)張作相ノ銃殺説アルモ同人ハ昨十二日軍事委員会分会ニ出席シ居ルヲ以テ右ハ事実無根ナリ
支、北平、済南、南京、漢口、満ヘ転電セリ
支ヨリ上海ヘ転電アリタシ

84　昭和8年3月14日　在上海有吉公使より内田外務大臣宛（電報）

北平市長就任説は事実無根との黄郛談話について

上海　3月14日後発
本省　3月14日後着

第一五三号（暗、極秘扱）
十三日須磨ヲシテ貴電第三〇号ノ御趣旨黄郛ニ内報セシメタル処（黄ハ先般来病臥中）黄ハ右内報ヲ謝シタル後愈長城ヲ挾ミテ両軍対峙ノ形勢トナレリト苦笑シ日支問題ノ急速解決ハ今尚困難ニテ唯今後ノ自然的発展ヲ待ツノ外無シトテ如何ニモ自信無ケニ語レリ尚黄郛ハ実ハ蔣介石ノ北上ニ際シ自分ヨリ熱河回復等ヲ叫ンテ徒ラニ事態ヲ荒立テサル様充分注意方電報シ置キタルカ北方政局ニ関シ蔣ヨリ未タ何等通知無ク自分ノ北平市長就任ノ如キハ全然事実無根ニシテ此種謡言ノ為自分ハ非常ニ迷惑シ居レリ学良ノ身ノ振方ニ関シテハ蔣ノ命ニ依リ張群ニ於テ斡旋スル筈ナルモ張群ハ目下病臥中ナレハ学良外遊等ノ事モ早急ニハ運ハサルヘシ北方政局ニ関シテハ今後尚幾多ノ迂余曲折予想セラルル処共産党ハ時局ノ紛糾ニ乗シ益々猖獗ヲ極ムヘク中国ノ前途楽観ヲ許サスト述ヘ北方政局今後ノ発展ニ関シテハ未タ何等ノ見据付キ居ラサル様認メラレタル趣ナリ
南京、北平ヘ転電セリ

85　昭和8年3月15日　在上海有吉公使より内田外務大臣宛（電報）

日中時局解決の具体的方策に関するパドウ国民政府顧問との会談続行について

上海　3月15日後発
本省　3月15日後着

第一五五号（暗、極秘扱）
南京発閣下宛電報第一六二号（七五文書）ニ関シ[1]
十四日「パドー」須磨ヲ来訪シ自分ハ九日南京ニ於ケル貴官トノ会談後羅部長ヲ訪問シ日本側ニ於テハ支那内政ノ紊乱ハ日本ニ取リテモ不利益ナレハ支那中央政府ノ強化ヲ最モ希望スル処ナルモ支那側カ理不尽ナル態度ヲ改メサル限リ不愉快ナル現状ヲ維持スルノ已ム無キニ過キサル真意ヲ確メ得タルニ付テハ支那側ニ於テモ馬鹿気タル排日ヲ止メ日支関係ノ打開ヲ計ル事必要ナル旨力説シタル処羅部長モ之ヲ首肯シ居タルカ自分ノ観測ニ依レハ目下支那要人ノ最モ苦心シ居ルハ如何ニセハ輿論ノ支持ヲ担ヒツツ面子ヲ失ハスシテ日本ト妥協シ得ルヤノ点ナリト認メラルル処最近日本ヨリノ情報ニ依レハ日本側ハ長城ヲ緩衝地帯トシテ停戦協定締結ノ意向ヲ有セラルルモノノ如キモ国民政府ヲシテ右協定ノ締結ヲ応諾セシメ満州国問題ノ「セット、アサイド」ヲ納得セシムル為ニハ日本トシテモ之カ代償トシテ曩ニ御話シタル如ク四項（「パ」ハ其ノ後考究ノ結果右四項以外日本ニ於テ対支借款ノ一部抛棄ヲ宣言セラルルモ一案ナリト付言セリ）ニ付好意的考慮ヲ加ヘラルル事絶対必要ニシテ右交換条件無クシテハ単ニ国民政府ノ不人気又ハ面子ノ問題以外連盟過般ノ決議ニ徴スルモ余リニ屈伏的ナル解決トナリ列国ニ対スル手前カラモ支那側トシテハ到底手ヲ出シ得サル次第ナリト語レルニ付須磨ヨリ若シ御話ノ如ク事実国民政府要人連カ遅蒔乍ラ抗日ノ愚ヲ自覚シ来レリトセハ此ノ際先ツ国民政府ノ内部ヲ統一シ翻然其ノ前非ヲ悔ヒ思切ツテ日本ト話合ヲ始ムルノ誠意ヲ披瀝スルコト必要ナル可シト答ヘタルニ「パ」[2]ハ強化ハ蔣ヲ措ヒテ適任者無ク結局支那内政ノ混乱ヲ救フニハ日本側ニ於テ蔣ヲ援助セラルルヨリ外良策無キモ今日ノ情勢ニテハ国民政府ニ於テハ何人モ進ンテ日支関係ノ打開ヲ主張シ得ル者無ク要ハ如何ニセハ輿論ニ逆ハス且面子ヲ毀損セスシテ直接交渉ニ転換シ得ルヤノ方策ヲ発見スルニ在リト述ヘタルヲ以テ須磨ヨリ日本側トシテハ国民政府要人等ニ於テ進ンテ誠意ヲ披瀝セサル限リ右転換方策ヲ考量シ得サル地位ニアル事前述ノ通ナルカ全然自分一個ノ当座ノ思付トシテハ例ヘハ曩ニ日支通商条約廃棄問題ニ関シ取リタルカ如ク日支両国間ノ善隣関係ニ鑑ミ一時満州問題ヲ「セット、アサイド」スト素直ニ出ツルカ或ハ何等権限ノ極マラサル日支共同委員会ノ如キモノヲ設ケ問題解決ノ「フォーミュラー」ヲ考究セシムルトカノ方法ニ依リ漸次両国間感情ノ鎮静ヲ助成スルコト一案ナル可ク右等ニ付支那責任者ヨリ進ンテ何等カノ意思表示アルニ於テハ或ハ転換ノ途カ開カルル機会アルヤニ思考セラルル旨述ヘタル処「パ」ハ右委員会案ハ面白キ案ト思ハルルモ何レ羅部長ハ十七日帰国ノ汪兆銘出迎ノ為一両日中ニハ来滬ノ予定ニテ其ノ上ハ宋子文、汪ヲ混ヘ主要対日問題ニ関スル意見ノ交換行ハルル筈ニ付右討議ノ結果ヲ俟チ改メテ来訪ノ上私的会談ヲ続クルコトト致度シト語リ辞去セル趣ナリ
満、北平、南京ヘ転電セリ

86　昭和8年3月16日　在上海有吉公使より内田外務大臣宛（電報）

日中直接交渉説に関し黄郛より報道注意方申出について

上海　3月16日後発
本省　3月16日後着

第一五六号（暗）
最近東京発電報ハ（十日発電通十二日発連合等）日本政府ニ蔣介石援助直接交渉開始ノ意向有ル旨ヲ報道シ居ル処十四日黄郛ハ須磨ニ対シ右電報ヲ示シタル上坊間恰モ自分ニ於テ直接交渉ヲ進メ居ルカ如キ宣伝有ル為最近各方面ヨリノ脅迫一層烈シクナリ身辺ノ危険ヲサヘ感シ居ル次第ニテ斯クテハ今後貴方トノ接触モ困難トナル可シト語レル趣ナリ（十五日許卓然モ有野ニ対シ黄郛ノ伝言トシテ同様ノ趣旨ヲ話シ居タリ）本件直接交渉説ニ関スル外部ノ質問ニ対シテノ当方ノ応酬振リハ南京発閣下宛電報第一六二号（七五文書）須磨ノ「パドー」ニ対スル回答ノ趣旨ニ依リ御承知ノ通ナルカ此ノ際我方ヨリ前記ノ如キ報道ヲ出ス事ハ親日家ノ活動ヲ困難ナラシムル外我方ノ対支交渉上多大ノ支障ヲ来ス次第ナレハ此ノ種報道ノ流布ニ対シテハ此ノ上トモ充分御注意方御配慮ヲ請フ
北平、天津、南京、満ニ転電セリ

87　昭和8年3月16日　在南京上村総領事代理より内田外務大臣宛（電報）

中国外交部日本との妥協説否定の声明発表について

南京　3月16日後発
本省　3月16日後着

第一七四号

外交部「スポークスマン」ハ十六日ノ新聞ニ大要左ノ如キ声明ヲ発表セリ

羅部長（文磐）今回ノ北上ハ全ク蔣委員長ト外交上一種ノ新タナル遣方ニ付商議スル為ニシテ右ハ軟化的又ハ妥協的ニ非スシテ積極的且強硬的ノモノナルカ其ノ内容ハ羅部長帰京シ中央ト商議シタル後発表シ得ヘシ羅部長赴平ノ任務ハ各国公使ニ我方意向ヲ伝達スル為ナリ云々尚同日ノ中央日報ハ羅部長ハ北平ニ於テ英仏（及）各国公使ト会談セルカ外間支那ハ日本ト妥協セントスル意向アリ各国公使ノ斡旋ニ依リ更ニ直接交渉ヲ開始セントスルモノナリト伝ヘラレ右ハ羅部長及中央当局ニ於テ極力否認セルニ拘ハラス疑惑尚解ケサルモノアル処支那ハ日本ノ到底同意セサルヘキ満州国承認取消ヲ其ノ上前提条件トスルモノナルヲ以テ交渉開始ノ途ハ閉サレ居リ従テ日支問題ノ全般的解決ハ差当リ問題トナラス目下外支双方ニテ努力シツツアルハ如何ニシテ平津地方ノ商工ヲ維持スルカニアリトノ新聞電報ヲ掲載シ居レリ

支、北平、満、天津、青島、済南、漢口、広東、福州ヘ転電セリ

支ヨリ上海ヘ転報アリタシ

88　昭和8年3月17日　在北平中山書記官より内田外務大臣宛（電報）

中央軍の北上に関し何応欽に注意喚起について

北平　3月17日後発
本省　3月17日後着

第一三八号（暗）

十七日何応欽ヲ往訪政府ノ訓令ニ依ラサル私的往訪ナルヲ冒頭シタル上関内ニ対スル政府ノ御方針ヲ適宜説明シタル処何ハ支那側トシテハ日本側ヨリ挑発セサル限リ何事モ為ササル方針ナル旨答ヘタルヲ以テ本官ハ北支ノ治安ノ見地ヨリ最モ憂慮セラルヘキ事態ハ引続ク中央軍ノ北上ニ在ルコトヲ説明シ右カ日本側ノ神経ヲ鮮カラス刺戟シ居ル旨述ヘ其ノ口裏ヲ聞キタルニ何ハ右ハ国内ニ於ケル軍隊ノ移動ニシテ全ク支那ノ自由ニ属スルモ今回北上ノ中央軍ハ河北省（古北口、喜峰口、冷口ヲ含ム）内ノ治安維持ニ他ナラサル旨答ヘタルヲ以テ本官ハ右中央軍集中ノ事実ニ対シ河北ノ現状ニ於テ憂慮スヘキ事態トシテ大イニ注意ヲ払ヒ居ル旨ヲ述ヘ尚白河防備問題ニ関シ桑島総領事于学忠間ノ論争ノ如キモ事実上不必要トナランコトヲ希望シ居ル旨ヲモ付言シ置ケリ

支、満、南京、青島、済南、天津ヘ転電セリ

89　昭和8年3月17日　在広東吉田総領事代理より内田外務大臣宛（電報）

汪兆銘の行政院長就任説等に関する甘介侯の談話について

広東　3月17日後発
本省　3月17日後着

第一七二号（暗）

十六日甘介侯ノ本官ニ為セル談話中参考トナルヘキ点左ノ通

一、今回赴香汪精衛ト会見セルカ汪ハ十中八、九行政院長ニ就任スヘシ又汪ハ胡漢民トモ会見セルカ右ハ単ニ儀礼的ノモノニシテ何等立入リタル談合無カリキ

二、張学良下野ニ関連シ羅文幹モ辞職スルヤノ説有ル処羅ハ最近宋子文ニ取入リ学良トノ関係昔日ノ如クニ非サルヲ以テ恐ラク辞職スルカ如キ事無カル可ク若シ同人辞職セハ其ノ後任ハ王正廷又ハ伍朝枢ノ中ナルカ寧ロ前者ニ勝味有リ陳融ノ外交部長ハ問題ト為ラス

三、日支直接交渉ハ絶対出来サル相談ナリトハ汪精衛モ之ヲ述ヘ居タリ吾人ハ飽迄現状ノ儘日本ニ抵抗ヲ続ケ国際政局ノ対日悪気流ニ乗リ最後ノ勝利ヲ占メサルヲ得サル立場ニ置カレ居レリ

四、西南軍隊ノ北上抗日ニ関シテハ先ツ広東軍カ十八日韶関ニ集結シ広西、福建両軍亦最短期間内ニ同地ニ参集シ愈々陸路北上ノ筈ナルカ総指揮ニ蔡廷鍇任命セラレ居レリ（此ノ点「デマ」ナル可シ）

五、蔣介石ト共産軍トノ妥協等絶対ニ無ク現ニ蔣ノ北上後二日目ニ中央軍ト赤軍間ニ相当ノ激戦有リテ今尚対峙中

ナリ云々

支、北平、奉天、満、天津、済南、南京、漢口、広東、厦門、汕頭ヘ転電シ香港ヘ転報セリ

支ヨリ上海ヘ転報アリ度シ

90　昭和8年3月18日　在済南西田総領事より内田外務大臣宛（電報）

山東方面の治安維持問題等に関する韓復榘の内話について

済南　3月18日前発
本省　3月18日後着

第八三号（暗）

十七日韓主席ハ本官ノ含ミ迄トシテ左ノ通リ内話セリ

一、張学良ノ下野ニ伴ヒ華北治安維持及対日問題ニ付蔣介石ヨリ派員方申越セルヨリ省政府委員張鉞ヲ保定ニ派シタリ（北平ニテ何応欽トモ会談セシメタル模様ナリ）沈鴻烈ハ十二日来済種々話合ヘルカ沈ハ学良トノ関係上一応辞表ヲ提出セルモ中央ヨリ慰留シ来リ自分ト共ニ山東治安維持ニ当ルコトトナレリ

二、華北軍事ハ何応欽主持スルコトトナレルモ東北軍其他ノ雑軍ヲ果シテ制御シ得ルヤハ多少ノ懸念無キニアラサル処既ニ中央軍三、四ケ師（各師完全ニアラス）到着セル模様ナルニ付軍費確実ニ支給シ得ラルルニ於テハ各部隊ニ感情其他ニ於テ多少不満アルトモ国難ノ際殊ニ長城ノ線ニテ戦闘中ニテモアレハ直ニ叛乱的行動ニ出ツルカ如キコト無カランモ既ニ相当不渡リモアレハ多少ノ紛糾ハ免レストスルモ大事ニ至ラサルヘシ

三、前述張鉞派遣ノ外閻馮及宋哲元等ニモ派遣セルモ未タ帰済セサルカ華北治安維持並ニ対日方針ニ付九日貴官ニ御話セシ次第ハ（往電第七五号参照）（七七文書）学良ノ下野ト共ニ華北形勢ニ若干変更アリ自分ノ意見モ多少変化ヲ要スヘキニ付各方面ノ派員帰済後更ニ或ハ御願ヒスヘシ云々ト

支ヨリ上海ヘ転報アリタシ

支、北平、青島、天津、南京、漢口、広東、満、奉天ヘ転電シ芝罘ヘ暗送セリ

91　昭和8年3月18日　在済南西田総領事より内田外務大臣宛（電報）

蔣介石の反攻令に基づく長城方面の戦闘に関する韓復榘の内話について

済南　3月18日前発
本省　3月18日後着

第八四号（暗）

往電第八三号（九〇文書）ニ関シ

十七日韓主席熱河及長城方面ノ戦況ヲ問ヒタルニ付本官ハ最近ノ状況ヲ話シタル上支那新聞ハ宋哲元軍大勝ヲ云々セルモ古北口ハ勿論喜峰口ハ依然我方ニテ保持シ数回ニ亘ル宋哲元軍ノ反撃ヲ撃退シツツ有リ尤モ支那軍ハ日本軍カ長城ヲ超エサルヲ見越シ一旦退却セル部隊カ小口ヨリ再ヒ関外ニ進入セルヨリ之ヲ撃退シツツアルニ貴国側ハ宣伝ノミヲ伝ヘ実情ヲ報セス一般国民ヲシテ益々事大観念ヲ抱カシムルハ貴国ノ為憂フヘキ現象ナリト述ヘタルニ

韓ハ自分カ得タル情報ニ拠レハ古北口ハ兎ニ角喜峰口ハ支那側ニ有利ニシテ現ニ支那軍ハ冷口、界嶺口其他ヨリ相当部隊関外ニ進入シ居レリ蔣介石ノ真意ハ未タ判明セサルカ日本ハ長城ノ線ヲ以テ満州国境ナリト云フモ支那側トシテハ表面右ヲ是認シ得サレハ蔣ハ反攻令ヲ出シタルヨリ各部隊亦成敗ヲ論セス戦闘ノ外無ク宋哲元ノ如キハ正ニ其ノ立場ニ在リト思ハル尤モ日本側モ右ニ対シ圧迫的計画有ル模様ナレハ戦線ハ漸次拡大セラレテ長城方面丈ニテモ上海事件ノ数倍ト為リ双方多大ノ損害ヲ来シ外国側トノ紛糾サヘ生スル懸念有リ両国ノ為ニハ甚タ好マシカラサル結果ヲ招来スヘキニ付之ヲ避ケンコトヲ希望スルモ或程度ノ衝突ヲ為サスハ此ノ儘ニテハ済マサル状態ナリ自分ハ依然山東治安維持ヲ計リツツ形勢ヲ静観スルノ外無シト述ヘ

尚閻錫山ハ蔣トモ会見セルモ山西、察哈爾位ヲ治ムル程度ニテ直ニ北平ニ乗出スノ力無ク馮モ抗日云々ヲ高唱セルモ自身実力無ク宋哲元ノ奮戦モ馮トノ関係有リトハ思料サレス黄郛ハ北平市長ニ就任ヲ欲セサル模様ナリ云々ト語リ居タリ

支ヨリ上海ヘ転報シ奉天ヨリ錦州ヘ転電アリタシ

支、北平、青島、天津、南京、漢口、広東、満、奉天ヘ転電シ芝罘ヘ暗送セリ

92　昭和8年3月22日　在済南西田総領事より内田外務大臣宛（電報）

日本と蔣介石との関係および韓復榘への援助等に関し石友三より打診について

済南　3月22日後発

第九五号（暗）　本省　3月22日後着

二十二日石友三ヨリ本官ニ会見ヲ求メ石ハ内密ニ願度シト前提シ

一、自分ハ韓主席帰済後会談セルカ韓ハ今回蔣介石ト会見セル外途中于学忠、何応欽、楊杰並宋哲元、龐炳勛等ニモ会ヒ帰リタル処結局蔣介石ハ東北及雑色軍ヲ糾合シ更ニ新手ヲ戦線ニ送リ後方ヲ中央軍ニテ監視シ出来得ル限リ日本軍ニ抵抗セシメテ勢力ヲ減殺シタル後雑色軍ノ収容ヲ計ラント計画シ現ニ龐炳勛軍ノ如キモ喜峰ロノ前線雑軍ニ代リ出動ヲ命セラレ居レリ而シテ蔣ハ表面対内及対外関係上飽迄抗日ヲ表明シ一面主トシテ米国ヨリ武器弾薬ヲ輸入シ組織ヲ伊国ノ「ファシスト」ニ倣ヒ抗日ヲ口実ニ内面漸次独裁政治ニ移ラントシ若シ東北及雑軍ノ抗日有利ニ展開セハ積極的ニ日本ニ対抗シ不利ナル際ハ然ルヘク方法ヲ設ケ独裁政治実行ノ方針ニシテ昨今ニ至リ東北軍並河北将領モ蔣ノ右計画ニ気付キ秘ニ反蔣運動起リツツアリ同時ニ広東側ヲ初メ閩、馮等ニ於テモ蔣ノ右遣方ニ対シ反感高マリ漸次蔣ニ依ル中央統一ノ反対起リツツアリ韓トシテモ結局ハ前述ノ雑色軍ト共ニ整理セラルヘキヲ察知シ来レリ然ルニ最近日本ニテハ支那ニ対シ挑戦的態度ニ出テサル以上長城以南ニ進撃セス支那ノ中央政府ヲ擁護スヘシトノ報アル処日本ニシテ若シ蔣介石援助ノ態度ヲ執ラハ支那各将領ハ一致シテ介石反対延ヒテ日本ニ反対シ蔣トシテモ結局没落ノ外ナカルヘキカ果シテ日本カ中央政府即チ蔣介石擁護ノ意思アリヤ尚又韓ノ真意ハ山東保境安民ニアルカ日本カ右ニ対シ如何ナル程度ノ援助ヲ与フルヤト尋ネ韓ヨリモ前述日本側ノ意向ヲ聞キ合セラレタシトノ意アリタリト述ヘタルニ付

二、本官ハ新聞ニハ種々ナル報道アリ確実ナルコトハ承知セサルモ日本トシテハ恐ラク無理ナル反対ヲ為サス日本ノ真意ヲ了解シ得ルモノニハ反対セサルヘキモ今日ノ如ク東洋ノ大局ニ着眼セス只管日本ニ反対セハ可ナリト考ヘ居ルモノニ対シテハ日本モ亦反対ヲ継続スヘク例ヘハ山東省ノ如ク合理的平静ニ経過セル地方政権ニ対シテハ出来得ル限リ双方ノ為良好ナル連絡ヲ計リ治安維持ニ好意ヲ持ツモ他所ノ如ク徒ニ排日的行動又ハ排日貨等ヲ為シ可然之ヲ対日政策ニ利用セントスル地方アリトセハ可

然交渉若ハ適当ナル措置ニ出ツルノ外無カルヘシト述ヘ自分トシテハ山東ニ関スル限リ韓主席カ従来通ノ方針ニテ進ムニ於テハ日本ハ出来得ル限リ好意的ニ出テ無用ナル日支紛糾ヲ惹起セサル様努力スヘキハ断言シ得ヘク又山東以外ノ事ニ付両国ノ為有益ナルコトナラハ何事ニテモ本国政府ニ伝達スルニ吝ナラスト答ヘ置ケリ

右石ノ申出ハ韓ノ依頼ヲ受ケタルロ吻ナリシカ韓ノ真意ハ何レ会見問ヒ質スヘキモ韓ヨリ直接本官ニ問合ハスニハ「デリケート」ナルヨリ石ヲ通シ斯ク申出テタルモノト察セラル

支ヨリ上海ヘ転報アリタシ

支、北平、青島、天津、南京、漢口、広東、満、奉天ヘ転電シ、芝罘ヘ暗送セリ

93　昭和8年3月23日　在南京上村総領事代理より内田外務大臣宛（電報）

満州問題に関し日本の妥協なき限り直接交渉困難との彭学沛談話について

南京　3月23日後発
本省　3月23日後着

第一八九号（暗）

往電第一八八号会談ノ際彭学沛ハ日支問題ニ付汪精衛ト蔣介石トノ間ニ何等意見ノ相違無ク現状ニ於テ長城方面ニ中立地帯ヲ設定スルカ如キ話合ヲ日本トノ間ニ始ムルコトハ全然望ミ無キ処ナリ尤モ蔣介石トシテモ熱河奪回ノ不可能ナルコト及此ノ上日本ト武力抗争ヲ為スコトノ不利益ナルコトハ良ク承知シ居ル次第ニ付長城一帯ノ戦線ハ漸次平静ニ帰ルヘク時機ヲ見テ正式ノ話合ハ為サストモ日支双方ノ個人的接触ニ依リ長城一帯ノ線ニ於テ衝突ヲ起スコト無キ様方法ヲ講スル事モ出来得ヘシ但シ満州問題ニ付形式上丈ニテモ支那ノ面目ノ立ツカ如キ案ヲ得ルニ非サル限リ日本ト直接交渉ニ入ルヲ得ス又目下ノ空気ニテハ満州問題ヲ「セット、アサイド」シテ他ノ問題ニ付日本ト交渉シ又ハ中央政府カ日本ノ援助ヲ受入ルルカ如キ事モ出来得サル次第ナルヲ以テ満州問題ニ付日本側ニ於テモ妥協ノ方法ヲ考慮セラレン事ヲ希望ニ堪ヘスト述ヘタリ

右ニ対シ本官ハ満州国ノ独立ニ付テハ日本ノ態度ハ終始一貫シ居リ妥協ノ余地ナキコト御承知ノ通ナリ自分ハ支那側ニ於テ排日抗日運動ヲ漸次抑制シ輿論ノ鎮静ヲ計リ日支間

ノ空気ヲ緩和スルコトニ依リ満州問題直接交渉ノ機運ヲ醸成スル様努力スルヨリ外ナカルヘキ旨述ヘ置キタルカ右彭ノ話ハ満州問題ニ対スル汪精衛派ノ意向ヲモ反映シ居ルモノト思ハルルニ付御参考迄

支、北平、満、天津ヘ転電セリ

94 昭和8年3月23日 在南京上村総領事代理より内田外務大臣宛（電報）

満州問題をセットアサイドしての日本との国交改善は不可能との徐外交部次長談話について

南京 3月23日後発
本省 3月23日後着

第一九〇号（暗）

廿三日本官他用ニテ外交次長徐謨ト会見シタルカ談偶々日支問題ニ及フヤ徐ハ熱河攻略開始前ト全ク同様ノ強硬ナル態度ヲ以テ日本カ満州及熱河ヲ支那ニ返還スル迄ハ支那ハ成敗ヲ顧ミス国運ヲ賭シテ飽迄闘フヨリ外無シ実力ニ依リ満州ノ奪還カ仮令不可能ナリトスルモ将又長期ニ亘ル抵抗カ結局不成功ニ終ルトスルモ苟クモ自尊心アル国家カ満州問題ヲ「セット、アサイド」シテ日本トノ国交改善ヲ計ルカ如キハ到底考フルコトモ出来サル処ナリト述ヘ其ノ間本官ヨリ右ノ如キハ「ヒステリカル」ナル議論ナリトテ日支ノ大局ヲ説キ斯ル難局ニ処スルニハ「ヒステリカル」ノ議論ヨリモ「ステーツマンシップ」ヲ要ストテ種々説キ聞カセタルモ徐ハ徹頭徹尾非妥協的ニテ長城ノ線ニハ支那軍ニ於テ再ヒ逆襲ヲ敢行スルコトアルヘク国民ノ衷心ノ叫タル排日運動モ一層深刻トナルコトアルヘシトノ意味ヲ仄メカシ捨鉢的言説ヲ弄シ居タリ

右ハ有吉公使ノ帰朝ヲ前ニ控ヘタル為宣伝ノ意味ヲモ加ヘタル誇張的「ヂェスチャア」トハ存セラルルモ最近各方面ノ情報モ支那側ノ非妥協的政策ヲ伝ヘ居ルニ鑑ミ右何等御参考迄（出所秘）

支ヨリ上海ヘ転報アリタシ

支、北平、天津、青島、済南、漢口、広東、満ヘ転電セリ

95 昭和8年3月24日 在済南西田総領事より内田外務大臣宛（電報）

蔣介石等との会談模様に関する韓復榘の内話について

済南 3月24日後発

本省 3月24日後着

第九八号（暗）

二十四日韓主席内密ニ願度シトテ本官ヘノ内話左ノ通

一、蔣介石ヨリ蔣伯誠ヲ派シ自分ノ北上ヲ促セルヨリ保定ニ赴キ二回ニ亘リ会見帰済セルカ蔣ハ学良下野後ニ於ケル抗日及華北治安ニ付協力方種々話有リタル処同人ノ真意ハ充分ニ判明セサルモ自分ノ得タル印象ニ依レハ蔣ハ抗日ノ困難ニシテ成功ノ見込無キハ承知セルカ如キモ右不可能ナルヲ公表セハ国民ノ攻撃ニ遭フ可キニ付対内外ノ関係上抗日ノ継続ヲ唱ヘ対内的ニ実力養成ヲ計リ基礎ヲ固メントシ寧ロ抗日ノ名目ヲ利用シ対内統一ヲ計ラントスルモノノ如ク未タ対日方針ノ具体案無キ模様ナリ

二、華北治安ニ関シ東北軍其ノ他雑色軍二十万以上ノ措置ニ対シテハ順次抗日ニ当ラシメテ其ノ勢力減少後収容セントスル底意有リ山東ニモ或ル時期ニ若干部隊ヲ出兵セシメントスル意無キニ非サリシモ自分ハ山東ノ地位上省内ノ治安維持ヲ計リ国防ニ対シテハ充分準備ヲ為スモ北方ニ出兵ノ余力無キ趣旨ヲ然ル可ク答ヘ置キタルロ吻ヲ洩ラシ

三、途中何応欽、楊杰ノ外于学忠、宋哲元、龐炳勛其ノ他華北将領及李烈鈞トモ会談シタルカ華北将領ノ蔣ニ対スル感情ハ余リ良好ナラス並閻、馮ノ意向、西南派等ノ空気ヲモ綜合スルニ蔣介石ニテハ軍事及財政上ノ関係ヨリ蔣ノ考ヘ通リノ政策ハ成功セサル可ク左リトテ閻或ハ馮ノ出馬モ不可能ニシテ呉佩孚ノ如キモ差当リ見込無シ何レニセヨ此ノ儘ニテハ日本軍長城以南進出ノ有無ハ別トシテモ華北ノミノ完全ナル統一不可能ニシテ段祺瑞ノ健康許スニ於テハ帰北ヲ見ルカ又ハ段ノ帰北無クトモ何等カノ新局面生スルノ時機有ル可ク夫レ迄ハ確実ナル華北統一ノ望無ク当分混沌状態ヲ続ク可シ

四、右様ノ状態ナルニ付自分トシテハ従来通リ山東ヲ日支紛擾ノ渦中ニ投セシメス飽迄省外ニ出兵セス山東治安ヲ確実ニスルト共ニ巷間ノ一部ニハ自分カ日本側ト何等了解有ル如ク頻リニ揣摩臆測ヲ為スニ付自分ノ立場上表面国防ニ対スル準備ヲ計ル態度ヲ示シ他方華北将領トモ漸次連絡ヲ密ニシ時局ノ推移ヲ静観スル考ナリ云々

支ヨリ上海ニ転報アリ度シ

支、北平、青島、天津、南京、漢口、広東、満、奉天ニ転

電シ芝罘、坊子、張店、博山ニ暗送セリ

96　昭和8年3月24日　在済南西田総領事より内田外務大臣宛（電報）

共産党勢力拡大の際は日本より武器弾薬の供給希望方韓復榘より申出について

第一〇一号（暗、極秘）　済南　3月24日後発
往電第九八号（九五文書）ニ関シ　本省　3月24日後着

一、廿四日韓主席本官ニ対シ今後支那ノ時局ハ対外的ニハ連盟及米露ノ外交関係並ニ直接問題トシテ日本ノ対支政策ノ推移ニ依ルモ連盟及米露ノ如キハ頼トスルニ足ラス然ルニ現状ニ於テハ支那各界ハ何レモ表面失地回復抗日ヲ高唱セル処其多クハ抗日ヲ名目ニ対内的動機ヨリ議論スルノミニテ実際ノ準備無シ斯ル状態ニテ推移スルニ於テハ前述ノ通華北ノミノ統一サヘ不可能ナルノミナラス共産軍ノ勢力増大シ遠カラスシテ共産党ノ紛擾ハ全国ニ拡大セントスル形勢益々濃厚トナリ収拾シ得サル時期ヲ招来スヘク其ノ際ハ少クトモ山東ハ日本ノ助力（直接出兵等ノ意ナラスシテ武器弾薬類ノ援助）ヲ願ヒ度キ希望ナリト述ヘタルニ付

本官ハ屢次御話シタル通リ日本トシテハ日本ノ真意ヲ諒解シ日支紛擾ヲ釀ササル地方政権者ニ対シテハ出来得ル限リノ好意ヲ以テ連絡協力シ殊ニ共産党ノ拡大ハ両国ノ為ニモ好マシカラサレハ斯ル事態ヲ防止スル為ニハ充分ノ援助ヲ為スニ吝ナラスト然ル可ク応答シ

二、更ニ本官ヨリ貴官ハ抗日ノ為ニ飽迄省外ニ出兵セシメスト言ハルルモ蔣ヨリ強要ノ厳命アリタル場合如何ニセラルルヤト反問セルニ万一已ムヲ得ス省外出兵ノ場合ハ右ハ抗日ノ為ニ非スシテ華北将領間ト充分連絡成リタル時期ナリトテ暗ニ蔣ノ命ニ依リテ出兵スルニ非ストノ意ヲ洩セリ

支ヨリ上海ヘ転報アリタシ
支、北平、青島、天津、南京、漢口、広東、満、奉天ヘ転電シ芝罘ヘ暗送セリ

97　昭和8年3月25日　在広東吉田総領事代理より内田外務大臣宛（電報）

汪兆銘の動向および対日態度に関する甘介侯の内話について

第一八七号（暗）　広東　3月25日後発
二十四日甘介侯ハ本官ニ対シ拙電第一七二号（八九文書）甘ノ香港ニ於ケル汪精衛トノ会談ヲ「レファー」シ「汪ノ健康未タ充分回復セサルハ事実ナルモ今回ノ帰朝ニ際シテハ行政院長ニ復職ハ勿論覚悟ノ上ニテ今俄ニ之ヲ肯セサル態度ヲ示シツツアルハ上海着後内政問題ニ付汪ノ意ニ副ハサルモノアルヲ発見シ容易ニ復職セサル次第ナルモ蔣介石ニ於テモ此ノ際汪ヲ失フハ不利ナルヲ以テ其ノ間多少ノ曲折ハ有ル可キモ結局ハ円満汪ノ復職トナルモノト信ス汪ノ一面交渉、一面抵抗説ハ或程度ノ妥協ヲ表示セルモノト謂フ可ク汪ハ宋子文、孫科輩ノ如ク米、英等ノ力ヲ藉リテ日本ヲ駆逐セントノ肚ハ無ク抵抗ニモ妥協ニモ独自ノ立場ヲ以テ之ヲ為サントスルモノナリ日本ノ政治家ニシテ汪ト胸襟ヲ開キテ語ル者無キハ遺憾ニ堪ヘス云々」ト語リ居タリ
支、北平、南京、天津、済南、福州、満、奉天ヘ転電セリ
支ヨリ上海ヘ転報アリタシ

98　昭和8年3月25日　在広東吉田総領事代理より内田外務大臣宛（電報）

対日積極抵抗継続に関する甘介侯の観測について

第一八八号（暗）　広東　3月25日後発
二十四日本官甘介侯往訪ノ際甘ノ談話左ノ通
目下ノ時局ニ際シ中国トシテ採ル可キ途ハ三有リ
㈠中日妥協交渉
㈡暫ク時局ノ推移ヲ静観ノ為当分無為ニ送ル事
㈢対日積極抵抗継続
等即チ之ナリ右ノ中㈠ハ到底民意ノ容ルル処ニ非ス㈡ハ蔣介石目下ノ遣ロナルカ之亦国民ノ意思ニ反スルモノニシテ即チ㈢ヲ除キテ他ニ方法無シ但シ国ノ南北ヲ問ハス既ニ一ト廉ノ将領トシテ立テラレ居ル人々ハ日本軍ニ敵対シ失敗セハ所謂元モ子モ失フ次第故彼等ハ決シテ動カサル可シ然シナカラ僅ニ二、三万ノ兵ヲ有スル無名ノ軍将領ハ失敗スルモ尠クモ抵抗勇将ノ名ヲ得ヘク万一成功セハ一躍シテ英雄ナルヲ以テ彼等ハ喜ンテ抗日工作ヲ為スヘシ即チ今後ハ

此ノ種数多ノ軍将領ヲ慫慂シ武力抗争ヲ飽迄継続スル以外名案無シ云々

右ハ当方面政客ノ一致セル意見ナリト甘ハ称シ居レルモ果シテ何処迄真実ナルヤ頗ル疑ハシキモ南京発閣下宛電報第一九〇号（九四文書）ノ次第モ有ルニ付御参考迄

支、北平、南京、天津、済南、漢口、福州、満、奉天ヘ転電セリ、支ヨリ上海ヘ転報アリ度シ

99　昭和8年3月26日　在南京上村総領事代理より内田外務大臣宛（電報）

蔣介石・汪兆銘会談実施について

南京　3月26日後発
本省　3月27日前着

第一九八号

蔣介石ハ廿五日保定ヨリ開封ニ飛行シ同地ヨリ汽車ニテ南下シ本廿六日午前帰京シタルカ汪精衛モ本朝上海ヨリ帰京

在京要人ト共ニ蔣ヲ軍官学校ニ往訪シ長時間会談シタル趣ナリ

支、北平、満、奉天、天津、青島、済南、漢口、広東ヘ転電セリ

支ヨリ上海ヘ転報アリ度シ

100　昭和8年3月27日　在天津桑島総領事より内田外務大臣宛（電報）

軍隊の天津二十支里内駐留禁止問題に関する中国側態度硬化の状況について

天津　3月27日後発
本省　3月28日後着

第一七八号（暗）

北支治安維持上ノ見地ヨリ昨年来機会アル毎ニ省政府主席兼第一軍長タル于学忠ニ対シ二十支里内ニ支那軍隊ヲ駐留セサル様申入レ特ニ本年一月山海関事件後支那側カ二十支里以内ニ軍隊ヲ駐留シ又ハ白河河口ノ海防設備ヲ急キツツアルヤノ情報アリタルヲ以テ于学忠ニ対シ屢抗議ヲ繰返シ于ニ於テモ其ノ都度我方ノ趣旨ヲ諒解シ議定書及交換公文等ノ精神ヲ尊重スル旨声明シ居タルトコロ最近ニ至リテ俄ニ往電第一五七号（八二文書）ノ如ク従来ノ態度ヲ覆シ自衛上已ムヲ得スト称スルニ至レルノミナラス（張志譚ノ内話ニ依レハ右ハ南京外交部ノ訓令ニ依ルモノナル由）予テ本件交渉ハ一切外部ニ発表セサル様約束シ置キタルニ拘ラス先方ニ於テ

ハ当地及北平保定其ノ他各地ニ於テ前記往電所報ノ彼我往復文ノ概要迄モ之ヲ発表シ居ル事実アリ（尤モ于学忠ハ当地治安維持ノ直接責任者トシテ往電第一八〇号ノ如ク本件円満解決ニ関シ相当苦慮シ居ル形跡アルモ）思フニ右ハ日本側ハ屢関内ニ於テハ進ンテ軍事行動ニ出テサル旨ヲ声明セルモ依然河北侵略ノ野望ヲ蔵シ此ノ目的ノ下ニ本件支那側ノ違反行為ヲ高唱シ茲ニ関内侵攻ノ理由ヲ求メントスルモノナリト宣伝センカ為ナルヤニ認メラル右ハ既ニ連盟方面ニモ宣伝セラレ居ルカ如ク新聞ニ伝ヘラレ居ルヲ以テ御見込ニ依リ関係向ヘ転電アリタシ

在支公使、北平、南京、駐満全権大使ヘ転電セリ

101　昭和8年3月28日　在天津桑島総領事より内田外務大臣宛（電報）

周天津市長より蔣介石との会談の模様内話について

天津　3月28日後発
本省　3月28日後着

第一八九号（暗）

本月十八日蔣介石ノ招電ニ依リ保定ニ赴ケル周市長ハ出発直前本官ヲ訪ヒ北支殊ニ平津地方ノ治安ニ付腹蔵無キ本官ノ意見ヲ尋ネタルニ付既ニ再三再四言明セル如ク平津ニ於テ日本側ハ進テ事ヲ構フルモノニ非サルモ支那側カ不法ニ挑戦的態度ヲ執ルニ於テハ我方ハ断シテ許容セサルヘシ畢竟平津ノ治安ハ一ニ支那側ノ態度如何ニ懸ル旨申添ヘ尚山東省ニ於ケル実情ニ徴シ北支ニ於テ各派党部ノ存在ヲ廃止又ハ其ノ活動ヲ全然廃止スルコトハ両国関係ヲ良好ナラシメ結局地方治安ノ上ニモ鮮カラサル好影響アルヘシト夫ト無ク蔣介石ニモ通シ得ル様付言シ置キタル処同市長ハ廿一日帰津早々本官ニ対シ蔣介石トノ会談内容ヲ語リ蔣介石ハ平津地方ノ治安維持ヲ頗ル重要視シ飽迄平津ニ於テハ両国関係ノ良好ヲ持続スヘキ旨命シ尚蔣ノ秘書長楊永泰（孫潤宇カ田中ニ語レル所ニ拠レハ楊ハ策謀ニ富ミ最近日支交渉説ノ現ハレタルモ同人ノ細工ナルカ如シ）ニ対シ山東省ニ於ケル党部ノ状況ヲ述ヘ北支殊ニ平津地方ニ於テ党部ニ対スル措置如何ハ地方治安ハ勿論日支関係ニモ重大影響アリト縷々説明シ機ヲ観テ蔣介石ニ伝達方依頼シ其ノ快諾ヲ得タリト語レリ御参考迄

支ヨリ上海ヘ転報アリ度シ

支、北平、南京、漢口、広東、青島、済南、満へ転電セリ

102　昭和8年3月30日　在上海堀内書記官より内田外務大臣宛（電報）

蔣介石の対日妥協説等に関する許卓然の内話について

上海　3月30日後発
本省　3月30日後着

第一八二号（暗、極秘扱）

二十九日許卓然カ有野(学)ニ為セル内話中御参考迄左ノ通（本談ニ付テノ出所及㈠ノ点特ニ発表セサル様致度シ）

一、蔣介石ハ熱河陥落張学良下野ノ当時日本ニ対シ暫時ノ妥協的態度ヲ取ルコトニ一応方針ヲ決定シ居リタルカ最近自分（許）カ陳友仁ノ秘書ヨリ聞込ミタル処ニ依レハ其後羅文幹蔣ノ命ヲ含ミ北上シ（三月十日）各国公使ト接触ノ際㈠日本軍カ長城ヲ越エテ軍事行動ヲ取ルニ於テハ中国政府ハ平津ノ治安維持ノ責任ヲ取リ得サルコト㈡此ノ際一時日本側ニ対シ妥協的態度ニ出ツヘキ意向アルコトノ二点ヲ告ケ玆ニ各国側ノ意向ヲ探リタル処英国公使ハ日本ハ恐ラク河北ニテ軍事行動ヲ取ルコト無カルヘシト述ヘ米国公使ハ日本ト妥協スルナラハ今後支那ノ勝手ニスルカ善シトノ態度ヲ示シタル為（米国公使云々ノ点ハ情報ノ出所等ヨリ見ルモ信シ難キ節アルモ聞込ミノ儘）蔣ハ俄カニ前顕方針ノ変更ヲ余儀ナクセラレタル由ナリ

二、(2)尤モ蔣ノ真意ハ此ノ上日本ト抗争スルノ不利ナルヲ認メ居ルニ付今後共積極的行動ニハ出テサルヘキモ広東派特ニ胡漢民（汪精衛香港立寄会見ノ際胡ハ抗日主張ノ外蔣ヲ打倒スヘシトテ強硬ノ態度ヲ示シタル由）及馮玉祥一派ノ抗日主張ニ備フルト同時ニ右米国側ノ意ヲ迎フル為ニモ依然抗日ヲ標榜シ当分長城付近ニテ小規模ノ反抗ヲ継続シ宣伝ニ努ムルモノト観察セラル

三、汪ハ既ニ行政院長復職ヲ内諾シタル模様ナルカ今日迄復職ヲ渋リ居リタルハ主トシテ宋子文カ同院長留任ノ色気アリタルカ為ニシテ蔣トノ間ニ抗日主張一致セリトノ説ハ付ケタリニ過キス

四、国民党専制反対運動中今日迄表面的ニ態度ヲ表示セルハ段祺瑞ノ一派ノミナル所数日来中央政治会議及中常会議ニテ討議中ノ李烈鈞提議ノ政権解放案ハ現在ノ党治組織ヲ改造セントスルモノニシテ右ハ蔣カ党ノ弊害ヲ認メ其ノ指金ニテ提議セシメタルモノナリ

五、南方ノ抗日軍北上説ハ孰レモ掛声ノミニ過キス最近広西軍六千ノ北上説アルモ銀行側ノ入電ニ依レハ何等此ノ事実ナク又先般北上ノ翁照垣（十九路軍旅長）モ単身赴平シタルモノニシテ現在ノ配属軍隊ハ総テ旧学良軍ナリ北平、天津、済南、青島、南京、漢口、広東、福州、満へ転電シ上海へ転報セリ

103　昭和8年4月3日　在南京上村総領事代理より内田外務大臣宛（電報）

日中関係の回復、排日取締等に関する汪兆銘の意向について

南京　4月3日後発
本省　4月4日前着

第二二三号（暗、極秘扱）

三日本官汪精衛ト会談シタルカ談日支ノ関係ニ及フヤ汪ハ自分ハ日支ノ関係ハ必ス軌道ニ戻ラサルヘカラサルナリト確信シ居レリ然レトモ目下ノ状態ニテハ急ニ軌道ニ引戻スコトハ甚タ困難ナリ時ノ経過ト共ニ日支間ニ話合ノ出来得ル機会ノ出現スルヲ待ツノ外無カルヘシトノ趣旨ヲ述ヘタルニ依リ本官ハ御話ノ趣旨ニハ同感ナルカ只日支間ニ話合ノ出来得ル機会ノ出現ヲ漫然待ツハ余リニ消極的ナリ寧ロ自分等ハ貴院長カ斯カル機運ノ醸成ニ付積極的努力ヲ払ハレンコトヲ期待シ居ルモノナリ御承知ノ通リ目下支那ノ新聞ハ積極抵抗トカ抗日トカ盛ンニ人心ヲ煽動シ居ルノミナラス最近各地ニ排日不法行為頻出セリ然レトモ抗日ニ依リ満州ヲ奪回シ排日ニ依リ日本ニ経済的大打撃ヲ与ヘ得サルコトハ貴院長モ充分了解セラレ居ル処ナルノミナラス右(2)ハ却テ一方ニ於テ日支ノ感情ヲ不当ニ刺戟シ両国ノ関係ヲ愈愈険悪ナラシメ他方ニ於テハ支那ノ人心ヲ昂奮セシメ所謂輿論ヲ硬化セシメテ政府ノ立場ヲ一層困難ナラシムヘシ排日抗日ニ依リ大打撃ヲ受クルハ実ニ日本ニアラスシテ支那自身ナリ依テ貴院長愈々復職セラレタルニ付自分等ノ期待ヲ裏切ラサル様日支ノ大局ニ顧念シ漸次排日抗日ノ取締ニ手ヲ着ケ輿論ヲ鎮静ニ導キ以テ日支関係カ軌道ニ復スル為ノ地均シヲ為ス様積極的努力ヲ払ハレンコトヲ希望スト述ヘタルニ汪ハ排日抗日ノ運動ヲ急ニ取締ルコトハ困難ナルカ自分ノ出来得ル丈ケノ努力ヲ為ス積リナリト答ヘ何時モ

ナカラ明確ニハアラサルモ大体穏健ナル意見ヲ述ヘ居タリ
尚右排日ニ関スル話ノ序ニ漢口及福州ニ於ケル排日ノ状況ヲ述ヘ汪ノ注意ヲ喚起シ置キタリ（右会談ハ汪ノ立場モアリ公表見合セラレ度シ尚本官辞去後直ニ当地電通特派員汪ニ会見セリ為念）
支ヨリ上海ヘ転報アリタシ
満、支、北平、天津、青島、済南、漢口、広東、福州ヘ転電セリ

104 昭和8年4月4日 在上海堀内書記官より内田外務大臣宛（電報）
日中関係回復の条件および中国の政局に関する黄郛の談話について

上海 4月4日前発
本省 4月4日後着

第一八五号（暗、極秘）
三日黄郛[1]ヵ他用往訪ノ有野ニ為セル談話中御参考迄左ノ通
一、現下ノ中日関係ハ恰モ結氷状態ニ似タリ之ヲ日光ニ依リ正面ヨリ溶解セシムルコトハ効果少ク内面ヨリ発スル潜熱ノ力ニ俟ツノ外無シ右溶解ニ相当スル両国ノ妥協ハ
(一)両国カ既往ノ経過ニ鑑ミ相互ニ反省シ(二)双方互ニ相手国ノ立場ヲ了解スル時機ニ至ル可キコト必要条件ナル処更ニ妥協ニ際シテハ第三国トノ関係ヲモ考慮ニ容ルル必要有リ旁々現在ノ如ク両国当局者カ互ニ強硬ナル空気ヲ包蔵シ居ル状態ニテハ其時機ハ猶遼遠ナルモノト考フル次第ナルカ此ノ間切メテ自覚セル両国ノ識者カ各自国ノ立場ノミニ執着セス冷静ニ気運ノ促進ニ努メンコト希望ニ堪ヘス
二、蔣介石ハ目下一人ニテ八人芸ヲ遣リ居ル形ナリ今回ノ汪精衛ノ復職モ固ヨリ予定ノ行動ナルモ矢張リ一応蔣ノ勧説ノ必要有リ北方ヲ手離シテ南下シタル次第ナルカ北方ノ現状ハ今日迄ノ処一通リノ手配ハ済ミタルモ今猶不安状態去ラス就中[2]学（良）軍ノ十七万雑軍ノ十二、三万合計約三十万ノ軍隊ト蔣ノ手兵三箇師ヲ此儘河北一省ニ収容スルコト到底不可能ニテ之カ整理ト其軍費ノ支給トハ当面ノ最大難問題ナルカ何応欽一人ニテハ不安ナル為弗々蔣ノ北上ヲ待タサルヘカラス他面江西ノ討共事業ハ予定ノ三分ノ一ノ程度湖北ノ政治及軍事整理亦半分ノ事績ニ過キス此方面モ亦蔣ノ手ヲ煩ハス必要アリテ結局蔣

ハ三方面ヲ掛持スル外無カルヘク差当リ最モ急ナル江西方面ニ向フコトトナルヘシ
三、外間伝フル如ク蔣ト馮玉祥トノ政見カ未タ完全ニ一致セサルコトハ事実ナルモ馮ノ所謂抗日五箇条ノ意見ナルモノハ昨年秋提出ノモノカ今頃一般ニ発表セラレタルモノニ過キス一方西南ニ於テ広東軍ノ北上説アルモ蔣ニ於テ何等其必要ヲ認メ居ラス此度ハ共匪討伐ニ其軍隊ノ出動ヲ求メ居ルノミナリ
（右例ニ依リ出所等極秘扱ニ相成度シ）
北平、天津、南京、漢口、広東、満ヘ転電シ上海ヘ転報セリ

105 昭和8年4月8日 在北平中山書記官より内田外務大臣宛（電報）
中国側の外交団に対する接触とその反応について

北平 4月8日後発
本省 4月8日後着

第一五九号（暗）
羅[1]文幹南下後当地支那側ハ外交団ニ対シ
イ、日本軍ハ長城ヲ越ヘテ侵入シ来ルヘキコト
ロ、支那側ハ之ニ対シ武力抵抗ヲ為ス意思ト実力ヲ有スルコト従テ華北ハ混乱ニ陥ルヘキコトヲ宣伝シ
ハ、日本ヲ牽制スルト同時ニ体面ヲ維持シ乍ラ華北ノ時局ヲ収拾スル為此ノ際外国ノ介入ヲ希望シ居ルヤニ認メラルル処
右ニ関スル外国側ノ態度ニ付何等御参考トナルヤニ存シ断片的ナルモ左ノ通
一、最近支那側カ最モ重キヲ置ケルハ米国ナルカ如ク何応欽ハ常ニ同国公使館陸軍武官ト連絡ヲ取リ日々長城方面戦況ヲ報シ（其ノ内容ハ或方法ニ依リ当方ニ於テ承知シ居レルカ大部分ハ支那側ノ宣伝ト認ム）居レル外事実上何ノ配下ニ在ル外交組ハ同武官ヲ三月廿四日頃昼餐ニ招キ「ジャパン・アドバタイザー」ノ「イーキンス」ノ記事ニ言及シ米国公使館ノ力ニテ「イ」ヲシテ支那側ニ不利ナル通信ヲ為サシメサル様出来間敷キヤト持掛ケタルコトアリ（武官ハ体能ク断リタル由）又同公使館衛隊長ハ顧維鈞留守邸ニ住ヒ居レリ（事変ノ際米国国旗ニ依リ保護セラレントスル顧ノ魂胆モアルヘシ）尚或酒席ニ於

テ同公使館語学将校ノ一大尉ハ四百万米弗ノ提供ヲ条件トシテ大西洋艦隊ヲ当分太平洋方面ニ滞留セシムルコトノ申出ヲ為シタル旨語リ居タルニ付其ノ後ノ機会ニ於テ右カ如何ナル場合何人ヨリノ申出ナルヤヲ突止メントシタルモ同大尉ハ顧ミテ他ヲ言ヒ之ニ回答ヲ与ヘサルカ恐ラク無責任ナル支那人ノ言ニ過キサルヘキモ要スルニ当地支那側ト米公使館武官側ト密接ナル連絡アルコトハ想像ニ難カラス乍併之カ為ニ公使及館員方面ニハ影響無キカ如ク現ニ六日公使ニ会見ノ節時局ニ言及シタルニ付小官ヨリ支那側ハ前記(ハ)ノ希望ヲ有スヘキ処外国側ノ模様如何ト尋ネタル処公使ハ支那側ハ確ニ右希望ヲ有スト考フルモ何レノ外国モ日支問題ニ介入スルモノ無カルヘシト言ヒ居タリ

二、[2] 英国公使ヘハ何ヨリ人ヲ派シテ多分ニ宣伝ヲ含ム情報ヲ供給シ居ルカ如キモ学良時代程支那側トノ連絡密ナラサルヤニ観察ス時局ニ対スル公使ノ見方ハ(イ)、(ロ)共ニ支那側ノ宣伝ナリトシテ信用セス(ハ)ニ付テハ目下ノ空気ニテハ日支ノ交渉ハ不可能ニシテ時カ之ヲ解決スヘシト言ヒ居レリ

三、伊国、三十日「アンフン」ニ面会ノ節同書記官ハ(イ)、(ロ)共ニ支那側ノ宣伝ニシテ外国人中之ヲ真面目ニ取ルモノ無シト言ヒ居タリ

四、独逸、二十八日独逸参事官ニ対シ支那側ハ列国ノ干渉ヲ誘致スル為日本軍ヲ関内ニ誘導スル策ヲ樹テ居ルヤニ聞ク処如何ト問ヒタルニ同参事官ハ自分ノ承知スル処ニテハ斯ル計画無シ支那側ノ立場ニナリテ考フレハ右計画ハ大ナル危険ヲ含ム何トナレハ干渉スルヤ否ヤ不明ナル外国ヲ頼リテ直接身ニ損害ノ及フヘキ策ナレハナリト言ヒ又蔣介石ノ雑軍整理ニ関シ同参事官ハ蔣カ将来汪精衛ト対抗スル場合援助ヲ受ケサルヲ得サル旧東北軍等ヲ整理スルハ自己ノ力ヲ自ラ減殺スルニ等シキ愚策ナリト述ヘ居タリ

五、和蘭公使南下前何応欽ト会見シタル節通訳ヲ為シタルモノノ談ニ依レハ何ハ同公使ニ対シ日本軍カ関内ニ侵入スヘシトカ三ケ師団ヲ満州ニ増派スヘシトカノ説ハ凡テ支那側ノ宣伝ニシテ日本ハ関内ニ侵入スル意思無シト思考スル旨ヲ語レル由

六、二十九日新任丁抹公使ヲ往訪ノ節(ハ)ノ点ヲ尋ネタルニ

同公使ハ外国側ハ連盟ニ代表セラレ居リ日支問題ハ連盟ニテ何トカ結末ヲ付クル責任アルヘク各国ハ夫ト離レテ単独ニ本問題ニ介入スルコトヲ得サルヘシト言ヘリ

支、満ヘ転電セリ

106　昭和8年4月10日　在ソ連邦大田大使より内田外務大臣宛（電報）

羅外交部長による日中直接交渉開始説に関するイズヴェスチヤ報道について

モスクワ　4月10日後発
本　省　4月11日前着

第一八八号

十日「イズヴェスチヤ」ハ九日伯林発「タス」トシテ同日ノ「テーグリッヘ・ルンドシャウ」ノ報道セル左ノ如キ意味ノ記事ヲ掲ケタリ

極メテ確カナル筋ヨリ探知スル処ニ依レハ羅文幹ハ軍事行動継続中ナルニ拘ラス上海ニ於テ日本代表ト日支直接正式交渉問題ノ商議ニ入リタル趣ナルカ会談ノ内容ハ厳秘ニ付セラレ判明セス而シテ本社通信ニ依レハ羅ハ

(一)日本カ直接交渉開始ノ「イニシアテイヴ」ヲ取ルコト及

(二)支那カ日満間ニ締結セラレタル各種条約及協定、日本軍隊ノ満州駐屯権並満州ノ完全独立保障ニ関スル協定ヲ締結スル権利等ヲ全部承認スル代リニ日本ハ支那ノ満州ニ於ケル宗主権及支那海関国境問題ノ特殊調整ヲ認ムルコト

ヲ条件トシテ南京政府ハ満州組織ニ同意スル旨ヲ日本側ニ申入レタルモ日本側ハ之ヲ峻拒シ満州国ノ独立ヲ固執セリ

茲ニ於テ南京政府ハ新タニ羅ヲシテ支那側ハ今後満州問題ニ触レサルコトトシ事実上満州ニ対スル宗主権ヲ抛棄スル代償トシテ日本カ治外法権（特ニ北清事変議定書ニ基ク特定権利ヲ指スモノノ如シ）及支那内地河川航行権ヲ抛棄セラレ度旨提案セリ該提案ハ目下東京ニ於テ研究中ナルカ恐ラク正式交渉ノ基礎タリ得可ク右ハ南京政府ノ日本ニ対スル完全ナル降伏ヲ意味スルモノナリ

107　昭和8年4月11日　在九江西田（長康）領事館事務代理より内田外務大臣宛（電報）

剿匪は抗日より先行するとの蔣介石演説について

九江　4月11日後発
本省　4月12日前着

第四五号

先般来南昌各界有志ヨリ蔣介石ニ対シ抗日及剿匪ニ関スル意見ヲ吐露センコトヲ懇請中ナリシ処蔣ハ昨十日各界有志及劉峙、楊虎城、朱紹良其ノ他目下南昌ニ滞在中ノ要人等約千名ヲ省党部大礼堂ニ招致シ概要左ノ如キ演説ヲ為シタル趣ナリ

剿匪ハ恐ラク抗日ヨリ先ニセサルヘカラス歴史ニ徴スルモ国内安定セスシテ攘夷ニ成功セル事例ナシ故ニ予ハ剿匪各部隊ニ対シ匪軍ヲ粛正セサレハ断シテ抗日ヲ云為スヘカラス若シ違反者アレハ重罪ニ処スヘキ旨厳命セリ党政各界ノ同志願クハ一心協力以テ短期間内ニ共匪掃蕩ノ大業ヲ完結センコトヲ云々

支ヨリ上海ヘ転報アリ度シ

支、満、北平、漢口、南京ヘ転電セリ

108　昭和8年4月13日　在広東吉田総領事代理より内田外務大臣宛（電報）

日本の撤兵、武力行動中止なき限り直接交渉困難との李済深談話について

広東　4月13日後発
本省　4月13日後着

第二一五号（暗）

本官[1]十二日香港ニ李済深ヲ往訪二時間ニ亘リ会談セル処李ハ極メテ慎重ノ態度ヲ持シ多ク語ラサリシカ其ノ談話要領御参考迄左ノ通（尚新聞ハ李ハ広西当局ノ懇請ニ応シ墓参ヲ兼ネ目下帰省中ニシテ当分広西ニ滞在スル旨伝ヘ居ルモ李ハ本官ニ対シ健康勝レサルヲ以テ（糖尿病ノ由）当分出掛ケラレス其ノ中帰省ノ所存ナル旨語リ居タリ）

一、劈頭李ハ「日支関係改善ノ途如何」ト切出シタルニ依リ本官ハ「日本ハ何人ヲ相手ニ話合ヲ進ム可キヤ昨今蔣介石カ日本ト何等交渉ノ意図有ル旨伝ヘラレタルノミナルニ早クモ西南方面ハ俄然反対ノ声ヲ放チ同志ヲ糾合シテ反蔣運動ヲ企テツツ有リ日本ハ真ニ両国関係ノ復旧ヲ翹望スト雖モ内部意見ノ交錯ヲ極ムル現下ノ支那ノ如キ実情ニ於テハ如何トモ致方無ク両国関係ノ改善ヲ図ラントセハ先ツ支那内部ノ統一コソ先決問題ナル可キ旨」述ヘタルニ李ハ蓋シ個人間ノ関係ニ於テモ一方カ強力ヲ以テ他方ヲ圧迫シツツ何等問題解決ノ途ヲ見出サントスルモ之ハ拠リテ魚ヲ求ムルノ類ニシテ今日支関係ヲ真ニ改善セントセハ先ツ日本ハ国内文治派ノ主張ヲ取入レ武断派ノ侵略思想ヲ排スルノ要有ル可シ支那民族ニハ「瓦全ヨリモ寧ロ玉砕ヲ欲スル」一種ノ特質有ル故斯ル観念ノ激発ヲ消失セシムルニ足ル実際上ノ環境ヲ日本側カ造成サレサル限リ両国[2]関係調整ノ端緒ハ之ヲ見出タスコト困難ナリト信スル旨ヲ答ヘタリ依テ本官ハ今次日支紛争ノ遠因及近因ヲ詳述シ満州ニ於ケル日本ノ行動ハ日清戦争以来幾度カ国運ヲ賭シテ外国勢力ノ東洋進出ヲ防止シ東洋ノ平和維持ヲ眼目トシタル次第ヲ語リ支那ノ「以夷征夷」政策カ如何ニ支那ヲ毒シタルカヲ述ヘ要スルニ日本ヲ以テ侵略国家呼ハワリヲスルコトノ謂レナキ所以ヲ諄々説キタルモ李ハ依然トシテ承服セサルモノノ如ク前言ヲ繰返シ居タリ

二、次テ本官ハ現下支那ノ最大問題ハ支那ノ統一事業就中共産党ノ粛正ニアルヘキ旨述ヘタル処李ハ「支那共産党ノ如キハ怖ルルニ足ラス之ヲ問題トシ居ルハ外国人殊ニ日本人ニシテ支那人自身ハ左シタル関心ヲ持タス仮令彼等一味ニ支那ノ政権ヲ把握セシメタリトスルモ共産党ノ政治ハ伝フル如ク非道ナルモノニアラス且支那ノ支那タル所以ニ毫末モ影響ナカルヘク（此点李ハ支那共産党ハ単ニ現政権ニ対シテ慊焉タル徒輩ノ集団ナリト見居ルモノノ如ク察セラレタリ）而シテ共産党ノ跋扈ト云ヒ土匪ノ跳梁ト云フモ之レ謂ハハ支那ノ家庭内ノ一小事ニ過キス夫レヨリモ支那国民ノ関心ハ一ニ係テ日本ノ武力行動ニアリ」トテ自暴的言辞ヲ弄シタルヲ以テ本官ハ赤露ニ於ケル二三卑近ノ実例ヲ挙ケテ共産政治ノ何モノタルカヲ説明シ今ヤ北方ヨリノ共産宣伝ニ対シ最モ有力ナル緩衝地帯タルヘキ満州国存立ノ儼然タル事実ニ対シ支[3]那カ徒ニ憤慨シ居ルハ短見モ極マルト評スルノ外無キ旨述ヘ置キタリ

三、右ニ対シ李ハ「御説ノ如ク日支関係ノ改善延イテハ東洋和平ノ招来ハ自分等ノ大イニ望ム処ナリト雖モ現況ニ於テハ極メテ困難ナリ自分ノ信スル処ニ依レハ此ノ儘ニテ進マンカ支那ハ何時迄モ抵抗ヲ試ム可ク右ハ勿論支那ノ財政其他ヲ極端ニ逼迫セシム可キモ国家ノ面目上四億ノ民ヲ総動員シ広大ナル土地ニ生産スル物資ヲ利用シ得

ル限リ之ヲ利用シツツ支那ハ強権ニ抵抗スル覚悟有リ而シテ斯ル状況カ永続スルニ於テハ日本亦結局不幸ヲ見ル可ク更ニ列強ハ日本ノ国際条約無視云々ヲ以テ或程度迄日本ノ行動ヲ牽制スルモノト思ハル之ヲ要スルニ日本ニシテ占領地ヨリ兵ヲ撤シ武力行動ヲ止メサル以上両国間ニ談合ノ緒口ヲ見出シ得サルモノト思考ス」ト語リ居タリ

四、以上ハ失意ノ境ニ在ル不平政客ノ常套語トモ称シ得可キモ其余リニ捨鉢的ニシテ強気ナルヨリ察スルニ或ハ李ハ英国辺リヨリ相当操ラレ居ルニハ非スヤトモ察セラルル節無キニ非ス

五、尚李ハ徐景唐ハ福州ニ赴ケル旨語リ居タルカ新聞ハ徐ハ李ノ旨ヲ受ケ十九路軍ト連絡ノ為赴閩セル由伝ヘ居レリ

支、北平、奉天、満、天津、南京、漢口、福州ヘ転電セリ

支ヨリ上海ヘ転報アリ度シ

香港ヘ転報セリ

109 昭和8年4月17日　在天津桑島総領事より内田外務大臣宛（電報）

日本の対満態度不変との芳沢前外相談話について

天津　4月17日後発
本省　4月17日後着

第二二六号（暗）

当地主要支那新聞ハ予テヨリ芳沢（謙吉）氏カ一私人トシテノ旅行ナリト雖従来ノ経歴等ニ鑑ミ此ノ機会ニ支那側要人ハ進ンテ同氏ニ会見シ日支関係改善ノ為意見ノ交換ヲ試ムヘキモノナリトシ上海方面要人カ同氏トノ会見ヲ回避セルヲ攻撃シ居リタルカ同氏カ去ル十三日夕来津十五日未明出発迄ノ間ハ同氏カ北平時代ノ知己タリシ総理乃至総長等多数在野ノ重要政客ヨリ進ンテ会見ヲ求メラレ之カ応酬ニ相当多忙ヲ極メタリ而シテ同氏ハ之等要人ニ対シ一己ノ私見トシテ日本ノ満州ニ対スル態度ハ挙国一致ノモノニシテ何物ト雖之ヲ動カシ得サルコト真ニ磐石ノ如シト強調シ日支関係改善ニ関シテハ支那側ニ於テ右ノ事情ヲ能ク諒解セサル限リ不可能ニテ現在ノ支那側ノ態度ニテハ暫ク成行ニ委スヨリ外無ク今日日支直接交渉等思モ寄ラサルコトナリトノ一貫セル意見ヲ述ヘタル処右要人中ニハ同氏ノ如キ人ヨリ斯ル

強硬ナル意見ヲ聞キ失望セリト洩ラセル者アリ

支、北平、満ヘ転電セリ

110 昭和8年4月24日　在北平中山書記官より内田外務大臣宛（電報）

天津政局の動揺に関する危道豊等の情報について

北平　4月24日後発
本省　4月24日後着

第一八二号（暗、極秘）

往電[1]第一八〇号ニ関シ

廿三日危道豊(a)祝惺元(b)夫々天津ヨリ帰来セル趣ヲ以テ原田ヲ来訪シ

(a)

目下天津ニ於ケル時局匡救ニ伴フ反蔣空気ハ頓ニ醞醸シ即チ于学忠、孫伝芳、宋哲元、孫殿英、韓復榘（代表）、閻錫山（代表）等ノ実力派結束シ第一通電ニ於テ蔣介石ニ対シ対日宣戦布告ヲ要求シ（蔣カ之ヲ容レサルヲ見越シ）第二通電ニ於テ既ニ宣戦シ得サルニ於テハ寧ロ之ト和スヘシト主張シ同時ニ国防委員会ヲ組織シ日本軍ト停戦妥協シ平津ノ不安ヲ除キタル上適当ノ行政機関ヲ設置シ北方人自ラ北方ヲ治メントスル計画ニテ右ニハ広東派トモ連絡アリテ目下北上中ノ陳中孚第二ノ李鴻章トシテ日本側トノ折衝ニ当ル筈依テ右計画折角進捗中ニ付日本側ニ於テモ右新事態ノ発展ヲ暫ク静観セラレ平津ニ兵ヲ進メ折角好転セントスル時局ノ動キニ障碍ヲ与ヘラレサル様致シ度シ

(b)[2]

二十二日潘復ノ招キニ応シ赴津シタル処潘ノ伝言トシテ今ヤ北方ハ何応欽ニ任シ得サル形勢ニ迫ラレ局面転換ノ機運近付キツツアリ即チ第一歩トシテ河北全省各人民団体ハ一致蹶起シ日支両国政府ニ対シ停戦ヲ要求シ同時ニ日本軍ハ長城線ヘ支那軍ハ天津付近ヘ撤退シ其間ヲ中立地域トナサンコトヲ提議シ第二歩ニ於テ南京政府ニ対シ日支直接交渉並国民党ノ人民圧迫ニ対スル秕政ヲ挙ケ国民大会開催国民政府改組等ヲ要求スル段取ニテ右ニハ北方実力派モ勿論加入シ居レルカ表面ニ立タス飽迄人民ノ名ヲ以テ当ル筈ニテ其変化ノ模様ニ依リテハ北方政府樹立ノコトトナルヤモ知レス云々

右両者ヨリ本官ヘ伝達方極秘ニ申入来レリ右ハ往電第一八

○号ノ系統トハ異リ天津方面ノ策謀ニテ反蔣系統ニテb
(脱)直隷派中心ナルカ如シ
支、満ニ転電セリ

111

昭和8年4月25日　在上海有吉公使より内田外務大臣宛（電報）

河北の現況および蔣・宋関係等に関する許卓然の談話について

上海　4月25日後発
本省　4月25日後着

第二二二号（暗）

二十四日許卓然ノ[1]有野ニ為セル談話中御参考迄左ノ通リ
（出所及一、三、四ノ点極秘扱ニセラレタシ）

一、黄郛ハ先日来汪精衛ヨリ二回招電ヲ受ケ更ニ張群ハ態態迎ヘニ来リタル為張ト同道二十二日秘密裡ニ入京セルカ出発前黄カ自分（許）ニ語ル処ニ依レハ河北ノ政局ニ関連セル対日政策等ニ関シ中央ニテ黄ノ意見ヲ徴セン為ナル由

二、河北ノ現状ハ各将領ニ対シ何応欽ノ命令行ハレス北上中ノ中央軍モ蔣介石ノ命令ハ受クルモ何ニ於テ直接指揮シ得サル状態ナル外最近反蔣及国民党反対ノ不平分子ノ策動盛ニ行ハレ約一週間前ニハ北平市内ノ路傍ニテ公然反蔣及反党ノ伝単撒布サレタル有様ニテ事態ハ相当急迫シ居リ三日前ニハ北平ノ銀行家、実業家及穏健ナル政客等連名ニテ此ノ際段祺瑞ニ何等カノ名策ヲ与ヘ北方政局ノ収拾ニ当ラシム可シトノ勧告電報中央ニ到達セル由ナリ

三、段祺瑞自身ハ目下別段活動ノ意思無キ処其ノ部下ハ二派ニ分レ曹汝霖（先般来滬シ目下田舎ニ旅行中）呉光新等ハ蔣介石ト連絡ノ上段ヲ北方ニ据エントシ李思浩及曾毓雋一派ハ中央ト離レ河北ニ一政権ヲ樹テント計画シツツ有リ此ノ外孫伝芳カ旧張学良部下ノ不平分子ヲ引入レ五色旗時代ノ共和国建設ヲ計ラントスル運動可成リ露骨ト為リ来レル模様ナリ

四、[2]宋子文ト蔣介石トノ関係ハ近来余リ円満ナラス其原因ハ

(一)熱河攻略ノ際蔣ハ消極主義ナリシニ反シ宋ハ自ラ熱河迄モ出カケ又税警団三千ヲ動員シ学良外北方将領ニ対シ無暗ニ抗日気勢ヲ煽リ却テ不結果ヲ来シタルコト

(二)近来蔣ハ軍費三百万元ノ増額ヲ要求セルニ対シ宋ハ是迄ノ如ク之ニ応セス逆ニ一般軍費ノ支出内訳表ヲ要求セル等昔日ノ如ク従順ナラサルコト

(三)宋ノ組織セル税警団（本部海州）ハ目下三万ニ達シ其給与武器及訓練等ノ完備セルコト蔣ノ軍隊モ及ハス宋カ何等カ野心アル様見ラレ居ルコト

等重要ナル点ナリ尤モ両人ノ間柄ハ絶対ニ離レ得サル関係ニアルヲ以テ右ヲ以テ両者カ直ニ反目スルト見ルハ早計ナリ

五、宋ノ渡米ハ自身余リ乗気セス又蔣及中央トノ打合セモ充分ナラス宋カ米国ニ対シ借款相談ヲ為スヘシトノ説アルモ宋ハ最近米国トノ借款交渉ニハ可成リ愛想ヲツカシ居ルニ付右ハ恐ラク事実ナラサルヘク只北平ヨリ上海ニ輸送ノ古物類ヲ抵当ニ花旗銀行ヨリノ二千万元借款説ハ実現ノ可能性多シト一般ニ注意シ居レリ

満、北平、南京、済南、青島、漢口、広東、福州、天津ヘ転電シ、上海ヘ転報セリ

112

昭和8年4月27日　在上海有吉公使より内田外務大臣宛（電報）

親日的北方政府樹立運動に関する陳中孚の談話について

上海　4月27日後発
本省　4月27日後着

第二二七号（暗）

往電第二〇七号ニ関シ

二十六日陳中孚ノ須磨ニ対スル談話前電補足旁大要左ノ通

学良下野ト共ニ東北軍ノ大半ハ于学忠ノ指揮ニ服スルコトトナレルカ于ハ蔣介石派ノ切崩ヲ防ク為早速麾下将領ヲ集メ一致団結ヲ決議シタルモ其ノ後日本軍及蔣介石側ヨリノ圧迫増加スルニ連レ此ノ儘ニテハ東北軍ハ結局四散スルノ外無キヲ見越シ旧西北軍ト合作シ陳等ノ北方政府樹立運動ニ加盟スルコトトナレリ本運動ニ対シテハ馮、閻、韓復榘、宋哲元（宋ハ表面上ハ今尚蔣ト連絡シ居ル由）等何レモ賛成ナルカ唯馮ニ軍権ヲ委スコトニ関シテハ旧西北軍中ニ反対多キ為当分韓ヲ以テ軍事上ノ指揮者ト為スコトニ内定シ居ルモ結局ハ馮カ中心勢力トナルヘシ一方西南ニ於テモ茲一ヶ月中ニハ五省連合軍ノ湖南進出（蔣ハ陳済棠ニ対シ江南ノ共匪討伐方督促シ居ルモ西南派ハ共匪トノ衝突ヲ

避クル為湖南経由武漢ニ出ツル筈）ヲ見ル予定ナルカ最近ハ前記将領ニ於テモ何レモ北支ノ急迫セル現状ハ到底西南軍ノ北上ヲ荏苒待望シ得サルヲ自覚スルニ至レルヲ以テ自分ハ一両日中ニ韓ノ許ニ赴キ北方政府ノ急速実現方画策スル考ナルカ本運動ノ成否ハ一ニ懸リテ日本軍ノ平津地方不侵略ニアレハ自分ハ済南ヨリ更ニ渡満シ右ノ点ニ関スル日本軍側ノ意向ヲ確ムル積リナル処日本軍側トシテモ本運動ノ趣旨カ北支ニ親日的政府ヲ樹立シ該地ノ治安ヲ維持セントスルモノナルニ鑑ミ満州国ノ急速承認等困難ナル条件ヲ提示セスアツサリト平津地方不侵略ノ内諾ヲ与ヘラルルト共ニ暫ク本運動ノ推移ヲ傍観セラレンコトヲ切望ス右日本側意向判明ノ上ハ愈河北、山東、山西、河南（劉峙ノ部下中ニハ賛成者相当アル由）ヲ地盤トスル北方政府（前記将領ヲ中心トスル委員制）ノ成立ヲ見ルコトトナルヘク同政府ノ政見ハ未タ確定シ居ラス大体三民主義ヲ骨子トスヘキハ今日ノ処已ムヲ得サルヘキモ現在ノ党部組織国民党ノ排日政策等ニハ大反対ナリ

満、北平、天津、南京、広東、青島、済南、香港ヘ転電シ上海ヘ転報セリ

113　昭和8年5月11日　在広東吉田総領事代理より内田外務大臣宛（電報）

蔣介石の対日交渉開始説に関する陳友仁の談話について

広東　5月11日後発
本省　5月11日後着

第二六八号（暗）

往電第二六七号ニ関シ

十日陳友仁ハ本官ニ対シ日支紛争ニ関シ「日本ニ於テ軍閥カ勢威ヲ振ヒ居ル限リ日支間ノ問題解決ハ到底困難ト謂フノ外ナク且現状ニ於テ満州国ノ承認ヲ迫ラルルモ中国側ハ之ヲ受諾スルコト絶対ニナカルヘシ」トテ頗ル悲観説ヲ述ヘ尚「坊間宋子文ハ倫敦ニ於テ石井子爵ト何等直接交渉ノ腹ヲ以テ渡欧セリト伝フルモ最近上海ヨリノ情報ニ依レハ蔣介石ハ既ニ日本参謀本部一員ト密ニ交渉ヲ開始セル由ナリ蔣ト謂ヒ参謀本部ト謂ヒ到底充分ナル信ヲ置クニ足ラサル人人ナレハ仮令交渉ノ成立シタリトスルモ之ヲ以テ完全ナル実行ヲ見ルハ難ク従テ大局ヨリ観テ将来ノ事態ハ却テ悪化ノ惧アリ即チ蔣トノ交渉ハ禍根ヲ将来ニ残ス以外何物モナシ交渉ハ須ク蔣ノ如キ御先棒ノ輩ヲ相手トセス日本側モ亦「リベラル」ナル頭脳ノ所有者タラサルヘカラス云云」ト語リ居タリ

冒頭往電ノ通転電転報セリ

支ヨリ上海ヘ、青島ヨリ済南ヘ転報アリタシ